

棚卸勘定			仕入勘定		
8,000.-	(1)	8,000.-	35,000.-		500.-
(2) 6,500.-		残 6,500.-	1,200.-	(2)	6,500.-
繰越 6,500.-			(1) 8,000.-	(3)	37,200.-

賣上勘定			損益勘定		
1,400.-		45,000.-		(4)	5,800.-
600.-					
(3) 37,200.-					
(4) 5,800.-					

18 某商店に於て12月11日夜火災を起し其の在庫品全部焼失せり。次の要項に基き、

(イ)必要なる修正仕譯を行ひ、且つ、(ロ)修正後の元帳に於ける仕入勘定及び賣上勘定を示し、更に、(ハ)商品焼失に因る同店の損害計算書を作成せよ。

要項

- (1) 7月1日に於ける商品在高 ¥50,000.-
- (2) 7月1日より12月11日までの帳簿上に於ける仕入高 ¥175,000.-
- (3) 7月1日より12月11日までの帳簿上に於ける賣上高 ¥250,000.-
- (4) 總て賣上高には原價の25%の利益を含む。
- (5) 12月11日得意先より到着の返送品にして記帳未済高 ¥1,500.-
- (6) 同日仕入先より到着の商品記帳未済高 ¥1,000.-
- (7) 12月10日及び11日に互り賣上記帳済なるも未だ發送の運びに至らず猶在庫せしものと認むべき高 ¥1,200.-

(8) 12月11日仕入先へ返戻したる商品にして記帳未済高 ¥500.-

(9) 豫て仕入先へ返戻せし旨記帳済なるも現品は未だ發送の運びに至らず同日猶在庫せしものと認むべき高 ¥750.-

(名古屋、昭和2年度より。)

(イ)	(5)の仕譯	賣上	1,500.-	賣掛金	1,500.-
	(6)	仕入	1,000.-	買掛金	1,000.-
	(7)	賣上	1,200.-	賣掛金	1,200.-
	(8)	買掛金	500.-	仕入	500.-
	(9)	仕入	750.-	買掛金	750.-

(ロ)

仕入		賣上	
175,000.-	500.-	1,500.-	250,000.-
1,000.-		1,200.-	
750.-			
(ハ) 純仕入高			176,250.-
期首有高			50,000.-
			226,250.-
純賣上高	247,300.-		
賣買利益 25%	49,460.-		
賣上原價	197,840.-		197,840.-
焼失損害高			28,410.-

### 第三章 商品賣買に伴ふ貸借の勘定

#### 要約

- 一 人名勘定
- 二 賣掛金勘定,買掛金勘定<sup>(9)</sup>  
掛貸金又は得意先勘定—掛借金又は仕入先勘定—統轄勘定—補助元帳(Subsidiary Ledger)との關係
- 三 諸向借勘定,諸向貸勘定<sup>(10)</sup>  
取引先との貸借の處理—補助元帳との關係—諸向借と諸向貸とを區別する方法—取引先勘定
- 四 商品切手勘定<sup>(11)</sup>
- 五 受取手形勘定,支拂手形勘定<sup>(12)</sup>
- 六 不渡手形勘定<sup>(13)</sup>  
手形の不渡—償還請求—拒絶證書作成費—延滞利息
- 七 貸倒金勘定<sup>(14)</sup>
- 八 貸倒準備金勘定<sup>(15)(16)</sup>  
貸倒損失の見積—評價勘定—その意味

(9) 問題 1 及び 3—5

(10) 問題 6—10

(11) 問題 11

(12) 手形を裏書譲渡したときに起る償還請求に應ずる義務及び保證債務については「追加問題」16—18 を看よ。

(13) 問題 12—13

(14) 問題 14

(15) 問題 2, 15, 及び「追加問題」19, 第九章の「追加問題」26 (235頁)参照。

(16) 月賦販賣については「追加問題」20 を看よ。

#### 問題

- 1 統轄勘定とは何か。又補助元帳との關係如何。

下巻 17 頁を看よ。

- 2 評價勘定の例を擧げて説明せよ。<sup>(17)</sup>

下巻 22 頁を看よ。

次の取引(3)—(5)を賣掛金買掛金の勘定にて仕譯せよ。

- 3 甲商店より商品 3,000 圓を掛にて買入る。

仕 入 3,000.— 買 掛 金 3,000.—

- 4 乙商店へ商品 2,000 圓を掛にて賣渡す。

賣 掛 金 2,000.— 賣 上 2,000.—

- 5 乙商店宛爲替手形 2,000 圓を振出し,甲商店に交附す。

買 掛 金 2,000.— 賣 掛 金 2,000.—

次の丙商店との取引(6)—(10)を諸向借諸向貸の勘定にて仕譯せよ。<sup>(18)</sup>

(17) 評價勘定は「主たる勘定」に對する「從たる勘定」であつて、主たる勘定の帳簿價額を差引くことを示す場合には「相殺勘定」(Off-Set account)又は消極的評價勘定と云はれる。貸倒準備金勘定はその一例である。若し評價勘定が主たる勘定の金額を増加することを示すときは、これを「添加勘定」(Adjunct account)又は積極的評價勘定と云ふ。社債の打歩 (Premium on Bond) はその一例である。

(18) 丙商店の口座は次の通り。

丙 商 店					
(6)		1,000	00	貸	1,000 00
(7)	950	00		借	50 00
(8)	100	00		借	50 00
(9)	500	00		借	550 00
(10)		1,200	00	貸	650 00

- 6 丙商店より商品1,000圓を掛にて買入。  
仕 入 1,000.— 諸 向 貸 1,000.—
- 7 丙商店振出當店宛爲替手形 950圓の引受をなす。  
諸 向 貸 950.— 支 拂 手 形 950.—
- 8 丙商店へ商品の一部 100圓を返送す。  
諸 向 貸 50.— 仕 入 100.—  
諸 向 借 50.—
- 9 丙商店へ商品 500圓を掛にて賣渡す。  
諸 向 借 500.— 賣 上 500.—
- 10 丙商店より掛にて商品1,200圓を買入。  
仕 入 1,200.— 諸 向 借 550.—  
諸 向 貸 650.—

次の取引(11)―(15)を仕譯せよ。

- 11 商品切手 100圓を發行して現金受取る。  
現 金 100.— 商 品 切 手 100.—
- 12 銀行にて割引せる丁商店引受爲替手形不渡の爲め銀行より償還請求を受け、2,002圓小切手にて支拂ふ。  
不 渡 手 形 2,002.— 當 座 預 金 2,002.—
- 13 上記手形の振出人戊商店に償還請求をなし、利子3圓を添へて2,005圓現金にて受取る。  
現 金 2,005.— 不 渡 手 形 2,002.—  
利 子 3.—
- 14 A商店への賣掛金残額 500圓同收不能につき損失とす。但し貸倒準備金残 650圓あり。尙ほ貸倒準備金残 450圓の場合如何。  
貸 倒 準 備 金 500.— 賣 掛 金 500.—  
若し貸倒準備金の残が450圓なれば  
貸 倒 準 備 金 450.— 賣 掛 金 500.—  
貸 倒 金 50.—

- 15 決算に於て、貸倒損失1,000圓を見積り準備金を設く。但し、貸倒準備金の残50圓あり。  
貸 倒 金 950.— 貸 倒 準 備 金 950.—

### 追加問題

- 16 手形の裏書による償還義務の処理法を問ふ。

手形を裏書譲渡したときは、若し手形の支拂人が満期日に到つて手形金額を支拂はないならば、これを支拂はねばならない義務がある。この義務は支拂人の支拂拒絶といふ將來の偶發的な事實に係つてゐるから、これは偶發債務 (Contingent liability) の一つである。

この偶發債務を仕譯處理するには裏書義務を示す勘定とその對照勘定 (Per Contra account) とを設けるのである。例へば受取手形 1,000圓を商品買入代金として裏書譲渡した場合の仕譯は

商 品 1,000.— 受 取 手 形 1,000.—

及び

裏書義務見返 1,000.— 裏書義務<sup>(19)</sup> 1,000.—

となる。この「裏書義務勘定」が裏書譲渡による偶發債務を示し「裏書義務見返勘定」がその對照勘定である。

次に満期日を過ぎて數日に及ぶも何等償還請求に接しないときは、裏書義務は消滅したのであるから、次

(19) Krebs; Outlines of Accounting に依れば、この仕譯に當るものとして次の仕譯がある。

Discounted Note Receivable..... x x

Note Receivable Discount. d..... x x

又、爲替手形の振出に伴ふ償還義務を示すに

Outstanding Drafts Drawn..... x x

Liabilities as Drawer..... x x

の仕譯をなし、保證債務の場合には次の如き仕譯を掲げてゐる。

Accommodation Indorsement Dr..... x x

Accommodation Indors:ment Cr..... x x

の仕譯によつてこれを消すのである。

裏書義務 1,000.- 裏書義務見返 1,000.-

手形を銀行にて割引した場合の裏書義務を示すに「割引手形勘定」を用ひることがある。この勘定は手形割引の裏書義務を示すと同時に受取手形勘定の評價勘定、即ち受取手形の割引されて手許になく、従つて受取手形勘定からそれだけ差引かるべきことを示す勘定である。例へば受取手形 1,000 圓を銀行にて割引し割引料 10 圓を差引いて手取金を當座預金とすれば、

當座預金 990.- 割引手形 1,000.-  
割引料 10.-

の仕譯となり、満期日を過ぎて數日に及ぶときは  
割引手形 1,000.- 受取手形 1,000.-  
の仕譯となる。

尙ほ、偶發債務を貸借對照表に表示する方法には二つある。その一は偶發債務を示す勘定とその對照勘定とを共に貸借對照表の借方と貸方とに掲げる方法であつて、その二は貸借對照表の欄外に偶發債務のあることを註記するか又は單に摘要欄内の金額欄に掲げる方法である。割引手形勘定を用ひた場合には、他の評價勘定と同様に、その主たる勘定、即ち受取手形勘定から差引いて(摘要欄内の金額欄に於て)表示する。

- 17 甲商店より商品 2,000 圓を買入れ乙商店の振出したる爲替手形額面 2,000 圓を裏書交附したるとき、當方の償還義務を記帳(Bills. Rec. Discounted %) しおきたり。其の後該手形不渡となりたりとて甲商店より利子・費用等 18 圓を加へて償還の請求をなし來れり。この仕譯如何。

(長崎、昭和 6 年度より)

手形を裏書譲渡したときに割引手形勘定を用ひて、  
商 品 2,000.- 割引手形 2,000.-

の仕譯がなされてゐるから、償還請求を受けたときに割引手形勘定を消し去る仕譯と、不渡手形に關する仕譯とを必要とする。即ち、次の如くである。

割引手形 2,000.- 受取手形 2,000.-  
及び

不渡手形 2,018.- 現金 2,018.-  
但し、償還請求額は現金拂と假定する。

- 18 保證債務の處理法を問ふ。(問題 16 參照)

他人の借金に對してその辨済を保證した場合には所謂偶發債務を生ずること、手形の裏書譲渡の場合と同じである。即ち、借主が借入金を辨済し得ない場合には、これを支拂ねばならないといふ債務を生ずるのであるが、これを處理するには二つの方法がある。一は仕譯せず、唯記録にとゞめ置いて貸借對照表の欄外にその旨を附記する方法、他は仕譯によつてこれを表示する方法である。仕譯をするときは次の如し。

保證債務見返 1,000.- 保證債務 1,000.-

而して保證の事實が止んだ時その反對の仕譯を行ふ。

- 19 某商店にて掛賣代金の内貸倒れ分として 2,480 圓を滞貸準備金<sup>(20)</sup>にて全部整理せしに其の後借主の財産處分の結果 500 圓は現金にて取立て 240 圓は額面 300 圓の四分利公債證書にて受取りたり。

(20) 「滞貸金勘定」(Doubtful Account Receivable) は賣掛金の内回収困難なるものを處理する勘定であつて、この評價勘定が「滞貸準備金勘定」である。賣掛金の内 1,000 圓の回収が困難となつたときは

滞貸金 1,000.- 賣掛金 1,000.-  
の仕譯にて滞貸金に振替へ、又滞貸金に對して 500 圓の準備金を設ければ、  
貸倒金 500.- 滞貸準備金 500.-  
の仕譯となる。

此の整理及び回収の顛末を仕譯せよ。(大倉、大正15年度より。)

(イ) 整理のとき

滞貨準備金	2,480.-	賣掛金	2,480.-
		(又は滞貨金)	

(ロ) 回収のとき

現金	500.-	雜損益	740.-
有價證券	240.-	(又は滞貨準備金)	

20 月賦販賣 (Instalment sales) の處理法を問ふ。

月賦販賣による賣掛金を回収するには多くの費用を要するのみならず、回収不能により損失を生ずる危険が大であるから、月賦販賣價格と原價との間には相當大きい差がつけてある。所でこの差、即ち月賦販賣による利益を何時利益として計上するかについては問題がある。普通に商品を賣渡した場合には商品を引渡し、計算書を作成したときに、商品の賣買損益が発生すると考へて記帳するのである。月賦販賣に於てもこれと同様に販賣のなされたときに利益を生ずるとして處理することが出来るが、上述の如く月賦販賣では販賣のなされた後、月賦金の取立に危険を伴ふのであるから、この方法は月賦販賣の利益を餘り早い時期に全部計上してしまふ嫌ひがある。又月賦金の支拂が完了したときに始めて月賦販賣の利益を全部計上する方法も考へられるが、これは前の方法とは反對に餘り遅い時期に月賦販賣の利益を計上する憾がある。そこで兩者の中間を行く方法、即ち月賦金を受入れたときにその金額に對應する利益を計上する方法が採られる。

例へば、原價50圓の商品を月賦金20圓にて5ヶ月拂込む約定にて賣渡したとすれば、月賦賣掛金は100圓であるから、利益歩合は50%となる。故に第一回の月賦

金20圓を受入れたときに、その50%、即ち10圓の月賦販賣利益を計上するのである。仕譯を以て示せば次のやうである。

月賦販賣をしたとき

月賦賣掛金	100.-	商品	50.-
		月賦販賣見積利益	50.-

次に第一回の月賦金を現金にて受取れば

現金	20.-	月賦賣掛金	20.-
----	------	-------	------

及び

月賦販賣見積利益	10.-	月賦販賣利益	10.-
----------	------	--------	------

この仕譯によつて第五回目の月賦金が支拂はれたときは「月賦賣掛金勘定」(Instalment Customers)及び「月賦販賣見積利益勘定」(Estimated Profit on Instalment Sales)は殘高が零となり「月賦販賣利益勘定」(Realized Profit on Instalment Sales)は貸方に50圓の殘高を生じ豫期の利益が全部實現したことを示すのである。

月賦金受入の途中、例へば第三回の月賦金が支拂はれた時に於ては月賦賣掛金は借方殘40圓で、月賦販賣見積利益は貸方殘20圓、月賦販賣利益は貸方殘30圓となり、この時に決算を行へば、前二者は貸借對照表に掲げられ、後者、即ち月賦販賣利益は損益表に計上される。

若し第四回の月賦金が取立不能となり、商品を取戻した時、その商品を10圓と評價すれば次の仕譯となる。

商品	10.-	月賦賣掛金	40.-
月賦販賣見積利益	20.-		
貸倒金	10.-		

上記仕譯で知れるやうに、月賦金取立不能となり月賦品を取戻したときに生ずる損失はその發生のときに貸倒損失として處理するのである。

## 第四章 委託賣買・組合賣買に伴ふ貸借の勘定

### 要約<sup>(21)</sup>

- 一 受託販賣品勘定
- 二 受託買附品勘定<sup>(22)</sup>
- 三 組合商品勘定<sup>(23)</sup>

### 問題

- 1 受託販賣品勘定・受託買附品勘定・組合商品勘定が人名勘定と異なる点を挙げよ。

受託販賣品勘定・受託買附品勘定・組合商品勘定は受託販賣・受託買附・組合賣買に伴ふ貸借を處理する勘定であつて人名勘定に似てはゐるが、受託賣買・組合賣買の進行中に於ける取引先との貸借を處理する勘定である點に於て異なる。即ち、取引先との貸借の内、特に受託賣買・組合賣買に伴つて起るものをその終了するまで一時的に記録せんが爲めに設ける勘定である。

- 2 委託賣買・組合賣買に伴ふ損益の勘定を挙げよ。

受託販賣に伴ふ損益の勘定としては、委託者の側では積送品賣買損益があり、受託者の側では手数料の収益、倉敷料、雜費等の損費の戻入があり、受託買附に於ては受託者の側に於て手数料の収益、倉敷料等の損費の戻入がある。

組合賣買に於ては組合商品損益の勘定があり、組合品の販賣又は買附に當る組合員にあつては手数料の収益、雜費等の損費の戻入がある。

(21) 問題 1—2

(22) 問題 3

(23) 問題 4

- 3 委託賣買の例を設けてその仕譯を示せ。

受託販賣の取引例及びその仕譯は次のやうである。  
(福島、昭和7年度より。)

2月10日 丸井絹織會社より次の通知あり。「鹽瀬羽二重 100疋及び優等富士絹 200疋を本日汽船便にて販賣委託の爲め積送す。羽二重は45圓替以上、富士絹は20圓替以上にて賣捌のこと、賣捌手数料は賣上價額の5%とす。尙ほ豫ての約束に基き、右積送品に對し第一銀行にて貴店宛來月15日限り5,000圓の荷爲替を取組む。」依て直ちに得意先へ店員を出張せしめて注文を取らしむ。

2月12日 第一銀行當地支店より丸井絹織會社振出荷爲替手形の呈示あり。依て之が引受をなし、同行よりB/Lの引渡を受く。

2月13日 右B/Lにて委託貨物を引取り、陸揚費及び運賃合計45圓を榮進運送店へ現金にて支拂ふ。

2月16日 得意先萬城商店へ丸井絹織會社委託品を次の通り賣渡し、引渡運賃諸掛15圓現金にて支拂ふ。代金は來月2日拂、萬城商店振出約束手形2,500圓及び三井銀行小切手にて受入れ、小切手は直ちに住友銀行へ當座預金となす。

鹽瀬羽二重 25疋 48圓替

優良富士絹 80疋 21圓替

2月25日 得意先岩井商店へ丸井絹織會社委託品を次の通り賣渡し、運賃諸掛16圓現金にて支拂ふ。代金は當店引受丸京羽二重會社荷爲替手形2,000圓を裏書讓受け、残額は同店振出4月2日限約束手形にて受取る。

鹽瀬羽二重 50疋 46圓替

優良富士絹 50疋 22圓替

2月28日 萬城商店より、去る16日賣渡したる商品の内取疵品として次の通り返送し來る。此の代金は同店振出約束手形代金受取の際差引くこととす。

鹽瀬羽二重 2疋

優良富士絹 5疋

尙ほ、戻り品は直ちに委託者へ轉送す。轉送運賃5圓現金にて支拂ふ。

3月8日 得意先藤村商店へ運賃同店持にて丸井絹織會社委託品の殘部を次の通り賣却す。代金として同店振出安田銀行宛一覽拂の爲替手形2,000圓を受取り、殘額は來月10日返掛とす。

鹽瀬羽二重 46圓替

優良富士絹 20圓替

3月9日 丸井絹織會社より委託品賣上金の内1,500圓至急送金依頼の旨來電に付き、先月岩井商店より受取りたる約束手形を住友銀行にて割引に附し、手取金に手許現金を加へ、同會社向1,500圓の電信爲替を取組む。割引日歩3錢、割引料は委託者負擔とす。爲替取組は無手数料。

3月10日 丸井絹織會社よりの委託品賣捌済に付き仕切精算書を作成郵送す。但し右委託品に係る火災保險料15圓、雜費9圓50錢を計算に入る。尙ほ、當店の賣捌手数料は戻り品を差引きたる純賣上額に對して計算するものとす。

仕譯

2月10日 不要

12日	受託販賣品	5,000.-	支拂手形	5,000.-
13日	受託販賣品	45.-	現金	45.-
16日	受取手形	2,500.-	受託販賣品	2,865.-
	當座預金	380.-	現金	15.-
25日	支拂手形	2,000.-	受託販賣品	3,384.-
	受取手形	1,400.-	現金	16.-
28日	受託販賣品	206.-	萬城商店	201.-
			(又は假受金)	
			現金	5.-
3月8日	現金	2,000.-	受託販賣品	2,550.-
	藤村商店	550.-		
9日	受託販賣品	1,510.50	受取手形	1,400.-
			現金	110.50
10日	受託販賣品	2,037.50	手数料	431.45
			保險料	15.-
			雜費	9.50
			丸井絹織會社	1,581.55

次に受託買附の取引例及びその仕譯を示さう。

(彥根、昭和7年度より。)

- (1) 甲地矢田商店より成行相場にて某商品の買附を委託され、その代金の内入として250圓の送金小切手を受取る。右買附手数料は買入代金の2%を貰ひ受け、買附、保管、發送及び保險に關する諸費用並に荷爲替取組みの場合の割引料は全部矢田商店負擔の約。
- (2) 矢田商店委託の買附品を2,500圓にて稻西商店より買入れ、此の代金として250圓は前記の送金小切手を交附し、殘額は江城銀行宛の小切手を振出し支拂を爲す。
- (3) 矢田商店へ上記の商品を發送し、運賃及び保險料合計40圓を江城銀行宛小切手を振出し支拂ふ。

- (4) 矢田商店へ買附計算書を送附す。その要項次の通り。但し倉敷料及び雑費は當店にて別に支拂ひたるもの内より計上したるものとす。

買入原價		¥ 2,500.00
諸 掛		
運賃及び保険料	¥ 40.00	
倉 敷 料	" 5.00	
雜 費	" 15.00	
手数料買入代金の2%"	50.00	" 110.00
		¥ 2,610.00
内入金差引		" 250.00
		¥ 2,360.00

- (5) 前記買附品に對し江城銀行にて荷爲替を取組み、割引料は日歩1錢9厘の割にて差引き、手取金を當店の當座預金に振込む。但し、割引料は矢田商店負擔の約につき後日送金を受くる筈。爲替手形金額2,360圓。  
支拂人 矢田商店。手形日附、昭和6年5月14日。  
支拂期日同年同月30日。手形割引日、同年同月15日。

仕 譯

(1) 現 金	250.-	受託買附品	250.-
(2) 受託買附品	2,500.-	現 金	250.-
		當座預金	2,250.-
(3) 受託買附品	40.-	當座預金	40.-
(4) 受託買附品	70.-	手 數 料	50.-
		倉 敷 料	5.-
		雜 費	15.-
(5) 當座預金	2,352.83	受託買附品	2,360.-
矢田商店	7.17		
(又は假拂金)			

4 組合賣買の例を設けてその仕譯を示せ。

組合賣買の取引例及びその仕譯は次のやうである。  
(臺北、昭和7年度より)

戊商店、己商店及び當店の三店、組合を結び、損益均等負擔の契約にて組合販賣をなす。

- (イ) 當店所有商品を己商店へ積送す。

商品代價 1,500圓

此の積送に係る運賃30圓は當店にて立替支拂ふ。

- (ロ) 當店は右積送品に對し、第一銀行にて荷爲替を取組む。手形金額1,200圓、割引料10圓80錢は當店にて負擔す。手取金は同行當座預金に振込む。

- (ハ) 己商店は右荷爲替手形の呈示を受けたるに依り、引受をなし、荷物を引取り、車力賃16圓50錢を支拂ふ。

- (ニ) 己商店は右商品を庚商店へ賣渡し、其の代金1,697圓を庚商店振出第三銀行宛小切手第十號にて受取る。

- (ホ) 組合商品賣捌濟に附、己商店は賣上計算書を作成し、當店及び戊商店へ手取金と共に送附す。當店は此の手取金を第一銀行當座附替を以て送金を受く。勘定書次の通り。

賣上代金		¥ 1,697.00
諸 掛		
車 力 賃	¥ 16.50	
賣上手數料	" 50.85	
諸 雜 費	" 20.60	" 87.95
		¥ 1,609.05
商品原價		" 1,530.00
純 利 益		¥ 79.05



三店各自利益所得高 ¥ 26.35

仕 譯

(イ) (當店の仕譯)			
組合商品	1,530.-	商 品	1,500.-
		現 金	30.-
(ロ) (當店の仕譯)			
當座預金	1,189.20	己 商 店	1,200.-
割 引 料	10.80		
(ハ) (己商店の仕譯)			
組合商品	1,216.50	支 拂 手 形	1,200.-
		現 金	16.50
(ニ) (己商店の仕譯)			
現 金	1,697.-	組 合 商 品	1,697.-
(ホ) (己商店の仕譯)			
組合商品	480.50	手 數 料	50.85
		雜 費	20.60
		組合商品損益	26.35
		當 座 預 金	382.70
(當店の仕譯)			
當座預金	356.35	組 合 商 品	1,530.00
己 商 店	1,200.00	組 合 商 品 損 益	26.35
(戊商店の仕譯)			
當座預金	26.35	組 合 商 品 損 益	26.35

## 第五章 其他の貸借・投資及現金の勘定

### 要 約

- 一 未收金勘定,未拂金勘定<sup>(24)</sup>
- 二 貸附金勘定,借入金勘定: 擔保品の處理方法
- 三 有價證券勘定<sup>(25)</sup>
- 四 出資金勘定<sup>(26)</sup>
- 五 預ヶ金勘定<sup>(27)</sup>: 定期預金その他の預金
- 六 當座預金勘定,當座借越勘定<sup>(28)</sup><sup>(29)</sup>  
    預金と借越との分離—その記入方法—便法
- 七 振替貯金勘定
- 八 現金勘定<sup>(30)</sup><sup>(31)</sup>
- 九 小口現金勘定<sup>(32)</sup>  
    小額支拂資金の前渡—前渡の二つの方法—一定額前渡  
    制度—小口現金記入帳

(24) 問題 1

(25) 問題 1, 4 及び 追加問題 11—12

(26) 問題 2 及び 追加問題 13

(27) 問題 3

(28) 勘定科目の計算内容を單一ならしめる立場から(下巻4頁, 當座預金(資産の勘定)と當座借越(負債の勘定)との二勘定に分つことが理論的には正しい方法である。

(29) 問題 7—10

(30) 現金取扱に起る不正を防止する爲めの Inter check system 及び, 現金過不足については「追加問題」14—15 を看よ。

(31) 発行日附が將來の日となつてゐる小切手, 即ち先附小切手は受取手形と同じ性質のものであるが, 便宜上現金として處理することが出来る。

(32) 問題 9

十 假拂金勘定,假受金勘定

十一 未決算勘定<sup>(33)</sup> 未確定の収支の處理

問題

次の取引を仕譯せよ。

- 1 有價證券9,800圓(帳簿價額)を9,700圓にて賣渡し,利子 300圓を加へて代金 10,000圓は追つて受入れの筈。  

未 收 金	10,000.-	有 價 證 券	9,800.-
有價證券賣買損益	100.-	利 子	300.-
- 2 甲商會に對して現金5,000圓を出資し,匿名組合員となる。  

出 資 金	5,000.-	現 金	5,000.-
-------	---------	-----	---------
- 3 銀行に現金2,000圓を預入れて定期預金とす。  

預 け 金	2,000.-	現 金	2,000.-
-------	---------	-----	---------
- 4 公債額面5,000圓を供託金として供託局へ差入る。  
仕譯不要
- 5 建物 20,000圓火災に罹り焼失す。仍て保險金 19,000圓を保險會社に請求す。  

未 決 算	19,000.-	建 物	20,000.-
雜 損	1,000.-		
- 6 保險會社より保險金 19,000圓を小切手にて受取り,直ちに當座預金とす。  

當 座 預 金	19,000.-	未 決 算	19,000.-
---------	----------	-------	----------

次の當座取引(7)-(10)を當座預金及び當座借越勘定にて處理せよ。但し當座預金の殘 500圓あり。

(次頁の註34を看よ。)

(33) 問題 5-6

7 商品を買入れて小切手振出1,000圓。

仕 入	1,000.-	當 座 預 金	500.-
		當 座 借 越	500.-

8 當店受取の約束手形1,000圓を割引し,割引料 5圓差引手取金は當座に預入る。

當 座 預 金	495.-	受 取 手 形	1,000.-
當 座 借 越	500.-		
割 引 料	5.-		

9 小拂資金として用度係に小切手 200圓を前渡しす。

小 口 現 金	200.-	當 座 預 金	200.-
---------	-------	---------	-------

10 當店支拂の爲替手形 800圓期日につき小切手にて支拂ふ。

支 拂 手 形	800.-	當 座 預 金	295.-
		當 座 借 越	505.-

追加問題

11 次の取引は如何に處理するか。

- (1) 所有有價證券を銀行へ信託預入れたる場合
- (2) 同保護預としたる場合
- (3) 同擔保に差入れたる場合

(34) 當座勘定口座は次の通り。

當 座 勘 定

残 高					
			借	500	00
(7)		1,000	貸	500	00
(8)	995	00	借	495	00
(9)		200	#	295	00
(10)		800	貸	505	00

(4) 同他人に貸附けたる場合

仕譯せず、又は有價證券勘定に特殊なる名辭を附して手持のものと區別せんとせば仕譯を要す。

仕譯

(1) 信託預入有價證券	××	有價證券	××
(2) 保護預有價證券	××	有價證券	××
(3) 擔保差入有價證券	××	有價證券	××
(4) 貸附有價證券	××	有價證券	××

12 次の取引を仕譯せよ。

Aより五分利公債額面10,000圓(1,000圓券10通)を100圓につき95圓替にて買入れ其の利乗41圓10錢を加へ支拂ふ可きところ別に資本利子税80錢を差引き9,540圓30錢を小切手振出し支拂ふ。(大倉, 昭和6年度より。)

仕譯

有價證券	9,500.-	當座預金	9,540.30
利子	40.30		

上記仕譯の利子勘定40圓30錢は資本利子税80錢を差引いた金額である。この利子勘定は又収入利子勘定とすることが出来る。かくすれば後に利子収入があつたときに、それから差引かれることとなる。

若し利子の受入日が次の會計期間に屬すときは、利子勘定にかへて未收利子勘定(又は未收金)を用ひるのである。

13 下の三つの場合の仕譯に如何なる相違があるか。

(イ) 甲,乙,丙と或商品賣買の爲め一時的の組合を結び現金1,000圓を出したる時。

(ロ) 甲,乙,丙と永久的營業を爲すため組合を結び、現金1,000圓を出資したる時。

(ハ) 信用組合に加入し20口分1,000圓の出資を現金にてなしたる時。(松山, 昭和5年度より。)

次の相違がある。

(イ)の場合には組合商品勘定を用ひて、その借方に記入する。

(ロ)の場合には出資金勘定を用ひて、その借方に記入する。

(ハ)の場合には出資金勘定でもよいが、特に信用組合出資金勘定を用ひる。

14 Inter Check System とは何か。(高松, 昭和7年度より。)

現金の取扱ひに伴ふ不正、即ち現金の欺取を避けるために三人のものが各々現金出納の記録を行ひ、相互に突合せて不正な行爲をなし得ないやうにする制度である。

出納係と記帳係とを同一人にまかすときは不正が行はれ易いから、出納係と記帳係とを別人にして出納係が記帳係のもつ帳簿を取扱ひ得ないやうにし、同時に今一人の信任ある使用人を選んでこれに現金の受入に関する記入をなさしめ、日々の報告を三者から集めて、その突合せを行ふのである。

15 次の取引を仕譯せよ。

(1) 帳簿上の現金残高1,592圓なるに實際の手許有高1,542圓なることを發見せり。

(2) 上記不足額は營業費支拂の記帳漏なることを見出す。

(3) 上記不足の生じたる原因不明に決定せる場合如何。  
[現金過不足勘定] (Cash Short and Over) を用ふれば次の如し。

(1) 現金過不足	50.-	現金	50.-
(2) 營業費	50.-	現金過不足	50.-
(3) 雜損	50.-	現金過不足	50.-

## 第六章 営業設備及暖簾の勘定

### 要約

- 一 土地建物勘定<sup>(35)</sup>
- 二 什器造作勘定
- 三 運搬設備(Delivery Equipment)勘定<sup>(36)</sup>
- 四 新築費勘定<sup>(37)</sup> <sup>(38)</sup>
- 五 新築積立金勘定<sup>(39)</sup>

純益の留保による自己金融—新築落成後の處分
- 六 減價消却準備金勘定<sup>(40)</sup> <sup>(41)</sup>

減價消却の直接法と間接法—評價勘定
- 七 暖簾勘定<sup>(42)</sup> <sup>(43)</sup> <sup>(44)</sup>

暖簾の買入—暖簾家聲營業權勘定—暖簾の代價—暖簾の消却—自から作り出した暖簾

(35) 修繕費と増築費との區別については「追加問題」9を看よ。

(36) 問題 2

(37) 上巻に於ては建物新築費用の一部を支出したときこれを假拂金勘定で處理する例を挙げた(上巻127頁の問題10)が、假拂金といへば種々のものが含まれるから、勘定科目選定上の注意に於て述べた計算内容の明瞭(下巻4頁)の立場から、この假拂金に新築費勘定なる特殊の名稱を與へてその内容を明かにしたのである。

(38) 問題 5—7

(39) 問題 4 及び 7

(40) 問題 1, 3 及び第九章の「追加問題」26—27 (235頁)、尙「附録」E参照。

(41) 減價消却の計算方法については「追加問題」10を看よ。

(42) 問題 8

(43) 組合營業に於て組員が脱退する場合、及び親會社の綜合貸借對照表を作る場合に暖簾勘定の起ることがある。その例は228頁及び295頁を看よ。

(44) 暖簾、特許權等の「無體資産」(Intangible Asscts)に對し、現金、商品、賣掛金等を「有體資産」(Tangible Assets)と云ふ。

問題 次の取引を仕譯せよ。

- 1 決算に於て次の如く減價消却をなす。(直接法及び間接法)
 

建物	150圓	什器	30圓
直接法			
減價消却費	180.—	建物	150.—
		什器	30.—
間接法			
減價消却費	180.—	減價消却準備金	180.—
- 2 リヤカー一臺 600圓を買入れ、代金は小切手拂。  
運搬設備 600.— 當座預金 600.—
- 3 建物を賣却し手取金6,000圓現金にて受入る。但し、建物の帳簿價額 15,000圓、同減價消却準備金8,000圓  
現金 6,000.— 建物 15,000.—  
減價消却準備金 8,000.—  
雜損 1,000.—
- 4 當期純益金の内 500圓を新築積立金とす。  
損益勘定 500.— 新築積立金 500.—
- 5 建物の新築に着手し費用の一部4,000圓を現金にて支拂ふ。  
新築費 4,000.— 現金 4,000.—
- 6 新築費用の殘額1,500圓現金にて支拂ふ。  
新築費 1,500.— 現金 1,500.—
- 7 新築落成し、新築費勘定を建物勘定に振替へ、同時に新築積立金勘定6,000圓を資本金勘定に振替ふ。  
建物 5,500.— 新築費 5,500.—  
及び  
新築積立金 6,000.— 資本金 6,000.—
- 8 現金 15,000圓を元入し、次の貸借對照表の示す營業を當

座預金及び現金を除いて、現金9,000圓にて買入れ營業を開始す。

貸借對照表

資 産	金 額	負債及資本	金 額
現 金	300 00	買 掛 金	1,500 00
當 座 預 金	3,600 00	支 拂 手 形	1,200 00
賣 掛 金	2,200 00	資 本 金	11,700 00
商 品	3,500 00		
什 器	800 00		
建 物	4,000 00		
	14,400 00		14,400 00

仕 譯

現 金	6,000.-	買 掛 金	1,500.-
賣 掛 金	2,200.-	支 拂 手 形	1,200.-
商 品	3,500.-	資 本 金	15,000.-
什 器	800.-		
建 物	4,000.-		
暖 簾	1,200.-		

追加問題

9 修繕費と増築費との區別を問ふ。

修繕費は家屋の現状維持の爲めに費される費用であつて損費となるが、増築費はそれだけ家屋の價額を増加するから資産となるのである。修繕費を損費とせず建物の價額に附加するときは過大評價となつて利益を膨大ならしめ、増築費を建物の價額に附加せずして損費とするときは過小評價となつて所謂秘密積立金を生ずる。(過大評價及び過小評價については下巻132頁の[棚卸金額]を看よ。)

10 減價消却の計算方法の主なるものを述べよ。

減價消却の計算方法には種々あるがその主なるものは等額法と等率法とである。等額法とは毎年又は毎半期に等額を消却する方法であつて、次の式により求められる。

$$\frac{\text{買入價額} - \text{廢棄價額}}{\text{期間數}} = \text{毎期の消却高}$$

次に等率法は買入價額から減價消却をした現在の價額に每期等率を乗じて消却高を見出す方法であつて、その消却率を求めるには次の算式による。

$$1 - \sqrt[n]{\frac{\text{廢棄價額}}{\text{買入價額}}} = \text{消却率}, \text{ 但し } n \text{ は 期 間 數.}$$

而して毎期の消却高は

$$\text{第一期末 買入價額} \times \text{消却率} = \text{消却高}$$

$$\text{第二期末 (買入價額} - \text{第一期の消却高)} \times \text{消却率} = \text{消却高}$$

$$\text{第三期末 (買入價額} - \text{第一及二期の消却高)} \times \text{消却率} = \text{消却高}$$

の如くして算出され、消却高は每期減少するのである。

買入價額500圓、廢棄價額50圓、使用年數5年とすれば、次の表を得る。

年 次	等 額 法		等 率 法 0.38905	
	年初現在價額	消 却 高	年初現在價額	消 却 高
第一年	500.-	90.-	500.-	184.53
第二年	410.-	90.-	315.47	116.42
第三年	320.-	90.-	199.05	73.46
第四年	230.-	90.-	125.59	46.35
第五年	140.-	90.-	79.24	29.24
	50.-		50.-	

## 第七章 損益の勘定

### 要約<sup>(45)</sup>

#### 一 商品賣買損益の勘定

一般商品賣買損益—商品賣買損益勘定—仕入勘定—  
賣上勘定—賣買勘定—特殊商品賣買損益—未着品賣  
買損益勘定—積送品賣買損益勘定—組合商品損益勘  
定—収入手数料勘定

#### 二 營業損費の勘定<sup>(46)</sup> (Operating Expense and Loss)

仕入費—その処理方法—販賣費 (Selling Expense) —そ  
の処理方法—一般營業費 (General Expense) —その處理  
方法—消耗品<sup>(47)</sup> —營業上の損失—貸倒金—臨時の營  
業經費—開業費其他

#### 三 營業外損益の勘定 (Non-Operating Income and Expense)

經常損益—經常の収益—收入利子其他—經常の損  
失—支拂利子其他—金融上の損益 (Financial Income  
and Expense) —臨時損益—有價證券賣買損益其他

### 問題

#### 1 仕入及び販賣に要する經費は如何に處理するか。

下巻43頁の二の内(1)及び(2)を看よ。

#### 2 營業費に屬す諸經費を處理する方法如何。

下巻43頁の二の内(3)を看よ。

(45) 問題 3

(46) 問題 1—2、及び「追加問題」5

(47) 消耗品の取扱ひについては「追加問題」4 を看よ。

#### 3 損益の勘定を設けるに當つて注意を要する點如何。

下巻3頁の三に述べた所に依つて注意を要する點  
を知り得るが、殊に損益の諸勘定は多岐に互り複雑し  
てゐるから、これを系統的に分類排列して損益計算書  
の作成に便ならしめるのみならず、損益に關する統計  
資料を集めるに容易なるやうにせなければならぬ。

### 追加問題

#### 4 消耗品の取扱ひ方法について述べよ。

消耗品の消費高を消耗品勘定から雜費勘定に振替  
へることは上巻119頁に述べた所であるが、雜費勘定に  
かへて特に「消耗品費勘定」を用ひることがあり、又消耗  
品の性質によつて適宜の勘定に振替へることがある。  
例へば文房具は「文房具費勘定」へ振替へ、郵便切手葉書  
は「通信費勘定」へ振替へるが如きである。

尙ほ、消耗品の浪費を避ける爲めに消耗品に關する  
補助帳簿を設け、その出入を一々記入することがある。  
この場合には消耗品の消費高を帳簿上知ることの出  
來る便宜がある。

#### 5 營業費勘定の貸方に記入すべき取引の起る場合を列舉 せよ。

- (1) 營業費の戻入記入
- (2) 營業費の繰延記入(次章參照)
- (3) 未拂營業費を營業費へ振替へる記入(次章參  
照)
- (4) 營業費を損益勘定へ振替へる記入
- (5) 營業費の訂正記入

## 第八章 損益の未経過及未収支の勘定

### 要約

#### 一 損益の期間別計算<sup>(48)</sup>

損益とその収支との關係—損益の繰延—損益の見越—その記入方法

#### 二 直接法<sup>(49)</sup>

損益を示す勘定に残高の計上—損費の繰延—収益の繰延—損費の見越—収益の見越—貸借対照表への記載方法

#### 三 間接法<sup>(50) (51)</sup>

特別の勘定科目を使用—損費の繰延—収益の繰延—未経過収入家賃又は前受家賃—繰延勘定—損費の見越—未拂利子—収益の見越—未收利子—見越勘定

### 問題

#### 1 損益の未経過未収支は何故起るか。

下巻46頁の一を看よ。

#### 2 損益の未経過未収支の取扱方法を説け。

下巻47頁の二及び49頁の三を看よ。

尙ほ、未経過損益の處理には別法がある。その一は未経過損益となる取引が起つたときに、これを損益の

(48) 問題 1

(49) 問題 4

(50) 問題 3 及び 5-6

(51) 問題 2

勘定によらず、未経過損益を示す勘定にて處理し、後決算に至つて期間経過分を損益の勘定に振替へる方法である。例へば保険料一ケ年分を支拂つたときは、これを未経過保険料勘定にて處理し、決算に於て期間の経過せる部分を保険料勘定に振替へるのである。

今一つの方法は未経過損益となる項目の取引が起つたときに、來るべき決算日までの期間に屬す部分を損益の勘定にて處理し、然らざるものを未経過の勘定にて處理する方法である。例へば保険料一ケ年分として120圓を支拂つた場合に決算日迄に4ヶ月の期間があれば40圓を保険料とし、残り80圓を未経過保険料として處理する。而して次期の初めに於てその期に屬す保険料の部分を直ちに未経過保険料から保険料に振替へて置くのである。この方法は未経過損益項目が決算の際多數ある場合には便宜な方法である。

#### 3 繰延勘定・見越勘定とは何か。

繰延勘定については下巻50頁、見越勘定については下巻51頁を看よ。

損益の繰延の項目は Deferred items と云はれ、又損益の未収支の項目は Accrued items (堆積項目) と呼ばれる。未收利子にかへて一般に未收金勘定を用ひ、又未拂利子にかへて一般に未拂金勘定を用ひることがある。これに對應して損益の繰延項目を處理する一般的な科目としては前拂金及び前受金の勘定が考へられる。

繰延資産と呼ばれるものの内には三つの種類があることは第六篇第五章の追加問題5(200頁)を看よ。

#### 4 直接法によつて次の諸勘定に損益の繰延又は見越を計上せる結果を示し、且各勘定を損益勘定に振替へる仕譯を示せ。

支拂家賃 400 圓  
 雜 費 130 圓  
 收入地代 240 圓  
 收入利子 100 圓

内 160 圓は次期へ繰延  
 外に未拂高 40 圓計上  
 内 80 圓は次期へ繰延  
 外に未收高 50 圓計上

支 拂 家 賃		雜 費	
400.—	殘高 160.—	130.—	損益 170.—
	損益 240.—	殘高 40.—	繰越 40.—
繰越 160.—			

收 入 地 代		收 入 利 子	
殘高 80.—	240.—	損益 150.—	100.—
損益 160.—		繰越 50.—	殘高 50.—
	繰越 160.—		

損益勘定 410.—	支拂家賃 240.—
	雜 費 170.—
及び	
收入地代 160.—	損益勘定 310.—
收入利子 150.—	

5 問題(4)を間接法によつて處理し、その結果及び必要なる仕譯を示せ。

支 拂 家 賃		前 拂 家 賃	
400.—	前拂家賃 160.—	支拂家賃 160.—	殘高 160.—
	損 益 240.—	繰 越 160.—	
		支 拂 家 賃 160.—	

雜 費		未 拂 雜 費	
130.—	損益 170.—	殘高 40.—	雜費 40.—
未拂雜費 40.—		繰越 40.—	

雜 費 40.—		未 拂 雜 費 40.—	
收 入 地 代		前 受 地 代	
前受地代 80.—	240.—	殘高 160.—	收入地代 160.—
損 益 160.—		繰 越 160.—	
收入地代 80.—		受前地代 80.—	
收 入 利 子		未 收 利 子	
損益 150.—	100.—	收入利子 50.—	殘高 50.—
	未收利子 50.—	繰 越 50.—	
未收利子 50.—	收入利子 50.—		

損益勘定への振替の仕譯は(4)の場合に同じ。

6 決算に於て計上した未收利子勘定を次期期首に於て收入利子勘定に直ちに振替へる理由如何。

若しこの振替記入なきときは如何なる結果となるか。

未收利子勘定を次期期首に直ちに收入利子勘定又は利子勘定に振替へて置けば、その金額が同勘定の借方に表はれ、後に利子収入があつた場合にこれを收入利子又は利子勘定の貸方に記入すれば、前記の金額と相殺されて当期の利子収入とならないから宜しいが、若しこの戻入の記入がないときは利子を受入れたときにそれが既に前期に於て収益として計上されたかどうかを調査して後、收入利子勘定によるか又は未收利子勘定によるかを決定せなければならぬから、これに手数を要し、誤謬に落入る懼がある。故に期首に於て豫め收入利子又は利子勘定に振替へて置くのである。次期期首に於ける戻入の記入を再修正記入(Readjusting Entry)と云ふ。



## 第九章 資本金及純損益處分の勘定

### 要約

#### 一 個人營業<sup>(52)</sup>

引出金勘定—資本金勘定へ振替

#### 二 組合營業<sup>(53) (54) (55) (56)</sup>

組合員資本金勘定—同個人勘定—資本金へ振替

#### 三 株式會社營業<sup>(57) (58) (59)</sup>

資本金又は株金勘定—株主元帳—未拂込資本金 (Uncalled Capital Stock)—創業費 (Organization Expense)—前期繰越損益勘定へ振替—その處分—配當金<sup>(60)</sup>—未拂配當金—賞與金—積立金—法定積立金—別途積立金—配當平均積立金—保險積立金—減債積立金—新築積立金—基金

#### 四 合名合資株式合資會社營業

(52) 追加問題 11—12 を看よ。

(53) 問題 1—2

(54) 組合の資本金については「追加問題」13 を看よ。

(55) 組合の純損益處分については「追加問題」14—15 を看よ。

(56) 組合員の退脱及び加入の場合については「追加問題」16—18 を看よ。尙組合解散の例については第六篇第六章の「追加問題」10 (326頁) を看よ。

(57) 問題 3—9 及び追加問題 19—25

(58) 積立金と準備金との區別については「追加問題」26—27 を看よ。

(59) 問題 10 及び追加問題 28

(60) 純益を處分して配當に向けるとき配當金勘定を用ひ後適當の時期にこれを未拂配當金勘定に振替へることを述べたが、最初から未拂配當金勘定を用ひて差支ないのであつて、寧ろその方が所有株券の配當金収益を示す勘定と混同しなくてよいのである。

## 五 勘定科目の分類表<sup>(61)</sup> (下巻 66—67)

問題 次の取引を仕譯せよ。

### 1 甲乙兩人組合契約を結び次の通り出資して營業を始む。

甲	{土地建物 5,000圓 現金 5,000圓	乙	{有價證券 2,000圓 現金 3,000圓
土地建物	5,000.—	甲資本金	10,000.—
有價證券	2,000.—	乙資本金	5,000.—
現金	8,000.—		

### 2 決算の結果純益3,000圓あり、これを甲乙兩人に2:1の割合にて分配し、甲の引出200圓、乙の引出150圓を差引き兩人の資本金に振替ふ。

損益勘定	3,000.—	甲個人勘定	200.—
		乙個人勘定	150.—
		甲資本金	1,800.—
		乙資本金	850.—

### 3 株式を公募し第一回 $\frac{1}{4}$ 拂込完了、創立總會を終つて會社成立し、發起人より現物出資、土地建物70,000圓及び株式拂込金より設立諸費用3,000圓差引き現金127,000圓受取る。資本金800,000圓

土地建物	70,000.—	資本金	800,000.—
現金	127,000.—		
創業費	3,000.—		
未拂込資本金	600,000.—		

### 4 第二回拂込400,000圓現金にて受取る。

現金	400,000.—	未拂込資本金	400,000.—
----	-----------	--------	-----------

次の損益處分案(5)―(8)が定時株主總會に於て承諾されたときの仕譯を示せ。

(61) 追加問題 29—30

- 5 当期利益金 15,000 圓,前期繰越利益金 2,000 圓にして,これを處分すること配當金 10,000 圓,賞與金 3,000 圓,法定積立金 2,000 圓,配當平均積立金 1,000 圓にして残額は後期に繰越す。

前期繰越損益	16,000.-	配當金	10,000.-
		賞與金	3,000.-
		法定積立金	2,000.-
		配當平均積立金	1,000.-

- 6 当期缺損金 5,000 圓,前期繰越缺損金 2,000 圓にして,これを填補する爲めに別途積立金 6,000 圓を戻入れ,残額 1,000 圓の缺損金は後期に繰越す。

別途積立金	6,000.-	前期繰越損益	6,000.-
-------	---------	--------	---------

- 7 当期利益金 6,500 圓,前期繰越缺損金 1,000 圓に配當平均積立金 5,000 圓を戻入してこれを處分すること,配當金 8,000 圓,賞與金 1,000 圓,法定積立金 1,000 圓,残額は後期に繰越す。

前期繰越損益	5,000.-	配當金	8,000.-
配當平均積立金	5,000.-	賞與金	1,000.-
		法定積立金	1,000.-

- 8 当期利益金 2,000 圓,前期繰越缺損金 5,000 圓にして缺損金残額を後期に繰越す。

仕譯不要 蓋し前期繰越損益勘定は既に借方 3,000 圓の残高を示してゐるからである。

- 9 長期借入金 20,000 圓を返済す。減債基金としての定期預金 19,000 圓を引出し不足分は當座預金にて支拂ふ。尙ほ減債積立金 19,000 圓あり,別途積立金に振替ふ。

借入金	20,000.-	減債基金	19,000.-
		當座預金	1,000.-
及び			
減債積立金	19,000.-	別途積立金	19,000.-

- 10 第七篇の第一例題を記帳せよ。 331 頁以下を看よ。

#### 追加問題

- 11 或人現金 5,000 圓を友人より借入れ其の全額を資本として事業を始め,帳簿に次の如く仕譯せり。之が正否を述べよ。  
(神戸,昭和7年度より。)

現金	5,000.-	資本金	5,000.-
----	---------	-----	---------

既に上巻 4 頁に述べたやうに,營業の財産と營業主個人の財産とは帳簿上明確に區別され,營業の帳簿にはたゞ營業の財産のみが記入される。故に友人からの借金は營業主個人の負債であつて營業の負債ではないとするときは問題に示された仕譯となり,若しこの借金を營業の負債とするときは次の仕譯となる。

現金	5,000.-	借入金	5,000.-
----	---------	-----	---------

- 12 家事費は如何に處理すべきか。

家事費は一ヶ月分を總括して記帳してよいことは商法の認めてゐる所(下巻 122 頁参照)であるが,家事費は所謂奥の費用であつて營業の損費ではないから,これを營業の帳簿に損費として記録することは營業の損益計算を不正確ならしめる。故に正確には家事費は營業主の引出金として處理すべきである。若し使用人が營業主と食事を共にして家事費の内にそれが含まれる場合には使用人の分を見積つて賄費(又は營業費)として營業の損費に加へるのが正確な取扱い方法である。

- 13 組合の資本金は如何に處理するか。

組合員が少数である場合には組合員の氏名を冠して資本金勘定を區別する。併し,組合員の數が多いときは資本金勘定に各組合員の氏名を冠して別勘定とすれば勘定科目數が多くなる懼があるから,この場合

には一個の資本金勘定を用ひ、別に補助帳簿を設けて各組合員の出資關係を詳細に記入するのである。このことは組合員個人勘定についても云ふことが出来る。

尙ほ、組合の契約によつて定めた資本金額まで組合員が拂込を完了してゐないときは、後に述べる株式會社の場合のやうに、未拂込資本金の勘定を用ひてこの拂込未済額を處理することが出来る。この未拂込資本金勘定には資本金勘定と同様に組合員の氏名を冠して他の組合員のそれと區別するのである。

14. 組合に於ける純損益處分の記帳方法を問ふ。

組合に於ては個人營業の場合と同様に純損益を組合員の資本金に振替へることは説明の通りである(下巻55頁)が、尙ほ次の方法がある。

各組合員の純損益分擔額はこれを個人勘定に振替へ個人勘定はこれを資本金勘定に振替へることなく、その儘後期に繰越す方法である。この方法によるときは各組合員の資本金勘定は出資關係のみを示し、増資又は減資のない限り金額の變動しない勘定となる。例へば甲乙兩組合員の出資額が各5,000圓であつて、決算日に於て甲個人勘定借方100圓、乙個人勘定借方150圓のとき当期純利益金1,000圓を兩人に等額に分配して各自の個人勘定に振替へるときは、その任譯は

損益勘定	1,000.—	甲個人勘定	500.—
		乙個人勘定	500.—

となり、元帳面では次の通りとなる。

甲 資 本 金		乙 資 本 金	
残高	5,000.—	残高	5,000.—
	5,000.—		5,000.—
	繰越	繰越	5,000.—
	5,000.—		5,000.—

損 益 勘 定

.....	.....
.....	.....
1,000.—	.....
.....	.....

甲 個 人 勘 定

100.—	損益	500.—
残高	400.—	繰越
		400.—

乙 個 人 勘 定

150.—	損益	500.—
残高	350.—	繰越
		350.—

15 甲乙商會の10月31日に於ける元帳尻は次の如し。

什 器 3,000圓 受取手形 14,000圓 雜 費 2,000圓  
 仕 入 28,200圓 販賣費 1,000圓 家 賃 1,500圓  
 諸向借 29,500圓 給 料 2,500圓 繰越商品 7,000圓  
 現 金 1,000圓 甲資本金 30,000圓 甲個人勘定(借方)5,000圓  
 乙資本金 20,000圓 乙個人勘定(借方)3,000圓 支拂手形 1,700圓  
 諸向貸 12,500圓 賣 上 33,500圓

仍て次の要項により決算(年一回)を行ひ貸借對照表を示せ。但し、甲、乙資本金の内譯を明かにせよ。

- (1) 商品期末棚卸高 12,500圓
- (2) 什器の減價消却 10%
- (3) 甲乙兩人の資本金及び引出金には年6%の利子を計算す。但し甲の引出は7月末、乙の引出は4月末とす。
- (4) 出資に對する利子を差引いた後の損益は甲乙兩人にて等額に負擔す。

貸借對照表は次の通りとなる。

貸借対照表

現金	1,000 00	支拂手形	1,700 00
受取手形	14,000 00	諸向貸	12,500 00
諸向借	23,500 00	甲資本金	
繰越商品	12,500 00	元入高	30,000.—
什器	2,700 00	引出高	5,000.—
			25,000.—
		出資利子	1,725.—
		利益分配	332.50
			27,057 00
		乙資本金	
		元入高	20,000.—
		引出高	3,000.—
			17,000.—
		出資利子	1,110.—
		利益分配	332.50
			18,442 00
	59,700 00		59,700 00

16 甲乙丙の三名の社員よりなる合名会社あり。設立後三年を経過せし所、甲が總社員の同意を得て退社する事となり、依つて定款により其の出資額及び利益分配額以外に過去三ヶ年の平均利益の二ヶ年分を暖簾代として其の三分の一の分配を爲さんとす。同社の貸借対照表は次の如くなれ共、尙ほ財政の強固を計らんが爲めに賣掛金に對し一割の貸倒準備金を置くものとす。前二ヶ年の利益は6,350圓及び8,800圓なり。

甲乙丙合名会社貸借対照表

現金	9,800 00	買掛金	19,800 00
賣掛金	20,000 00	資本金	
商品	35,000 00	甲	20,000.—
建物	15,000 00	乙	20,000.—
什器	8,000 00	丙	20,000.—
		利益金	8,000 00
	87,800 00		87,800 00

甲社員に支拂ふべき金額を一時借入金とす。以上の諸手續に關する仕譯を示し、且甲が退社後の貸借対照表を作成すべし。  
(和歌山、昭和3年度より。)

貸倒準備金を設ける仕譯

貸倒金 2,000.— 貸倒準備金 2,000.—

及び

損益勘定 2,000.— 貸倒金 2,000.—

次に純益を甲、乙、丙に分配する仕譯

損益勘定 6,000.— 甲資本金 2,000.—

乙資本金 2,000.—

丙資本金 2,000.—

甲退社の仕譯

甲資本金 22,000.— 借入金 26,700.—

暖簾 4,700.—

暖簾の計算次の通り。

三ヶ年の利益 6,350.—

8,800.—

6,000.—

合計  $\frac{21,150.—}{3} \times \frac{2}{3} \times \frac{1}{3} = 4,700.—$  甲の暖簾持分

甲退社後の貸借対照表次の如し。

貸借対照表

現金	9,800 00	買掛金	19,800 00
賣掛金	20,000.—	借入金	26,700 00
内貸倒見積	2,000.—	資本金	
商品	35,000 00	乙	22,000.—
建物	15,000 00	丙	22,000.—
什器	8,000 00		44,000 00
暖簾	4,700 00		
	90,500 00		90,500 00

17 三名同額を出資して組織したる某組合の貸借対照表を次の如しとして、出資者の一名が脱退を申出でたるに依りこれを承諾したり。依て脱退組合員へ拂戻すべき金額を算出し、且同人へ拂戻金の内半額を現金にて支拂ひ、残り半額を一ヶ月後拂の約束手形を振出し交附したる時の同組合の貸借対照表を示せ。但し脱退組合員は同組合の暖簾評價額6,000圓を加へたる組合正味財産の $\frac{1}{3}$ を拂戻さるる契約とす。

貸借対照表

現金	18,300 00	諸借金	29,650 00
有價証券	32,550 00	支拂手形	17,000 00
諸貸金	16,750 00	減價消却準備金	1,300 00
不動産	26,000 00	貸倒準備金	1,500 00
其他資産	19,150 00	資本金	60,000 00
損益	2,850 00	積立金	3,630 00
		繰越金	2,520 00
	115,600 00		115,600 00

拂戻高の計算次の通り。

資本金	60,000.-
積立金	3,630.-
繰越金	2,520.-
計	66,150.-
差引損益	2,850.-
	63,300.-
暖簾	6,000.-
正味財産	69,300.-

拂戻高、其の $\frac{1}{3}$	23,100.-	{現金	11,550.-
		{支拂手形	11,550.-

仍て脱退後の貸借対照表次の通り。

貸借対照表

現金	6,750 00	諸借金	29,650 00
有價証券	32,550 00	支拂手形	23,550 00
諸貸金	16,750 00	減價消却準備金	1,300 00
不動産	26,000 00	貸倒準備金	1,500 00
其他資産	19,150 00	資本金	40,000 00
暖簾	2,000 00	積立金	2,420 00
損益	1,900 00	繰越金	1,680 00
	105,100 00		105,100 00

18 甲乙合名會社の或營業期に於ける貸借対照表下の如し。

貸借対照表

現金	500 00	買掛金	25,000 00
當座預金	14,500 00	支拂手形	15,000 00
商品	40,000 00	甲資本金	50,000 00
有價証券	25,000 00	乙資本金	30,000 00
賣掛金	8,000 00		
什器	8,000 00		
土地及建物	24,000 00		
	120,000 00		120,000 00

丙新に入社せんとし、出資額として20,000圓、加入金として15,000圓を共に現金にて拂込めり。加入金は舊社員甲、乙兩名に分配せられ、それぞれ資本金に振替へらる。

丙入社に先ち舊社員は各種資産の正確を保證する爲めに、下記の如く評價をなせり。

- (1) 有價証券に對して4%を増額す。
- (2) 賣掛金に對して10%の貸倒を見積る。
- (3) 什器に對して5%の減價消却をなす。
- (4) 土地及び建物を22,000圓と評價す。

(注意) 加入金及び評價損益分配の割合は舊社員の資本金額に依るものとす。

仍て問ふ。

- 1 整理に必要な仕譯。
- 2 丙入社後に於ける貸借對照表。(山口, 昭和6年度より。)

仕譯 評價修正の仕譯

(1) 有價證券	1,000.—	有價證券評價益	1,000.—
(2) 貸倒金	800.—	貸倒準備金	800.—
(3) 減價消却費	400.—	什器	400.—
(4) 土地建物評價損	2,000.—	土地及建物	2,000.—

次に評價損益分配の仕譯

甲資本金	1,375.—	損益勘定	2,200.—
乙資本金	825.—		

加入金の分配仕譯

現金	15,000.—	甲資本金	9,375.—
		乙資本金	5,625.—

丙入社後の貸借對照表次の通り。

貸借對照表

現金	35,500 00	買掛金	25,000 00
當座預金	14,500 00	支拂手形	15,000 00
商品	40,000 00	甲資本金	58,000 00
有價證券	26,000 00	乙資本金	34,800 00
買掛金 8,000.—		丙資本金	20,000 00
内貸倒見積 800.—	7,200 00		
什器	7,600 00		
土地及建物	22,000 00		
	152,800 00		152,800 00

19 次の取引を某株式會社について仕譯せよ。

某株式會社に於て資本金増加並に額面以上の價額を以

て新株發行の決議を爲し下記の通り實行せり。

- (イ) 資本増加決議額 100,000 圓(一株の金額 50 圓, 2,000 株)
- (ロ) 申込證據金一株につき 3 圓宛, 公募株 1,000 株のところ 1,200 株の應募あり。此の金額 3,600 圓は株式募集取扱銀行に當座預金となる。
- (ハ) 引受人確定し, 第一回拂込金として各株につき株式額面の  $\frac{1}{4}$  宛 2,000 株全部拂込済みにて前記銀行に當座預金となる。但し(ロ)の 1,000 株分の申込證據金は第一回拂込に振替へ, 應募超過 200 株の證據金は小切手を振出して拂戻す。
- (ニ) 額面超過金 2 圓 50 錢宛にて申込みありたる株數 1,000 株, 此の金額 2,500 圓は前記第一回拂込金と共に拂込みを了し, 株式募集取扱銀行に當座預金となる。右額面超過金は全部を法定積立金とす。

仕譯

(イ) 未拂込資本金	100,000.—	資本金	100,000.—
(ロ) 當座預金	3,600.—	假受金	3,600.—
(ハ) 當座預金	22,000.—	未拂込資本金	25,000.—
假受金	3,000.—		
假受金	600.—	當座預金	600.—
(ニ) 當座預金	2,500.—	法定積立金	2,500.—

20 甲乙二會社に於ては次の如き資産負債を以て同時に營業を開始せり。

諸資産	2,000,000 00	資本金	1,000,000 00
		債務	1,000,000 00
	2,000,000 00		2,000,000 00

然るに次の營業期末に於て各自提出せる成績は次の如く異なる。

甲 會 社			
諸 資 産	1,900,000 00	資 本 金	1,000,000 00
減債基金	100,000 00	債 務	1,000,000 00
	2,000,000 00		2,000,000 00

乙 會 社			
諸 資 産	2,100,000 00	資 本 金	1,000,000 00
		債 務	1,000,000 00
		減債積立金	100,000 00
	2,100,000 00		2,100,000 00

甲乙二會社は如何なる簿記整理の方法に依りて斯の如き結果を得たるかを説明すべし。

甲會社は減債用の基金を設けるけれども積立金は設けないが、乙會社はその反對に基金は作らないけれども積立金を作つたから、この相違が生じたのである。

- 21 某會社は昭和5年1月1日に6分利附10年後拂の社債額面200,000圓を證券業者を通じ100圓につき95圓の割にて發行したり。利子は毎半期末に支拂の契約なり。證券業者に對しては發行手数料として額面の一分を支拂ひたり。依つて問ふ。

- 此の會社の昭和5年1月1日に於ける仕譯如何。
- 證券業者に對する發行手数料は此の會社の帳簿上之を如何に取扱ふべきや。
- 此の會社の昭和5年6月30日に於ける仕譯如何。
- 若し此の會社が昭和7年1月1日に上記の社債額面50,000圓を100圓につき96圓の割にて市場より買入れ償還を行ひたりとせば同日に於ける仕譯如何。

(高岡、昭和7年度より。)

(追加問題)

(a) 當座預金 188,000.—      社 債    200,000.—  
社債發行差金 12,000.—

(b) 上記の仕譯に於て「社債發行差金勘定」は社債發行の割引料及び手数料を含むが、これを夫々別勘定にすることも出来る。社債發行差金勘定は社債勘定の評價勘定であつて、社債の存続期間中に順次消却される。

(c) この日が利子の支拂期であるから利拂6,000圓を要す。而して社債發行差金勘定を10ヶ年間に消却するとして半年分600圓をこゝに消却する要がある。この消却高を實際に支拂はるべき利子6,000圓に加へて次の仕譯を得る。

支拂利子 6,600.—      現 金    6,000.—  
社債發行差金    600.—

(d) この日は社債發行の時から二ヶ年を経過してゐるから、社債發行差金勘定は残高9,600圓となつてゐる。而して償還される社債は總額の $\frac{1}{4}$ であるから、社債發行差金勘定残高の $\frac{1}{4}$ 即ち2,400圓をこゝに消却する必要がある。買入償還代金を小切手にて支拂つたとすれば

社 債 50,000.—      當座預金 48,000.—  
社債買入償還損益 400.—      社債發行差金 2,400.—

即ち社債の現在の價額は額面50,000圓から社債發行差金の内額面50,000圓に對する金額2,400圓を差引いて47,600圓であるが、これを48,000圓で買入償還したから差引400圓の社債買入償還損を生じたのである。

- 22 株金勘定について述べよ。

株金勘定は株式會社の公稱資本金を示す勘定であ

(追加問題)

つて、拂込済資本金は未拂込株金を差引いて求められる。株金の金額は一株の金額と株数とから容易に求められる。蓋し、我國の商法は株式には一定の金額を附けること、及びその金額は均一なることを規定してゐる(第百四十五條)。然るに米國に於ては額面なしの株式(No-par stock)が発行される。かゝる場合に株金勘定を何程として記帳するかについて種々の方法がある。株式の発行價額による方法、株式の市價による方法、名目的金額による方法、資本金と利益留保とを區別せず一括して「資本」として表示する方法等がある。

23 利益による株式の消却は如何に記帳するか。

商法百五十一條第二項の但書によつて株主に配當すべき利益を以て株式を消却することが出来る。この場合に株式の消却によつて資本金が減少すると解すれば、次の仕譯となる。但し、金額を5,000圓とする。

資本金	5,000.—	現金	5,000.—
及び			

前期繰越損益	5,000.—	別途積立金	5,000.—
--------	---------	-------	---------

併し利益による株式の消却は資本金を減じないと解するときは次の仕譯を得る。

前期繰越損益	5,000.—	現金	5,000.—
--------	---------	----	---------

24 利息の配當とは何か。

會社設立後二年以上開業し得ないと認められるときは、定款に規定し且つ裁判所の認可を経て、利息(但し法定利率を超えない利率)の配當が出来る(商法百九十六條)。これを利益の配當と區別して利息の配當と云ひ、かゝる利息を建設利息といふ。建設利息は建設費に加算されて資産化されるのが普通であるが、別勘定として開業後出来得る限り速かに消却すべきである。

25 Surplus 及び Appropriation account とは何か。

Surplus とは剰餘金の意味であつて、一般に利益の留保を指すこともあれば、又特殊な積立金を除いた残りの利益留保を指すこともある。

Appropriation account は「純益處分勘定」であつて、純益處分の方法を記録に残す爲めに設けられる勘定であり、處分される利益が同勘定の貸方に、その結果が同勘定の借方に表はれる。

26 積立金と準備金との區別を明かにせよ。

商法第百九十四條の條文には準備金なる語を用ひて利益の積立を指示してゐるが、教科書に於ては利益の積立即ち利益の留保を積立金と呼び、評價勘定を示すに準備金の語を用ひた。利益の留保と資産の評價勘定(例へば減價消却準備金、貸倒準備金)とは混同されやすく、英語でも共に Reserve と云はれることがあるが、兩者はその性質が異なつてゐるから明確に區別すべきであつて、積立金の Reserve に對して準備金(引當金とも云はる)を Allowance と呼ぶやうになりつゝある。

積立金勘定は利益の留保されてゐることを示す勘定であつて、積立金の額に相當する資産が現金か賣掛金か商品か何等かの形で存在することを示すのであるが、減價消却準備金又は貸倒準備金はその反對に資産に生じた穴を示す勘定であつて資産の消滅を物語るものである。かく、兩者は性質が異なつてゐるから觀念上區別すべきである。併し資産の評價と損益とは直接に關聯してゐるから、積立金と準備金との區別が事實上困難な場合が多い。例へば過大な減價消却を行つてこれを減價消却準備金に計上してゐる場合は同準備金勘定は同時に積立金勘定の性質をも持つことになる。又減價消却にしても貸倒の見積にして



も共に将来に対する豫想を計算の要素に含んでゐるから、時日が経過した後實際の結果と必ずしも一致せず、そこに準備金の過不足が生ずる。若し準備金が過大であれば積立金の性質をも帯びることに立ち到るのである。けれどもこれは見積の誤から生じたことであつて、準備金と積立金とを區別する必要なしとする理由にはならない。積立金と準備金とを區別して記録すること又はそう努力することは勘定科目の計算内容を明確にし、統一にする所以である。

27 次の問題に答へよ。

(1) 減價消却準備金は負債なりや、利益の留保なりや又は其他の性質を有するや。 (小樽, 昭和3年度より。)

(2) 社債償還積立金勘定と減價消却準備金勘定との仕譯上の差異如何。 (大阪高商部, 昭和6年度より。)

前問題の解答から明かなやうに、減價消却準備金は負債でもなければ、利益の留保でもなく、建物仕器の評価勘定であり、損益計算の前に計上すべき性質のものであるが、社債償還積立金は利益の留保であつて、損益計算の後に純利益の處分として設けられるものである。故に減價消却準備金を作るときの仕譯は借方減價消却費、貸方減價消却準備金の仕譯となるが、社債償還積立金を設けるときの仕譯は借方前期繰越損益、貸方社債償還積立金となる。若し減價消却を直接に損益勘定に課し、又社債償還積立金をも直接に損益勘定に課せば、仕譯は共に借方損益勘定となつて仕譯上の形式は同一となるが、その意味する所の異なつてゐることは上述の通りである。

28 個人營業、組合營業及び株式會社營業の簿記は如何なる點に於て異なるか。

營業の形態がその簿記に影響する所は主として資本金及び純損益處分の處理方法である。第九章はこの點を明かにしたのである。株式會社に於ては借入金の特種な形式、即ち社債がある。追加問題21を看よ。

29 下記の諸勘定につき、

- a. 残高の常に借方にあるもの。
- b. 残高の常に貸方にあるもの。
- c. 残高の貸借不定なるもの。

に分類せよ。 (大倉, 昭和4年度より。)

資本金、當座預ケ金、定期預ケ金、不渡手形、未着商品、受託販賣品、諸向貸借、積立金、假渡金、未拂金、創業費、繰越利益金。

(a) に屬すものは、當座預ケ金、定期預ケ金、不渡手形、未着商品(但し未着品損益を別勘定とする場合)、假渡金、創業費。

(b) に屬すものは、資本金(多くの場合然りであるが欠損の結果借方残となることも起る)、積立金、未拂金、繰越利益金。

(c) に屬すものは、資本金、未着商品(未着品損益を別勘定としない場合)、受託販賣品、諸向貸借。

30 次の術語を説明せよ。

- 1. Controlling. (1) 下巻17頁を看よ。
- 2. Valuation a/c. (2) 下巻22頁(191頁)を看よ。
- 3. Per Contra. a/c. (3) 第四篇第三章追加問題16(193頁)を看よ。
- 4. Contingent liability. (4) 同上。
- 5. Deferred item. (5) 第四篇第八章問題3の解答(217頁)を看よ。
- 6. Accrued item. (6) 同上。
- 7. Imprest system. (7) 下巻31頁を看よ。
- 8. Non-operating income. (8) 下巻45頁(214頁)を看よ。

## 第五篇 帳簿

### 第一章 帳簿の種類及組織

#### 要約

##### 一 帳簿の種類<sup>(1)(2)</sup>

主要帳簿—補助帳簿—その主なるもの—補助元帳  
(Subsidiary Ledger)—補助記入帳

##### 二 帳簿組織<sup>(3)</sup>

主要帳簿の組織—總勘定元帳—原始記入簿—その工夫改良—特別欄—特殊仕譯帳—大陸式記帳方法及英米式記帳方法

問題 主要簿と補助簿との區別を明かにせよ。

下巻 68 頁の一を看よ。

#### 追加問題

仕譯帳及び總勘定元帳を省略することが出来るか。

複式簿記に於ては總勘定元帳が記録計算の中心をなして居つて、これを省略することの出来ないのは既に述べた。併し省略し得ないといふ意味は實質的な意味であつて形式的な意味に於てはでない。即ち、計算單位たる勘定科目の個々についてその増減を計算

(1) 問題

(2) ポストン式元帳 (Boston, Progressive, or Tabular Ledger) は日附順に左から右へ記録するやうに工夫された元帳であつて、科目欄を左端に設け、それに續いて借方、貸方、残高の金額欄を日を追ふて設けたものである。米國に於て銀行の預金元帳として多く用ひられたことがあると云ふ。

(3) 仕譯帳及び元帳の要、不要については「追加問題」を看よ。

するといふ實質的な意味での總勘定元帳は省略することが出来ないのである。けれども標準式なり、残高式なりの罫線の引かれた元帳はこれを省略して、これに代るべき帳簿を作ることが出来る。例へば總ての勘定科目を一葉に記入し、日々の取引を記録し、且つその日までの累計を求めて毎營業日にその一葉を作成すれば所謂總勘定元帳を省き得るのである。この表に於ては、前日繰越高、本日取引高、本日迄の累計高及び本日残高の欄を設けるならば完全である。この方法を用ひるときは日々試算表を作成するのと同じことになるから、營業状態の通覽には便宜であるが、日々總ての科目の金額を記入せなければならぬので、取引の餘り頻繁に起らない科目については同一金額を反復記録する不便がある。

次に仕譯帳は元帳記入の仲介者たる任務をはたすものであるから、これを省いて、取引を直接に元帳へ記入することは可能である。又仕譯帳を省略して、後に述べる取引證憑書又は傳票をこれに代へ、これらの書類から直ちに元帳へ記入することも出来る。併し仕譯帳に代る何等かの記録のない限り、仕譯帳を省略することは後日に到つて取引の事實を調査する場合に不便と困難とを感ずるであらう。

### 第二章 多桁式仕譯帳

#### 要約<sup>(4)</sup>

特別欄ある仕譯帳—その記入方法—元帳轉記方法—

(242頁へ續く)

(4) 問題 1—3

仕 譯 帳

昭和 年 月 日

商 品	當座預金	現 金	諸 口	元 頁	摘 要	元 頁
		5,000 00		✓	現 金 資本金	9
	3,000 00			✓	當座預金	2
			1,200 00	6	什器造作	✓
4,000 00				✓	商 品 青木商店	7
		2,000 00		✓	現 金 商 品	✓
			20 00	10	營 業 費 現 金	✓
			2,000 00	7	青木商店 當座預金	✓
				12	諸口 商 品	✓
	500 00		500 00	3	西田商店 當座預金	✓
6,000 00				✓	商 品 青木商店	7
		500 00		✓	現 金 西田商店	3
	2,000 00			✓	當座預金 現 金	✓
			1,500 00	4	受取手形 商 品	✓
			2,000 00	7	青木商店 諸口	✓
				8	當座預金 支拂手形	8
10,000 00	5,500 00	7,500 00	7,220 00	✓		✓
			7,500 00	1		1
			5,500 00	2		2
			10,000 00	5		5
			30,220 00			

總勘定元帳

諸 口	現 金	當座預金	商 品	現 金	1
5,000 00				20 7,500.00	20 6,220.00
	3,000 00			當 座 預 金 2	
	1,200 00			20 5,500.00	20 3,000.00
4,000 00				西 田 商 店 3	
			2,000 00	12 商品 500.00	17 現金 500.00
	20 00			受 取 手 形 4	
		2,000 00		18 商品 1,500.00	
			1,000 00	商 品 5	
				20 10,000.00	20 4,500.00
6,000 00				什 器 造 作 6	
500 00				2 現金 1,200.00	
	2,000 00			青 木 商 店 7	
			1,500 00	10 當預 2,000.00	3 商品 4,000.00
				20 諸口 2,000.00	15 " 6,000.00
		1,000 00		支 拂 手 形 8	
1,000 00					20 青木 1,000.00
16,500 00	6,220 00	3,000 00	4,500 00	資 本 金 9	
6,220 00					1 現金 5,000.00
3,000 00				營 業 費 10	
4,500 00				7 現金 20.00	
30,220 00					

六桁仕譯帳—八桁仕譯帳—桁数増加の利害—六桁仕  
譯帳例示

問 題

- 1 多桁式仕譯帳とは如何なる仕譯帳であるか。  
下巻71頁を看よ。
- 2 多桁式仕譯帳の長所短所を挙げよ。下巻74頁を看よ。
- 3 次の取引を現金當座預金及び商品の特別欄ある八桁仕  
譯帳に記録し、且元帳轉記の結果を示せ。(240—241頁)
  - 1日 現金5,000圓を以て營業を開始す。
  - 2日 現金3,000圓を當座預金とす。
  - "日 什器造作の代金1,200圓を現金にて支拂ふ。
  - 3日 青木商店より商品4,000圓を掛にて買入る。
  - 5日 藤本商店へ商品2,000圓を現金にて賣渡す。
  - 7日 營業費20圓を現金にて支拂ふ。
  - 10日 青木商店へ買掛金の内2,000圓を小切手にて支拂ふ。
  - 12日 西田商店へ商品1,000圓を賣渡し、代金の内500圓は  
掛、残額500圓は小切手にて受取り直ちに當座預金  
とす。
  - 15日 青木商店より商品6,000圓掛にて買入る。
  - 17日 西田商店より賣掛金500圓を現金にて受取る。  
"日 現金2,000圓を當座預金とす。
  - 18日 川田商店へ商品1,500圓を賣渡し、代金は同店振出當  
店宛約束手形にて受取る。
  - 20日 青木商店へ買掛金の内拂として、小切手1,000圓、當店  
振出約束手形1,000圓を振出交附す。

第三章 特殊仕譯帳

要 約<sup>(5)</sup> <sup>(6)</sup> <sup>(7)</sup>

特別欄の分離—特殊仕譯帳(Special Journal)の便益—特別  
欄の利用

一 現金出納帳

記入方法—元帳轉記—一部現金取引の記入方法—收  
納帳(Cash Received Book)と支拂帳(Cash Payment Book)—  
現金出納帳例示

二 現金當座預金出納帳

記入方法—手形割引取引の記入法—現金の預入引出  
取引の記入法—元帳轉記—現金當座預金出納帳例示

三 仕入帳

記入及び轉記の方法—現金仕入取引の記入法—その  
別法—手形仕入取引の記入法—仕入品返送取引の記  
入法—仕入帳例示

四 賣上帳<sup>(8)</sup>

記入及び轉記の方法—掛以外の賣上取引の記入法—  
賣上品戻入取引の記入法—賣上帳例示

五 普通仕譯帳(General Journal)

記入の範圍—開始記入—決算記入—訂正記入—其他

(5) 問題 1

(6) 特殊仕譯帳として用ひられる帳簿については「追加問題」4を看よ。

(7) 元帳の分割については「追加問題」6—8を看よ。

(8) 追加問題 5

### 振替取引記入

#### 六 二個の仕譯帳に亙る取引の記帳法<sup>(9)</sup> <sup>(10)</sup>

貸借何れか一方の場合—その二つの記入法—貸借何れもの場合—その二つの記入法

#### 問題

- 1 特殊仕譯帳には如何なる利便があるか。  
下巻76頁を看よ。
- 2 特殊仕譯帳記入に當つて注意を要する點如何。  
下巻93頁の六を看よ。取引が二つ以上の仕譯帳に亙る場合の取引の分割記入及びその元帳への轉記に注意を要するのである。
- 3 第七篇の第二例題及び第三例題を記帳せよ。  
369頁以下を看よ。

#### 追加問題

- 4 特殊仕譯帳として用ひられる帳簿を擧げてこれを説明せよ。  
現金出納帳、當座預金出納帳、仕入帳、賣上帳については下巻76-91頁を看よ。  
受取手形記入帳、支拂手形記入帳を特殊仕譯帳として用ひ、手形を受入れた場合に受取手形記入帳に相手の勘定科目と共に記入し、手形の振出し又は引受をしたときに支拂手形記入帳に相手の勘定科目と共に記入して後、相手の勘定は個々に轉記するが受取手形記入帳の合計は受取手形勘定の借方に總括轉記し、支拂手形記入帳の合計は支拂手形勘定の貸方に總括して

(9) 問題 2

(10) 問題 3

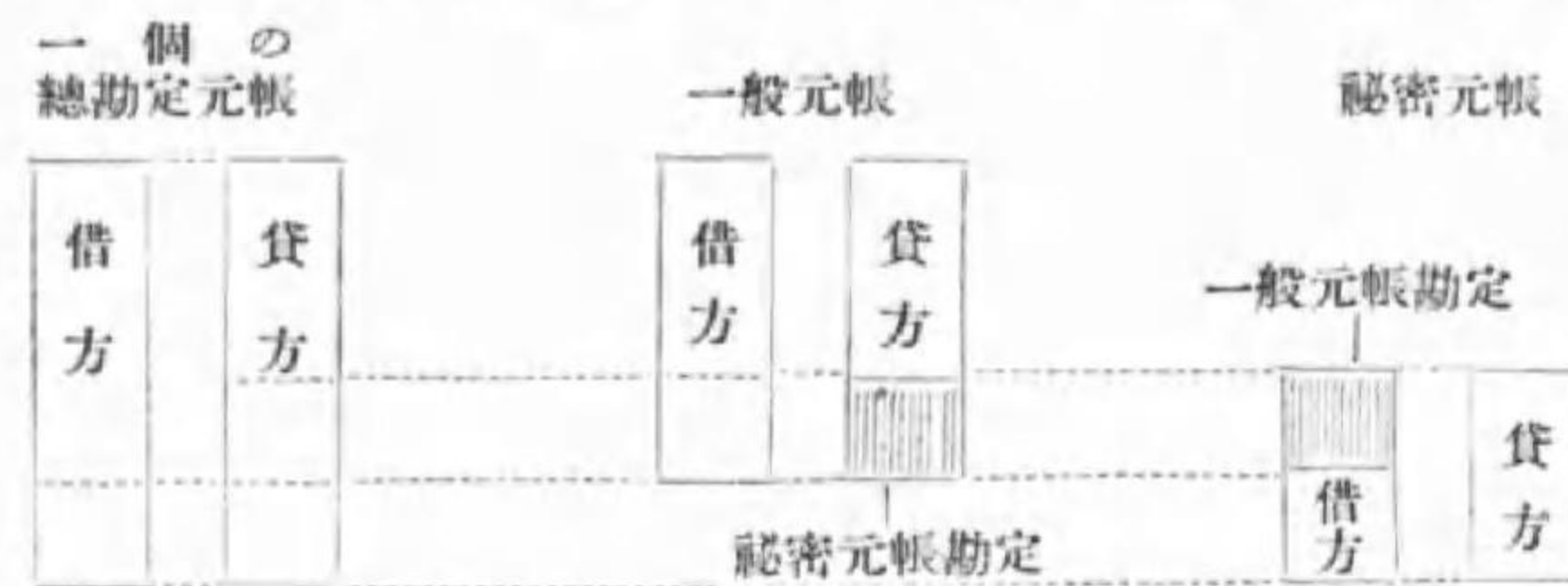
轉記することがある。この場合に受取手形の代金受入裏書讓渡、割引は現金出納帳又は仕譯帳に記入され、支拂手形の代金支拂は現金出納帳又は仕譯帳に仕譯記入される。

- 5 某商店は普通仕譯帳の外に現金帳、仕入帳及び賣上帳を各仕譯帳として採用し、掛賣に就いては得意先元帳なる特殊元帳を用ひ、總勘定元帳には單に掛貸なる統轄勘定を有すといふ。然らば次の各場合に於ては如何に賣上仕譯帳に記録し、且つ元帳へ轉記すべきや。
  - 1 現金賣上
  - 2 約束手形による賣上
  - 3 商品切手による賣上
  - 4 戻り品(京城、昭和5年度より)  
以上四つの場合については下巻91頁を看よ。尙ほ商品切手については下巻19頁を看よ。
- 6 元帳の分割について述べよ。

特殊仕譯帳を設けて仕譯帳を分割するやうに、總勘定元帳を分割して二つ又はそれ以上とすることがある。例へば、一般元帳の外に秘密元帳(Private ledger)を設けて、記帳係に知らしめることを欲しない勘定—資本金、借入金等—をこれに移すことがあり、又支店のある場合に支店が獨立して總勘定元帳を設けこれに取引を記録するが如きである。

既に述べたやうに總勘定元帳は全體として常に貸借の平均を保つてゐる。所がその内に含まれる一勘定又は數勘定を引離して元帳を分割するときは、各元帳は貸借平均の状態を保ち得ず、従つて試算表による檢算の便宜が失はれる。そこで分割後の元帳が各自に貸借平均の状態を保ち得るやうな工夫が施される。かゝる工夫のなされた元帳を Self-balancing Ledger と云ふ。

分割された各元帳が獨立して貸借平均の状態を保つには一方の元帳内に他方の元帳を一括して代表する一勘定を夫々設けるのである。例へ秘密元帳を設けた場合には一般元帳内に秘密元帳勘定を設け、同時に秘密元帳内に一般元帳勘定を設ける。又支店の元帳を獨立する場合には本店元帳内に支店勘定を設け、支店元帳内に本店勘定を設けるのである。(318頁参照)



7 某商店は從來使用し來りたる總勘定元帳の資本金口座貸方残 18,500 圓,借入金口座貸方残 3,500 圓,放資金口座借方残 4,000 圓及び商品棚卸口座借方残 5,000 圓を新たに設けたる秘密元帳に移せり。

- (a) 右移記に關する兩元帳の仕譯を示せ。  
但し、兩元帳を Self-balance することを要す。
- (b) 其の後放資金の内 2,000 圓を 2,500 圓にて讓渡して現金を得、借入金の内 1,000 圓を現金にて返済するときの仕譯如何。
- (c) 期末に於て一般元帳につき次の試算表を得たり。  
仍て賣買勘定及び損益勘定を秘密元帳内に設けて損益の計算をなし、純益はこれを資本金に繰入る。但し、商品期末棚卸高 9,000 圓,保險料未經過高 200 圓,利子未拂高 60 圓とす。

一般元帳残高試算表

土地建物	8,400 00	賣上	43,755 00
現金	3,750 00	仕入先	1,050 00
得意先	2,500 00	支拂手形	1,310 00
取手形	1,400 00	秘密元帳勘定	14,500 00
保險料	350 00		
利子	85 00		
仕入器	42,000 00		
付料	1,100 00		
給料	600 00		
税金	180 00		
雜費	250 00		
	60,615 00		60,615 00

- (d) 決算後の兩元帳の残高試算表を作れ。  
(e) 同商店の貸借對照表を作成せよ。

(a) 一般仕譯帳に於て

(1) 資本金	18,500.—	放資金	4,000.—
借入金	3,500.—	商品棚卸勘定	5,000.—
		秘密元帳勘定	13,000.—

秘密仕譯帳に於て

(1) 一般元帳勘定	13,000.—	資本金	18,500.—
放資金	4,000.—	借入金	3,500.—
商品棚卸勘定	5,000.—		

(b) 一般仕譯帳に於て

(1) 現金	2,500.—	秘密元帳勘定	2,500.—
(2) 秘密元帳勘定	1,000.—	現金	1,000.—

秘密仕譯帳に於て

(1) 一般元帳勘定	2,500.-	放 資 金	2,000.-
		雜 收 入	500.-
(2) 借 入 金	1,000.-	一般元帳勘定	1,000.-
(c) 一般仕譯帳に於て			
(1) 未經過保險料	200.-	保 險 料	200.-
(2) 利 子	60.-	未 拂 利 子	60.-
(3) 賣上勘定	43,755.-	仕 入 勘 定	42,000.-
		給 料	600.-
		稅 金	180.-
		雜 費	250.-
		利 子	145.-
		保 險 料	150.-
		祕密元帳勘定	430.-
祕密仕譯帳に於ては			
(4) 仕 入 勘 定	42,000.-	賣 上 勘 定	43,755.-
給 料	600.-		
稅 金	180.-		
雜 費	250.-		
利 子	145.-		
保 險 料	150.-		
一般元帳勘定	430.-		
(5) 賣 買 勘 定	5,000.-	商 品 棚 卸 勘 定	5,000.-
(6) 商 品 棚 卸 勘 定	9,000.-	賣 買 勘 定	9,000.-
(7) 賣 買 勘 定	42,000.-	仕 入 勘 定	42,000.-
(8) 賣 上 勘 定	43,755.-	賣 買 勘 定	43,755.-
(9) 賣 買 勘 定	5,755.-	損 益 勘 定	5,755.-
(10) 損 益 勘 定	1,325.-	給 料	600.-
		稅 金	180.-
		雜 費	250.-
		利 子	145.-
		保 險 料	150.-

(11) 雜 收 入	500.-	損 益 勘 定	500.-
(12) 損 益 勘 定	4,930.-	資 本 金	4,930.-

一般元帳残高試算表

現 金	3,750 00	仕 入 先	1,050 00
得 意 先	2,500 00	支 拂 手 形	1,310 00
受 取 手 形	1,400 00	未 拂 利 子	60 00
什 器	1,100 00	祕密元帳勘定	14,930 00
土 地 建 物	8,400 00		
未經過保險料	200 00		
	17,350 00		17,350 00

祕密元帳残高試算表

放 資 金	2,000 00	借 入 金	2,500 00
商 品 棚 卸 勘 定	9,000 00	資 本 金	23,430 00
一般元帳勘定	14,930 00		
	25,930 00		25,930 00

貸借對照表

現 金	3,750 00	仕 入 先	1,050 00
得 意 先	2,500 00	支 拂 手 形	1,310 00
受 取 手 形	1,400 00	未 拂 利 子	60 00
放 資 金	2,000 00	借 入 金	2,500 00
商 品 棚 卸	9,000 00	資 本 金	
什 器	1,100 00	元入高	18,500.00
土 地 建 物	8,400 00	純利益	4,930.00
未經過保險料	200 00		
	28,350 00		28,350 00

8 某商店に於て、獨自平均元帳 (Self-balancing ledger) として總勘定元帳及び得意先元帳を設けたりと假定し、下記要項により次の二勘定を記入し、其の残高を昭和2年12月

31日に於て次期に繰越したる有様を示せ。

1. 總勘定元帳に於ける得意先元帳整理勘定
2. 得意先元帳に於ける總勘定元帳整理勘定

要 項

(I) 昭和2年10月1日現在得意先へ賣掛金残高合計24,621圓

(II) 昭和2年10月1日より同年12月31日に至る間の各種取引及び其の合計金額は下の通り。

- (1) 諸得意先より賣掛金を現金にて回収したる額30,292圓。
- (2) 諸得意先へ割引したる額1,216圓。
- (3) 賣掛金と振替へに諸得意先に手形の引受を求め得たる額5,365圓。
- (4) 諸得意先に掛にて商品賣渡高46,219圓。
- (5) 諸得意先より賣渡商品を返戻されたる額 324圓。
- (6) 得意先引受手形不渡の爲め取引銀行に償還したる額 300圓。
- (7) 得意先某に對する賣掛金回収不能の爲め貸倒と決定整理額1,214圓。
- (8) 得意先某負擔の運賃を立替へ支拂ひたる額15圓

(彥根, 昭和3年度より)

兩元帳に於ける整理勘定 (Adjustment account) は次頁の通りである。

人名勘定を總勘定元帳から引離して仕入先元帳及び得意先元帳を作るときに賣掛金を統轄する賣掛金勘定と買掛金を統轄する買掛金勘定とを總勘定元帳内に設けると總勘定元帳は貸借平均の状態を保つことは既に述べた所から明かであるが、仕入先元帳及び得意先元帳は貸借平均せず、前者は貸方残を後者は借

總勘定元帳		得意先元帳	
得意先元帳整理勘定		總勘定元帳整理勘定	
繰越 24,621.—	(1) 30,292.—	(1) 30,292.—	繰越 24,621.—
(4) 46,219.—	(2) 1,216.—	(2) 1,216.—	(4) 46,219.—
(6) 300.—	(3) 5,365.—	(3) 5,365.—	(6) 300.—
(8) 15.—	(5) 324.—	(5) 324.—	(8) 15.—
	(7) 1,214.—	(7) 1,214.—	
	38,411.—	38,411.—	
	残高 32,744.—	残高 32,744.—	
	71,155.—	71,155.—	
繰越 32,744.—			繰越 32,744.—

方残を示す。今この仕入先及び得意先の元帳を Self-balance せしめるには、上記のやうな總勘定元帳を代表する(換言すれば賣掛金勘定又は買掛金勘定を反映する)整理勘定を設けるのである。この方法によつて得意先元帳及び仕入先元帳から獨立して各自に試算表を作り貸借平均の状態を見て記録の正否を検することが出来る。故に一見この方法は便利のやうであるが實はさう効果はない。といふのは、仕入先、得意先の元帳は容易に總勘定元帳の賣掛金及び買掛金勘定と突合することが出来るから、整理勘定を設けて記入する手数をかけることは無用の技である。秘密元帳の場合とか又は地域の隔つてゐる本支店の間では各元帳が獨立して貸借平均する状態にあることは便宜であるが、仕入先、得意先の元帳の場合はさうではない。

仕入先、得意先の元帳に整理勘定を設ける手数をかけるならば、寧ろ賣掛金勘定、買掛金勘定を取引先のイロハ順又はその他の方法で分割して數個の賣掛金勘定、買掛金勘定を設けて誤謬の範圍を狭くし、その發見を容易にすることが、多數の取引先を記帳する場合には好ましいことである。



## 第四章 總勘定元帳と補助元帳との關係

### 要約<sup>(11)</sup>

原始記入簿より轉記—原始記入簿と總勘定元帳補助元帳との關係—記入轉記の方法—普通仕譯帳經由の轉記方法—記帳例示

**問題 I** 次の取引を當座預金出納帳・仕入帳・賣上帳及び普通仕譯帳を用ひて記帳し、且元帳へ轉記せよ。但し、賣掛金・買掛金の統轄勘定と得意先・仕入先の補助元帳とを用ひ、且つ現金仕入及び賣上はその儘記帳し、戻し、戻りは赤記する方法による。

1日 次の繰越につき開始記入を行ふ。

當座預金	4,800圓	小口現金	200圓
賣掛金	2,500圓	受取手形	2,000圓
繰越商品	1,200圓	什器	1,000圓
買掛金	3,000圓	支拂手形	1,000圓
資本金	7,700圓		

但し、賣掛金内譯 甲商店 1,000圓 乙商店 1,500圓  
買掛金内譯 丙商店 1,800圓 丁商店 1,200圓

2日 甲商店へ掛にて商品 800圓を賣渡す。

3日 丙商店より商品 3,000圓を掛にて買入る。

4日 乙商店より賣掛金の内 1,000圓を小切手にて受取り當座預金とす。

5日 支拂手形 1,000圓を小切手にて支拂ふ。

"日 丙商店へ買掛金の内拂として小切手 2,000圓を引渡す。

(11) 問題 I 及び II

7日 商品 500圓小切手にて賣渡し當座に預入る。

8日 丁商店より掛にて商品 2,000圓を買入る。

9日 丁商店へ商品 150圓を返送す。

11日 受取手形 2,000圓を割引し、割引料 10圓を差引いて手取金を當座預金とす。

14日 丁商店へ買掛金の内 1,500圓を小切手にて支拂ふ。

15日 乙商店へ商品 1,200圓を掛にて賣渡す。

17日 甲商店より同店振出約束手形 1,500圓を受取る。

20日 乙商店より商品 100圓を戻し來る。

22日 商品 200圓を現金にて賣渡し、現金は當座預金とす。

25日 丙商店へ買掛金の内拂として小切手 500圓及び當店振出約束手形 1,800圓を交附す。

27日 甲商店へ商品 2,000圓を賣渡し、代金の内 1,000圓は同店振出の約束手形にて受取り、残額は掛とす。

30日 用度係より次の通り小口現金拂出の報告あり。

運賃車力賃	30圓
倉敷料	20圓
家賃	70圓
旅費乗車賃	25圓
消耗品	20圓
雜費	15圓

"日 給料 100圓を小切手にて支拂ふ。

"日 次の決算要項にて精算表を作成す。

商品棚卸高	2,180圓
消耗品棚卸高	5圓
什器減價消却高	10圓

仕 譯 帳

昭和 年 月 1 日

1

買掛金	諸 口	元 頁	摘 要	元 頁	諸 口	賣掛金
			諸 口			
	4,800 00	1	當座預金	8	3,000 00	
	200 00	2	小口現金	9	1,000 00	
	2,500 00	3	賣掛金	10	7,700 00	
	2,000 00	4	受取手形			
	1,200 00	5	繰越商品			
	1,000 00	7	什 器			
			17			
	1,500 00	4	受取手形 甲商店	得1		1,500 00
			25			
1,800 00		仕1	丙商店	支拂手形	9	1,800 00
			27			
	1,000 00	4	受取手形 甲商店	得1		1,000 00
			30			
			諸 口			
			小口現金	2	180 00	
	30 00	13	運賃車力賃			
	20 00	14	倉 敷 料			
	25 00	16	旅費乗車賃			
	70 00	17	家 賃			
	15 00	18	雜 費			
	20 00	6	消 耗 品			
			"			
1,800 00	1,800 00	8	買掛金	3	2,500 00	2,500 00
	16,180 00				16,180 00	

仕 入 帳

1

昭和年	摘 要	元 頁	掛	現金
3	丙 商店 掛	仕1	3,000 00	
8	丁 商店 "	仕2	2,000 00	
9	丁 商店 戻シ	仕2	*(150 00)	
30	(借方) 仕入, (貸方) 買掛金	11/8	5,000 00	
	(借方) 買掛金, (貸方) 仕入	8/11	*(150 00)	
			4,850 00	

賣 上 帳

1

2	甲 商店 掛	得1	800 00	
7	現 金 賣	✓		500 00
15	乙 商店 掛	得2	1,200 00	
20	乙 商店 戻リ	得2	*(100 00)	
22	現 金 賣	✓		200 00
27	甲 商店 掛及手形	得1	2,000 00	
30	(借方) 賣掛金	3	4,000 00	700 00
		✓	700 00	
	(貸方) 賣 上	12	4,700 00	
	(借方) 賣上, (貸方) 賣掛金	12/3	*(100 00)	
			4,600 00	

\*括弧を附したのは赤記

當座預金出納帳

1

昭和年	勘定科目	摘要	元頁	賣掛金	諸口	昭	和	勘定科目	摘要	元頁	買掛金	諸口
4	乙商店	現金	得2	1,000.00		5	支拂手形			9	1,000.00	
7	受取手形	現金	4	500.00		"	丙商店			仕1	2,000.00	
11		現金	4	2,000.00		11	割引			19	10.00	
22				200.00		14	丁商店			仕2	1,500.00	
						25	丙商店			仕1	500.00	
30		(貸方)賣掛金	3	1,000.00	2,700.00	30	給			15	100.00	
		(借方)當座預金	1	2,700.00		"				8	4,000.00	1,110.00
		前月繰越高	1	3,700.00						1	1,110.00	
				4,800.00							5,110.00	
				8,500.00							3,390.00	
											8,500.00	

總勘定元帳

當座預金 1		支拂手形 9	
1 繰越 <sup>(12)</sup> 4,800.-	30 出納帳 5,110.-	5 出納帳 1,000.-	1 繰越 1,000.-
30 出納帳 3,700.-			25 仕譯帳 1,800.-
小口現金 2		資本金 10	
1 繰越 200.-	30 仕譯帳 180.-		1 繰越 7,700.-
賣掛金 3		仕入 11	
1 繰越 2,500.-	30 仕譯帳 2,500.-	30 仕入帳 5,000.-	30 仕入帳 150.-
30 賣上帳 4,000.-	" 出納帳 1,000.-	賣上 12	
	" 賣上帳 100.-	30 賣上帳 100.-	30 賣上帳 4,700.-
受取手形 4		運賃車力賃 13	
1 繰越 2,000.-	11 出納帳 2,000.-	30 仕譯帳 30.-	
17 仕譯帳 1,500.-		倉敷料 14	
27 " 1,000.-		30 仕譯帳 20.-	
繰越商品 5		給料 15	
1 繰越 1,200.-		30 出納帳 100.-	
消耗品 6		旅費乗車賃 16	
30 仕譯帳 20.-		30 仕譯帳 25.-	
什器 7		家賃 17	
1 繰越 1,000.-		30 仕譯帳 70.-	
買掛金 8		雜費 18	
30 仕譯帳 1,800.-	1 繰越 3,000.-	30 仕譯帳 15.-	
" 出納帳 4,000.-	30 仕入帳 5,000.-	割引料 19	
" 仕入帳 150.-		11 出納帳 10.-	

(12) 仕譯帳から轉記したものであるから、摘要を仕譯帳として差支ないが、特に繰越であることを示すためにかく記入したのである。以下の各口座に繰越とあるのも同様の意味である。

仕入先元帳

丙 商店 1	
5 當預	2,000.-
25 "	500.-
" 手形	1,800.-

丁 商店 2	
9 戻シ	150.-
14 當預	1,500.-

借方	貸方	貸方残
丙商店	4,300.-	4,800.-
丁商店	1,650.-	3,200.-
買掛金	5,950.-	8,000.-
		2,050.-

得意先元帳

甲 商店 1	
1 繰越	1,000.-
2 賣上	800.-
27 "	2,000.-

乙 商店 2	
1 繰越	1,500.-
15 賣上	1,200.-
20 戻リ	100.-

借方	貸方	借方残
甲商店	3,800.-	2,500.-
乙商店	2,700.-	1,100.-
賣掛金	6,500.-	3,600.-
		2,900.-

精算表及び問題Ⅰは次頁を看よ。

第五章 特別欄の利用

要約<sup>(13)</sup>

一 原始記入簿の特別欄<sup>(14)</sup>

總括轉記—多桁式仕譯帳—現金出納帳の割引料欄—  
 同營業費欄—仕入帳賣上帳の手形欄諸口欄—收納帳  
 例示—支拂帳例示—賣上帳例示—原始記入簿特別欄  
 記入上の注意 (260頁~續く)

(13) 問題 1

(14) 問題 2 及び 4

Ⅰ 第七篇の第四例題を記帳せよ。

415 頁以下を看よ。

精算表

勘定科目	試算表		修正記入	損	益	貸借対照表	
	借方	貸方				借方	貸方
當座預金	8,500.00	5,110.00				3,350.00	
小口現金	200.00	180.00				20.00	
買掛金	6,500.00	3,600.00				2,900.00	
受取手形	4,500.00	2,000.00		1,200.00		2,500.00	
繰越商品	1,200.00					5.00	
消耗品	20.00		( ) 15.00			590.00	
仕買掛金	1,000.00		(c) 10.00				
支拂掛金	5,950.00	8,000.00					
責任仕買掛金	1,000.00	2,800.00					
仕買掛金	5,000.00	7,700.00		5,000.00			
入上貨	100.00	150.00					150.00
貨車	30.00	4,700.00					4,700.00
貨車敷	20.00			100.00			
倉給	100.00			30.00			
旅費	25.00			20.00			
家費	70.00			25.00			
雜費	15.00		(b) 15.00	70.00			
割引	10.00			30.00			
				10.00			
	24,240.00	34,240.00					
繰越商品(期末)							2,180.00
減價				10.00			
消費				435.00			
當			25.00	7,030.00			11,985.00
							425.00
							11,985.00

## 二 補助帳簿の特別欄<sup>(15)</sup>

勘定口座式記録の省略—小口現金記入帳、営業費内訳帳—仕入帳、賣上帳の特別欄

### 問題

- 1 特別欄を設けると如何なる利便があるか。  
下巻108頁及び112頁を看よ。
  - 2 原始記入簿には如何なる特別欄が設けられるか。  
下巻108頁の一を看よ。
  - 3 補助帳簿に利用される特別欄について述べよ。  
下巻112頁の二を看よ。
  - 4 次の取引を割引料欄・銀行欄・現金欄・賣掛金欄及び諸口欄ある収納帳と銀行欄・現金欄・買掛金欄・営業費欄及び諸口欄ある支拂帳とに記入し、且これを元帳に轉記せよ。  
但し、銀行當座預金の繰越高 4,750圓  
現金の繰越高 1,280圓
- 1日 甲商店より賣掛金の内2,000圓を小切手にて受取り當座に預入る。
- 3日 丙商店より賣掛金の内300圓を現金にて受取る。
- 5日 A商店へ買掛金の内1,000圓を現金にて支拂ふ。
- "日 雑費56圓を現金にて支拂ふ。
- 6日 約束手形1,500圓を割引し、割引料15圓を差引き當座に預入る。
- "日 乙商店より賣掛金の内1,000圓を現金にて受取り、直ちに當座に預入る。
- 8日 B商店へ買掛金5,000圓を小切手にて支拂ふ。

(15) 問題 3

- 10日 商品 500圓を仕入れ、代金は小切手にて支拂ふ。
- "日 電燈料15圓現金にて支拂ふ。
- 13日 爲替手形3,000圓を割引し、割引料30圓を差引き當座に預入る。
- 14日 小切手にて現金4,000圓を當座より引出す。
- 15日 C商店へ買掛金の内4,500圓を現金にて支拂ふ。
- 16日 商品 380圓を現金にて賣渡す。
- "日 家屋の修繕費 160圓を現金にて支拂ふ。
- 18日 旅費50圓を現金にて支拂ふ。
- 20日 A商店へ買掛金の内2,000圓を小切手にて支拂ふ。
- 21日 爲替手形4,500圓を割引し、割引料20圓を差引き手取金は當座預金とす。
- 23日 雑費34圓を現金にて支拂ふ。
- 25日 乙商店より賣掛金の内500圓を現金にて受取る。
- 27日 甲商店より賣掛金の内2,500圓を小切手にて受取り當座預金とす。
- 28日 約束手形1,200圓を割引し、割引料15圓を差引き手取金は當座に預入る。
- "日 丙商店より賣掛金の内3,000圓を現金にて受取る。
- 29日 現金3,000圓を當座に預入る。
- "日 約束手形1,000圓を小切手にて支拂ふ。
- 30日 雑費26圓を現金にて支拂ふ。
- "日 引受済の爲替手形500圓を小切手にて支拂ふ。
- "日 公債額面1,000圓を買入れ、代金980圓は小切手にて支拂ふ。

(下巻 113—114)

收 納 帳

割引料	預金	現金	昭和年	勘定科目	摘要	元頁	賣掛金	諸口
(16)	2,000 00		1	甲 商店		得1	2,000 00	
15 00	1,485 00	300 00	3	丙 商店		得3	300 00	1,500 00
30 00	1,000 00		6	乙 受取手形		得2	1,000 00	
	2,970 00	4,000 00	13	乙 受取手形	預金引出	4		3,000 00
20 00	4,480 00	380 00	14		商品現金賣	4		4,000 00
	2,500 00	500 00	21	受取手形		4	500 00	380 00
15 00	1,185 00		25	乙 商店		得2	2,500 00	4,500 00
	3,000 00	3,000 00	27	甲 商店		得1		
	18,620 00		28	甲 受取手形		4		1,200 00
80 00	4,750 00		29	丙 商店	現金預入	得3	3,000 00	3,000 00
	23,370 00	8,180 00	30	繰越高	(借方)現金	1	9,300 00	17,580 00
		1,280 00			當座預金	2	8,180 00	
		9,400 00			割引料	9	80 00	9,300 00
					(貸方)賣掛金	3		17,580 00
					諸口	1	26,880 00	26,880 00

(16) 米國に於ては、商品賣買代金の即時現金拂に對して現金割引(Cash Discount)の制度がある。この現金割引を記入するに「割引料欄」が利用される。かかる割引料欄は收納帳のみならず、支拂帳にも設けるのである。

支 拂 帳

預金	現金	昭和年	勘定科目	摘要	元頁	買掛金	營業費	諸口
5,000 00	1,000 00	5	A 商店	雜費支拂	仕1	1,000 00	56 00	
500 00	56 00	"	B 商店	商品現金買	仕2	5,000 00	15 00	500 00
4,000 00	15 00	10		電燈料支拂	仕3			
	4,500 00	14	C 商店	預金引出	仕1	4,500 00	100 00	4,000 00
	160 00	15		建物修繕費支拂	仕2		50 00	
	50 00	16		旅費支拂	仕3		34 00	
2,000 00	24 00	18	A 商店	雜費支拂	仕1	2,000 00		
	3,000 00	20		現金預入	仕2		26 00	3,000 00
1,000 00	26 00	23		雜費支拂	仕3			1,000 00
	500 00	29	支拂手形		仕1			500 00
	980 00	"	支拂手形		仕2			980 00
	13,980 00	30	支有價		仕3			9,980 00
	9,390 00	"	支有價		仕1	12,500 00	341 00	
23,370 00	9,460 00	"	支有價		仕2	12,500 00		
		"	支有價		仕3	341 00		
		"	支有價		仕1	9,980 00	8,841 00	
		"	支有價		仕2		13,980 00	
		"	支有價		仕3		22,821 00	

總勘定元帳

現金 1		有價證券 5	
1 繰越 1,280.-	30 支拂帳 8,841.-	30 支拂帳 980.-	
30 收納帳 8,180.-			
當座預金 2		買掛金 6	
1 繰越 4,750.-	30 支拂帳 12,500.-		
30 收納帳 18,620.-			
賣掛金 3		支拂手形 7	
	29 支拂帳 1,000.-		
	30 " 500.-		
	30 收納帳 9,300.-		
受取手形 4		營業費 8	
	30 支拂帳 341.-		
	6 收納帳 1,500.-	割引料 9	
	13 " 3,000.-		
	21 " 4,500.-	30 收納帳 80.-	
	28 " 1,200.-		

追加問題

5 部別計算に適する元帳勘定形式を作成し、下記某商店の商品に関する元帳勘定並に金額を用ひて各部別賣買損益を計算記帳したる有様を示せ。但各勘定は締切り、或は繰越を爲すべし。(彦根、昭和4年度より。)

某商店元帳勘定	合計金額	内訳金額		備考
		甲部	乙部	
1 棚卸商品	5,000.-	3,000.-	2,000.-	期首在高
" "	2,500.-	1,500.-	1,000.-	期末在高
2 仕入商品	7,500.-	4,500.-	3,000.-	一期間取扱高
3 賣上商品	11,400.-	6,900.-	4,500.-	"
4 戻り商品	570.-	340.-	230.-	"
5 戻し商品	370.-	220.-	150.-	"
6 賣品引渡費	450.-	250.-	200.-	"

次に、便宜上、仕入商品勘定と賣買勘定のみを示さう。下記は多桁式元帳(Columnar Ledger)の一例である。

仕入商品	仕入商品		賣買勘定	
	甲部	乙部	甲部	乙部
日付				
摘要	仕		期首棚卸高	
摘要	入		仕入高	
摘要			引渡	
摘要			費	
摘要			損	
摘要			益	
合計	7,500.00	3,000.00	5,000.00	2,000.00
合計			7,130.00	2,850.00
合計			450.00	200.00
合計			1,580.00	5,050.00
合計			750.00	220.00
合計			13,330.00	5,270.00

## 第六章 取引証憑書と帳簿との関係

### 要約

#### 一 取引証憑書<sup>(17)</sup>

取引の成立、取引の事実を示す書類—その重要性—その種類—営業の外部に対するものとその内部に対するもの

#### 二 証憑書と帳簿との関係<sup>(18)</sup>

記帳の材料—帳簿検査の材料帳—簿の補助証憑書記入帳<sup>(19)</sup>—記入事項—人名元帳兼用

### 問題

#### 1 証憑書とは何か。

下巻115頁の一を看よ。

#### 2 証憑書は何故重要であるか。

下巻115頁の二を看よ。

### 証憑書記入帳

額	金	口(借方)	
元買	元買	諸口	
勘定	勘定	科目	
借方	借方	費	
		業	
		(借方)	
		入	
		仕	
		(借方)	
		(貸)	
		支拂勘定	
		(貸方)	
		手	
		小切	
		番	
		日	
		月	
		支拂	
		日	
		名	
		氏	
		付	
		口	
		証憑書	
		番	

(17) 問題 1

(18) 問題 2

(19) 証憑書記入帳の簡單なる雛形は右の如きである。

(20) 支拂勘定 (Account Payable) は買掛金及び未拂金を合一した勘定と解すればよい。

## 第七章 事務分掌と所屬帳簿

### 要約

#### 一 分課制度<sup>(21)</sup>

事務分掌の組織—営業部、會計部、庶務部

#### 二 所屬帳簿<sup>(22)</sup>

専用の帳簿—傳票に依る傳達—所屬帳簿の主なるもの—補助帳簿と總勘定元帳との突合せ

### 問題

1 分課制度について述べよ。下巻117頁の一を看よ。

2 各係の所屬帳簿及びその記帳手續を説明せよ。

下巻117頁の二を看よ。

3 補助帳簿と總勘定元帳との突き合せについて説明せよ。

下巻118頁を看よ。

## 第八章 カード式及ルーズ・リーフ式帳簿

### 要約<sup>(3)</sup> <sup>(24)</sup>

綴込帳簿とカード式及びルーズ・リーフ式

#### 一 カード式

カードとその保存—カード式の利害—利用の範圍

#### 二 ルーズ・リーフ式

(21) 問題 1

(22) 問題 2—3

(23) 問題 1—2

(24) 記號の使用、記録計算器具の利用については「追加問題」3を看よ。



ルーズリーフ式帳簿の體裁—その利害—利用の範圍  
問題

- 1 綴込帳簿とカード式、ルーズリーフ式の帳簿とを比較して、その長所及び短所を挙げよ。

下巻119頁、120頁、121頁を看よ。

- 2 カード式とルーズリーフ式とを比較して、その長所短所を明かにせよ。下巻121頁を看よ。

追加問題

- 3 記號の使用及び記録計算器具の利用について述べよ。

記録計算の事務を敏捷にし誤謬を防ぎ、且つ人手を省く爲めに種々の器具が發明され利用されてゐる。その盛んなのは米國である。Adding Machine (加減乗除の計算器であつて、計算數字の記録されるもの)、Calculating Machine (計算器であるが、計算數字の記録されないもの)、Billing Machine (送狀、船荷證券等の書類を作成するに用ひ、計算器の附隨せるものと然らざるものとがある)、Book-keeping Machine (元帳記入を行ふ器具であつて、得意先元帳の記録に用ひるときは元帳記入と同時に勘定書をも作成し得る)、Cash Register (現金登録器)、Type-writer 等がある。

記録計算の便宜及び器具利用の爲めに勘定科目、その他の記録計算項目を表はすに數字又は文字或ひは兩者を併せて用ひる方法がある。(Numbering System of Accounts と云ふ。文字を用ふるものは Mnemonic System と呼ばれる。)例へば資産を表はすに100又はAを用ひ、その内の土地を示すに1又はAを用ひると土地勘定は101又はAAの番號又は記號にて表はされる。

第九章 商業帳簿に関する法規

要約<sup>(25)</sup>

一 帳簿の調製

日々の取引を一々記録—その例外—家事費<sup>(26)</sup>—小賣

二 財産目録及び貸借對照表の調製<sup>(27)</sup>

開業の時又は年一回一定時—會社の場合—會社設立の時及び毎年一回又は毎配當期

三 帳簿の提出

四 帳簿の保存

五 商業帳簿に関する罰則

問題

- 1 商業帳簿とは何か。下巻122頁の一及び二を看よ。
- 2 法律は帳簿に關して如何なる規定を設けてゐるかを述べよ。

下巻122頁の一及び二、124頁の三、四、及び五を看よ。

(25) 問題 1—2

(26) 家事費については第四篇第九章の「追加問題」12(223頁)を参照。

(27) 商法第百九十條の五に云ふ、「利息の配當」については第四篇第九章の「追加問題」24(234頁)を参照。

## 第六篇 決算

### 第一章 試算表

#### 要約

##### 一 試算表の意義及び種類<sup>(1)</sup>

元帳金額を集めた表—合計試算表—残高試算表—合計残高試算表

##### 二 試算表の機能<sup>(2)</sup>

誤謬存在の告知—営業状況の通覧

##### 三 試算表調製の時期

頻度の作成—日計表、月計表(Daily, Monthly Trial Balance)

##### 四 誤謬の存在と其の発見及び豫防<sup>(3)</sup>

試算表の貸借平均—仕訳帳合計との一致—仕訳帳分割の場合—誤謬の発見—検算突合せ—誤謬範囲の縮小—補助簿との突合せ—相違額より誤謬を見出す方法—試算表により知り得ない誤謬—誤謬の防止

#### 問題

##### 1 試算表は如何にして調製するか。

下巻126頁の一を看よ。

##### 2 試算表を屢作成する必要如何。

下巻126頁の二及び129頁を看よ。

(1) 問題 1

(2) 問題 2

(3) 問題 3—5, 及び追加問題 6—8

##### 3 試算表は如何なる場合に誤謬の存在を示すか。又試算表によつて知り得ない誤謬があるか。

下巻127頁及び130頁を看よ。

##### 4 誤謬を発見する方法如何。

下巻128頁及び129頁を看よ。

試算表を屢作成することは誤謬の範囲を狭くする一つの方法であるが、勘定科目を適度に綜合して補助帳簿(補助元帳)を設け、兩者の突合せを屢行ふことも亦誤謬の範囲を狭くする一方法である。試算表を作成してその貸借が平均しないときは誤謬のあることを知るが、それが何處にあるかを知るには各勘定科目について一々吟味する必要がある。所が補助帳簿のある勘定科目はその突合せによつて正否を知り、若し兩者が一致しないときはその範囲内に於て誤謬の所在を探ればよいのである。従つてそれだけ誤謬の範囲を狭めることになる。例へば得意先、仕入先を賣掛金、買掛金にて總括し、補助元帳を設ける場合の如し。

##### 5 誤謬の發生は如何にして豫防するか。

下巻130頁を看よ。

#### 追加問題

##### 6 某商店にて現金當座預金出納帳仕入帳及び賣上帳を一般仕訳帳と共に主要簿として用ひ、總勘定元帳へは各帳簿より直接轉記を行ふこととせり。今これらの主要簿及び諸補助帳簿より知り得たる事項を次の如しとして、合計試算表を作成し、且その總計が如何なる金額と一致するかを示すべし。

A	現金預金出納帳	現金欄	銀行欄	掛欄
	借方	15,180.—	16,725.—	4,400.—
	貸方	11,940.—	12,500.—	3,000.—

	現金欄	掛 欄	手形欄
B 仕入帳	3,550.-	7,500.-	7,950.-
C 賣上帳	4,650.-	12,000.-	6,220.-
D 受取手形及び支拂手形記入帳			
手形受入高 10,220圓(但し繰越高を含まず)			
(商品代金及び掛代金の支拂として受入る。			
満期取立又は銀行にて割引を求めたるもの 6,320圓			
買掛金の支拂として裏書譲渡せるもの 1,720圓			
手形振出又は引受高 9,450圓(但し繰越高を含まず)			
(商品代金及び掛代金の支拂にあつ)			
満期日に小切手を以て支拂ひたるもの 6,500圓			
E 一般仕譯帳に於ける繰越記入の勘定			
現金 2,560.-	當座預金 7,825.-		
借入金 5,000.-	商品 5,000.-		
賣掛金 3,175.-	買掛金 3,750.-		
受取手形 2,440.-	支拂手形 6,250.-		
不動産 3,000.-	什器 1,000.-		
	資本金 10,000.-		
F 其の他の事項			
1 借入金の内3,000圓を小切手にて返済す。			
2 什器 500圓を買入れ現金を支拂ふ。			
3 當座預金より現金1,000圓を引出し、後に現金5,000圓を預入れたることあり。			
4 仕入先甲商店宛に得意先乙商店支拂の爲替手形2,000圓を振出したり。			
5 營業費1,765圓,利子割引料 125圓の支拂と雑収入150圓の収入とあり。			
(注意) 以上の事項により必要なる金額を算出せよ。			

合計試算表は次の通り。

合計試算表

15,180 00	現金 <sup>(1)</sup>	11,940 00
16,725 00	當座預金 <sup>(1)</sup>	12,500 00
15,175 00	賣掛金 <sup>(2)</sup>	10,400 00
12,660 00	受取手形 <sup>(3)</sup>	8,040 00
5,000 00	繰越商品 <sup>(4)</sup>	
1,500 00	什器 <sup>(5)</sup>	
3,000 00	不動産 <sup>(6)</sup>	
8,220 00	買掛金 <sup>(7)</sup>	11,250 00
6,500 00	支拂手形 <sup>(8)</sup>	15,700 00
3,000 00	借入金 <sup>(9)</sup>	5,000 00
	資本金 <sup>(10)</sup>	10,000 00
19,000 00	仕入 <sup>(11)</sup>	
	賣上 <sup>(12)</sup>	22,870 00
1,765 00	營業費 <sup>(13)</sup>	
125 00	支拂利子割引料 <sup>(14)</sup>	
	雑収入 <sup>(15)</sup>	150 00
107,850 00		107,850 00

- (1) 現金預金出納帳より。
- (2) 賣掛金の借方は賣上帳掛欄と繰越高との合計  
その貸方は  
出納帳借方掛欄 4,400.-  
Fの4より 2,000.-  
受取手形受入高  
手形受入高 10,220.-  
内商品 6,220.- 4,000.-  
賣上代  
(賣上帳) 10,400.-  
手形欄
- (3) 受取手形記入帳及び一般仕譯帳より。
- (4) 一般仕譯帳より。
- (5) 一般仕譯帳及びFの2より。

(6) 一般仕譯帳より。

- (7) 買掛金の貸方は仕入帳掛欄と繰越高との合計  
その借方は 出納帳貸方掛欄 3,000.-  
Fの4より 2,000.-  
支拂手形振出引受高  
手形振出引受高 9,450.-  
内商品買入代金 7,950.- 1,500.-  
(仕入帳手形欄)  
受取手形の裏書譲渡 1,720.-  
8,220.-

(8) 支拂手形記入帳及び一般仕譯帳より。

(9) 一般仕譯帳及びFの1より。

- (10) 一般仕譯帳より。  
 (11) 仕入帳の合計  
 (12) 賣上帳の合計  
 (13)-(15) Fの5より。

次に合計試算表の總計は次の金額と一致する。

出納帳借方現金欄	15,180.—	
"    銀行欄	16,725.—	
貸方現金欄	11,940.—	
"    銀行欄	12,500.—	
	<u>56,345.—</u>	
内預入引出	6,000.—	50,345.—
仕入帳	19,900.—	
内現金欄	3,550.—	15,450.—
賣上帳	22,870.—	
内現金欄	4,650.—	18,220.—
一般仕譯帳繰越記入	25,000.—	
内現金預金	10,385.—	14,615.—
手形取引		
受取手形	10,220.—	
内賣上	6,220.—	4,000.—
内裏書	1,720.—	5,720.—
支拂手形	9,450.—	
内仕入	7,950.—	1,500.—
爲手振出		2,000.—
		<u>107,850.—</u>

7 次に述ぶる諸事項を検することにより

- (1) 記帳上不正ありと信ずるときは之を摘發し、其の認定の理由及び不正の原因を明かにし、  
 (2) 正當と信ずる所に従ひ施行したる決算の結果を貸借對照表にて示すべし。

某商店は下の如き資産、負債を以て營業を開始せり。

資産之部		負債之部	
不動産	10,000.—	買掛金	5,000.—
什器	700.—		
賣掛金	6,000.—		
當座預金	15,250.—		
現金	2,250.—		
	<u>34,200.—</u>		

帳簿としては次のものを使用したり。

- 仕譯帳 (1)現金出納帳 (2)商品仕入帳  
 (3)商品賣上帳 (4)一般仕譯帳

總勘定元帳

- 補助簿 (1)買掛金元帳 (2)賣掛金元帳

- (3)受取手形記入帳 (4)支拂手形記入帳

- 然る所、當期末に於て第一回決算を爲すに先だち各勘定記入高に基き合計試算表を作成したるに下の如き結果を得たり。

試算表

10,000 00	資不	本動	金産	29,200 00
700 00	什		器	
69,800 00	商		品	61,700 00
3,900 00	公	債	券	1,900 00
5,200 00	受	取	形	1,400 00
5,100 00	支	拂	形	10,800 00
27,000 00	賣		金	19,700 00
23,500 00	買	掛	金	26,500 00
55,400 00	當	座	預	52,000 00
26,600 00	現	業	金	24,800 00
800 00	營		費	
<u>228,000 00</u>				<u>228,000 00</u>

而して各仕譯帳に於ける取引仕譯記入合計高を検するに下の如くなるを知り得たり。

	現金欄	銀行欄	掛欄
現金出納帳	借方 26,600.-	55,400.-	21,100.-
	貸方 24,800.-	52,000.-	29,100.-
商品仕入帳	36,500.-	—	33,300.-
商品賣上帳	35,000.-	—	26,700.-
一般仕譯帳 貸借各合計高		34,200.-	

備考 (1) 現金にて銀行預金引出高 500圓  
同 預入高 6,000圓

(2) 手形取引は總て掛取引同様に各仕譯帳に於て之を處理せり。

資産負債の實地調査の結果知り得たる事項下の如し。

商品賣殘高 10,000圓	什器見積高 650圓
公債株券見積高 1,950圓	不動産見積高 10,000圓
現金現在高 1,800圓	當座預金現在高 3,400圓
當店振出約手 5,700圓	當店宛約手 3,800圓

各仕譯帳から次の如く試算表金額を検算することが出来る。

(1) 現金及預金の入金

賣掛金入金 21,100.-		
賣上 35,000.-		
公債株券 1,900.-		
元入高 17,500.-	26,600.-	出納帳現金欄
預入及引出 6,500.-	55,400.-	" 銀行欄
	<u>82,000.-</u>	<u>82,000.-</u>

仍て不動産、什器の賣却なし。

(2) 現金及預金の出金

買掛金の支拂 29,100.-		
現金仕入 36,500.-		
公債株券の買入 3,900.-		
預入及引出 6,500.-	24,800.-	出納帳現金欄
營業費の支拂 800.-	52,000.-	" 銀行欄
	<u>76,800.-</u>	<u>76,800.-</u>

仍て不動産、什器の買入、資本の引出なし。

(3) 賣掛金の増減

借方	貸方
賣上帳 26,700.-	出納帳 21,100.-
元入高 6,000.-	内手形 1,400.-
	<u>19,700.-</u>
内手形 5,200.-	
<u>27,500.-</u>	

仍て試算表賣掛金勘定の借方は誤にて500圓少し。

(4) 買掛金の増減

借方	貸方
出納帳 29,100.-	仕入帳 33,300.-
内手形 5,100.-	元入高 5,000.-
	<u>33,300.-</u>
<u>24,000.-</u>	内手形 10,500.-
	<u>27,500.-</u>

仍て試算表買掛金勘定の借方は500圓少く、貸方は1,000圓少し。

(5) 一般仕譯帳には元入取引のみにて他の記入なし。以上により賣掛金借方500圓、買掛金借方500圓及びその貸方1,000圓を増加すれば試算表の合計は229,000圓となり、次の金額と一致する。即ち、

出納帳借方現金	26,600.-
銀行	55,400.-

貸方現金	24,800.-
銀行	52,000.-
仕入帳掛欄	33,200.-
賣上帳掛欄	26,700.-
一般仕譯帳	34,200.-
合計	253,000.-
差引預金及引出	6,500.-
現金預金元入高	17,500.-
	24,000.-
	229,000.-

正確なる試算表に基き棚卸高を参照して作成せる貸借対照表は次の通り。

貸借対照表

現金	1,800 00	買掛金	3,500 00
當座預金	3,400 00	支拂手形	5,700 00
賣掛金	7,800 00	資本金	
受取手形	3,800 00	元入高	29,200.-
公債株券	1,950 00	純利益	1,000.-
商品	10,000 00		30,200 00
什器	650 00		
不動産	10,000 00		
	39,400 00		39,400 00

(参考)

損益表

營業費	800 00	商品賣買利益	1,900 00
什器減價	50 00		
公債株券評價損	50 00		
当期純利益	1,000 00		
	1,900 00		1,900 00

8 某商店2月1日の繰越資産負債及び資本金次の如し。

棚卸商品	20,000.-	仕入先	8,000.-
當座預金	2,000.-	支拂手形	6,000.-
得意先	6,000.-	資本金	19,000.-
受取手形	5,000.-		
	33,000.-		33,000.-

而して同商店が一ヶ月間營業の後、即ち同年2月28日に於ける仕譯帳として使用したる下記(1)乃至(4)の帳簿の各欄及び其の合計金額は次の通り。

(1) 現金出納帳

借方

諸口	得意先	現金賣	割引
7,770.-	1,000.-	0.-	230.-

貸方

諸口	仕入先	現金買	割引
3,200.-	1,200.-	0.-	0.-

備考 當座預金は現金出納帳に記入整理せり。

(2) 一般仕譯帳

借方

受取手形	仕入先	諸口
6,000.-	2,700.-	28,250.-

貸方

諸口	得意先	支拂手形
27,200.-	1,250.-	8,500.-

備考 戻し品、戻り品は一般仕譯帳に記入整理せり。

(3) 商品仕入帳

現金仕入	掛仕入
0.-	4,000.-

(4) 商品賣上帳

現金賣上	掛賣上
0.-	16,200.-

總勘定元帳に於ては各仕入先及び各得意先に對して夫夫仕入先勘定及び得意先勘定を以て統轄し、別に補助元帳として仕入先元帳及び得意先元帳を用ひたり。而して前記期末に總勘定元帳に依り作成したる試算表は下の通りとす。

残高試算表

勘定科目	借方	勘定科目	貸方
棚卸商品	20,000 00	資本金	19,000 00
仕入商品	4,000 00	賣上商品	16,200 00
戻り商品	250 00	戻し商品	200 00
營業費	200 00	支拂手形	5,500 00
利子割引料	230 00	仕入先	8,100 00
得意先	19,950 00		
當座預金	4,370 00		
	<u>49,000 00</u>		<u>49,000 00</u>

然るに補助元帳に依り残高を検したるに次の結果を得たり。

仕入先元帳 貸方残高 8,100圓

得意先元帳 借方残高 10,950圓

前記諸帳簿及び諸勘定を検することに依り正當に仕入先元帳及び得意先元帳の借方及び貸方に掲記せらるべき金額を表示して上記補助元帳残高の正否を確むべし。

先づ各仕譯帳より残高試算表の正否を検査する。

(1) 現金の入金

手形の割引 5,770.- (何となれば受取手形 6,000圓が皆無となつて居り、割引料 230圓があるから。)

繰越高	2,000.-
諸口欄	7,770.-
得意先欄	1,000.-
	<u>8,770.-</u>

(2) 現金の出金

手形の支拂 3,000.- 支拂手形 8,500圓 - 5,500圓 = 3,000圓

營業費の支拂	200.-
諸口欄	3,200.-
仕入先欄	1,200.-
	<u>4,400.-</u>

(3) 仕入帳 仕入高 4,000.-

(4) 賣上帳 賣上高 16,200.-

(5) 一般仕譯帳

借方		貸方	
受取手形欄		支拂手形欄	
繰越高 5,000.-		繰越高 6,000.-	
受入高 1,000.-	6,000.-	振出高 2,500.-	8,500.-
仕入先欄		得意先欄	
戻し品 200.-		戻り品 250.-	
支拂手形 2,500.-	2,700.-	受取手形 1,000.-	1,250.-
諸口欄		諸口欄	
繰越高 28,000.-		繰越高 27,000.-	
戻り品 250.-	28,250.-	戻し品 200.-	27,200.-
	<u>36,950.-</u>		<u>36,950.-</u>

(6) 賣掛金

借方	貸方
賣上帳 16,200.-	出納帳 1,000.-
繰越高 6,000.-	一般仕譯帳 1,250.-
<u>22,200.-</u>	<u>2,250.-</u>

(7) 買掛金

借方	貸方
出納帳 1,200.-	仕入帳 4,000.-
一般仕譯帳 2,700.-	繰越高 8,000.-
<u>3,900.-</u>	<u>12,000.-</u>

仍て試算表は次の如くなる。

試算表

勘定科目	合計		残高	
	借方	貸方	借方	貸方
當座預金	8,770 00	4,400 00	4,370 00	
受取手形	6,000 00	6,000 00	0 -	
得意先	22,200 00	2,250 00	19,950 00	
棚卸商品	20,000 00		20,000 00	
支拂手形	3,000 00	8,500 00		5,500 00
仕入先	3,900 00	12,000 00		8,100 00
資本金		19,000 00		19,000 00
仕入商品	4,000 00		4,000 00	
戻し商品		200 00		200 00
賣上商品		16,200 00		16,200 00
戻り商品	250 00		250 00	
營業費	200 00		200 00	
割引科	230 00		230 00	
	<u>68,550 00</u>	<u>68,550 00</u>	<u>49,000 00</u>	<u>49,000 00</u>

合計試算表は次の金額と一致する。

現金出納帳借方合計	9,000.-
〃 貸方合計	4,400.-

一般仕譯帳合計	36,950.-
仕入帳合計	4,000.-
賣上帳合計	16,200.-
	<u>70,550.-</u>
差引當座預金繰越高	2,000.-
	<u>68,550.-</u>

仍て仕入先元帳の記入は正確であるが、得意先元帳には 9,000 圓の記帳漏れがあることを知る。

第二章 棚卸表

要約

一 棚卸表の意義<sup>(4)</sup>

元帳金額の吟味修正—棚卸—棚卸表

二 棚卸の範囲<sup>(5)</sup>

商品—商品以外の資産、負債—収益、損費の未経過、未収支

三 棚卸金額<sup>(6)(7)(8)</sup>

財産の現状と損益の状況とを正しく知るに相應した金額—評價の過大と過小—蛸配當—秘密積立金—評價方法—商品、有價證券—最低主義—受取手形、賣掛金—貸倒の見積—建物、什器—減價

(4) 問題 1

(5) 問題 2

(6) 問題 3

(7) 商品の棚卸金額の決定については「追加問題」1 を看よ。

(8) 臨時産業合理局財務委員會案の資産評價準則は「附録」F を看よ。尙ほ、拙稿「動的貸借對照表の評價」國民經濟雜誌第43卷5號參照。



消却—損費収益の修正—その計上に當つての注意

四 修正記入<sup>(9)</sup>

修正記入とその仕譯

問題

- 1 棚卸表は何の爲めに作成するか。  
下巻131頁の一を看よ。
- 2 棚卸表には商品の棚卸以外に如何なる項目が記載されるか。下巻132頁の二を看よ。
- 3 棚卸金額は如何にして決定するか。  
下巻132頁の三を看よ。尙ほ下巻123頁の商法第二十六條を参照せよ。この點に關しては財産目録と棚卸表との關係について述べた所(下巻138頁)をも併せ看よ。
- 4 修正記入とは何か。例を以て説明せよ。  
下巻135頁の四及び、その例は下巻136頁の脚註を看よ。

追加問題

- 5 商品の棚卸金額は如何にして決定するか。  
商品の棚卸金額を決定するには原價か市價か何れか低い方によることは述べたが、原價又は市價は如何にして知るかの問題がある。市價は取引所相場のあるものは決算日のそれによるが、かゝる公定相場のないものは取引先に照會する等の方法をとるか又は便宜上最終の仕入價額を代用するのである。  
次に原價、即ち買入價額を知るには商品有高帳を記録するか又は商品の個々に買入價額を符號で記入した札をつけて置くかの方法がある。けれども商品の種類が多種多様である場合には商品有高帳を記録す

(9) 問題 4

るには多くの手数を要するし、又棚卸のとき符號を判讀して仕入値段を知るには手数を要するのみではなく、誤謬の起る機会も多いので便法が考へられる。それは Retail Method of Inventory と云はれ、棚卸の時に商品の數量とその賣價を確め、賣價による棚卸高から利益歩合を差引いて仕入値段を推算する方法である。この方法を用ひるには利益歩合から見て商品を數個の組に分ち、その平均利益歩合を見出し、又最初賣價を附けてから後に變更した場合にはこれを記録に止めて置くなど、出来るだけ實際の仕入値段に近い計算結果が得られるやうに努めねばならない。

- 6 下記貸借對照表を基礎として、祕密積立金を推算し(但し市價一株65圓)又同上積立金の實體を推定せよ。

某商事會社貸借對照表

昭和3年2月末日

未拂込資本金	25,000 00	株金 一株 50圓 株數 2,000株	100,000 00
建 物	10,000 00	法定積立金	24,500 00
商 品	50,000 00	前期繰越金	500 00
賣 掛 金	35,000 00	当期純益金	20,000 00
當 座 預 金	25,000 00		
	145,000 00		145,000 00

(小樽、昭和3年度より。)

株式の市價は種々の原因によつて定まるが大體に於て會社の正味資本を反映してゐると見ることが出来る。即ち會社の實質上の(帳簿上のものではなく)正味資本をその株式數に割當てたものが市價として現はれるのである。故に市價に株數を乗じて得た金額、

一この問題では65圓×2,000=130,000圓が会社の實質上の正味資本と推定される。仍てこの金額から帳簿上の正味資本を差引いて秘密積立金の金額を得るのである。

即ち次の如し。

實質上の正味資本	¥65×2,000	¥130,000.—
帳簿上の正味資本		
拂込済資本金	¥75,000.—	
法定積立金	" 2,500.—	
前期繰越金	" 500.—	
當期純益金	" 20,000.—	" 120,000.—
秘密積立金		¥ 10,000.—

秘密積立金の實體として商品の過小評價、建物の過小評價が考へられるが問題の商事会社では暖簾の存在を擧げるのが穩當であらう。

### 第三章 財産目録

#### 要約

#### 一 財産目録の意義及び記載事項<sup>(10)</sup> (11)

財産の總目録—財産内容の明細—その價額

#### 二 財産目録と棚卸表との差異<sup>(12)</sup>

記載項目—商法の規定

#### 三 財産目録と貸借対照表との差異<sup>(13)</sup>

記載項目—記載内容—前後關係

(10) 問題 1

(11) 臨時産業合理局財務管理委員會案の標準財産目録は「附録」Cを看よ。

(12) 問題 2

(13) 問題 3

### 問題

#### 1 財産目録には如何なる事項が記載されるか。

下巻137頁の一を看よ。

#### 2 財産目録と棚卸表及び貸借対照表との異同を明かにせよ。下巻137頁の二及び138頁の三を看よ。

#### 3 財産目録は貸借対照表の借方之部に同じであると云ふのは正しいか。

貸借対照表の借方之部は資産のみであるが、財産目録には資産並びに負債を掲げねばならぬ点から見ても、兩者を同じとするのは正しくない。尙ほこの問題については下巻138頁の三を看よ。

## 第四章 損益計算書

### 要約

#### 一 損益計算書の意義<sup>(14)</sup>

營業成績の表示—損費収益の明細—營業方針樹立の資料—比較分析—短期損益計算—損益豫算

#### 二 損益計算書の調製方法<sup>(15)</sup> (16)

調製の資料—損益項目の分類編成—商品賣買損益—營業損益—純損益—純損益の處分案—勘定口座式と報告式

#### 三 損益計算書の比較<sup>(17)</sup> (18)

(14) 問題 1

(15) 問題 2-3

(16) 臨時産業合理局財務管理委員會案の標準損益表は「附録」Dを看よ。

(17) 問題 4

(18) 比較方法の種類については「追加問題」5を看よ。

比較の必要—比較損益表 (Comparative Profit and Loss Statement) —損益項目と貸借対照表項目との關聯—比較考察點—賣上高—商品繰越高—營業經費—營業利益—純利益—豫算統制—勘定口座式損益計算書例示—報告式損益計算書例示

#### 問題

- 1 損益計算書は營業上如何なる役目をするか。  
下巻139頁の一を看よ。
- 2 損益計算書は如何にして調製するか。  
下巻140頁の二を看よ。
- 3 損益計算書には如何なる表示形式があるか。  
下巻141頁を看よ。
- 4 損益計算書を比較するに當つて注意すべき點を挙げ、その重要な所以を明かにせよ。  
下巻141頁の三を看よ。

#### 追加問題

- 5 損益表の比較方法には如何なる種類があるか。  
損益表の比較については時間的比較、即ち前期と今期とを比較するとか、數期的に互つて比較するとか又は本月と前月とを比較するとかいふことを述べたが、比較は尙ほ場所的にも行はれる。例へば支店のある場合には本支店の同期の損益表を比較し、又は同業者のものと比較するが如きである。この場所的な比較の場合には記帳方法や勘定科目の統一が必要であり、且つ損益表の標準が必要である。貸借対照表の比較についても亦同様のことが云へる。かゝる統一の運動は歐米に於て盛んに行はれて居り、我國に於ても臨時産業合理局が標準損益表、標準貸借対照表等を發表してゐる。附録參照。

## 第五章 貸借対照表

### 要約

- 一 貸借対照表の意義<sup>(19)</sup>  
財産現状の通覽—營業狀態判定の重要資料—公告—開始貸借対照表—短期未貸借対照表—比較貸借対照表 (Comparative B/S) —綜合貸借対照表
- 二 貸借対照表の記載事項<sup>(20) (21) (22) (23)</sup>  
資産負債資本の項目—資本項目の内譯—項目の分類—流動資産と固定資産—短期負債と長期負債—繰延見越の項目—項目の排列—その二種類
- 三 貸借対照表の調整方法<sup>(24) (25)</sup>  
調製の資料—勘定科目の綜合—その分割—評價勘定—未拂込資本金<sup>(26)</sup>—勘定口座式と報告式—勘定口座式貸借対照表例示—報告式貸借対照表例示

### 問題

- 1 貸借対照表の職能は何か。下巻145頁の一を看よ。
- 2 貸借対照表に掲げられる項目、その分類排列について述べよ。下巻146頁の二を看よ。

(19) 問題 1, 綜合貸借対照表については「追加問題」10を看よ。

(20) 問題 2, 及び追加問題 7—9

(21) 繰延及び見越の項目については「追加問題」5を看よ。

(22) 偶發債務の表示方法については第四篇第三章の「追加問題」16(193頁)を看よ。

(23) 臨時産業合理局財務管理委員會案の標準貸借対照表は「附録」Aを看よ。

(24) 問題 3—4

(25) 英國式貸借対照表については「追加問題」6を看よ。

(26) 追加問題 7, 及び「附録」Bを參照せよ。

3 貸借対照表を作る方法如何。下巻142頁の三を看よ。

4 貸借対照表と損益表との差異如何。

下巻139頁の一及び145頁の一を看よ。

追加問題

5 繰延・見越の項目の性質を述べて、これが貸借対照表に於ける分類排列の位置に論及せよ。

繰延資産といはれるものの中には次の三種がある。その一は未経過保険料のやうに短期間の内に損費となるものであつて、その二は開業費・創業費の如く營業の存続期間中に損費となるべきもの(但し、實踐上は數ヶ年に亘つてなるべく早く消却される)であつて、その三は例へば震災による多額の損失を全部その期の損失とせず、後期に繰越して順次に消却しやうとする場合などに起るものであつて、これは純然たる損失の繰越である。

これ等三種の繰延資産の内(一)と(二)とは略んど資産と變りはない。消耗品の消費や什器建物の減價消却と比較すればこのことは明かであるから、(一)を流動資産に入れ、(二)を固定資産に加へて、(三)のみを繰延資産とすることが出来る。

繰延負債及び見越資産・負債は短期間のものであり、その性質が流動資産負債に近いから、その何れかに分類される。

6 英國式貸借対照表の形式の特異點を挙げよ。

勘定口座式の貸借対照表では左側に資産の項目を掲げ、右側に負債と資本との項目を掲げるのが普通であるが、英國に於ては、その反對に、負債及び資本の項目を左方に資産の項目を右方に掲げるのである。

尙ほ、英國に於ては鐵道その他の事業の貸借対照表

が二段に分れて作られるのを見る。即ち固定資産とそれを賄ふ資本金及借入金を前段に擧げ、後段に流動資産とこれに對應する負債とが掲げられる。かかる計算の制度を Double Account System と呼んでゐる。

7 下記某株式會社決算公告貸借対照表中

繰延勘定 (Deferred a/c), 見越勘定 (Accrued a/c),  
評價勘定又は差引勘定 (Valuation a/c or Off-Set a/c),  
對照勘定 (Per Contra a/c),

に屬する勘定を指摘し、其の性質を述べ、尙ほ決算報告表中其の形式・内容に關し不備、不合理の點あらば併せて之を説明せよ。

(大分、大正15年度より)

第×期決算報告

貸借対照表

資産之部		負債之部	
拂込未済資本金	5,000,000.—	資本金	25,000,000.—
地所建物	2,785,322.60	甲株式會社	5,049,238.29
現金	13,960.08	乙商店	1,725,778.41
什器	16,321.69	丙商店	1,237,261.89
身元保證金代用證券	85,650.—	法定積立金	845,000.—
有價證券	4,129,144.81	別途積立金	255,000.—
受託品	3,293,089.09	社員恩給資金	200,000.—
受取手形	3,121,500.—	社員保信積立金	62,693.80
得意先勘定	7,629,928.—	身元保證預り金	85,650.—
未着商品	901,210.60	所有物償却積立金	50,000.—
商品	17,002,353.29	引受爲替手形及支拂手形	18,255,376.15
銀行預金	9,239,223.42	借入金	255,800.—
支店未達勘定	11,921.60	假受金	36,219.31
未経過火災保険料	6,929.39	未拂利息	6,390.—
未経過廣告料	19,202.—	前期繰越金	392,743.62
未收利息	19,196.—		
創業費	5,000.—		
當期缺損金	176,598.90		
合計	53,456,551.47	合計	53,456,551.47

## 財産目録

財産目録は貸借対照表資産之部と同一に附省略す。

右之通に候也

大正 年 月 日

××株式会社

(1)繰延勘定に属すものは、

未経過火災保険料、未経過広告料、創業費。

(2)見越勘定に属すものは、

未收利息、未拂利息。

(3)評價勘定に属すものは、

所有物償却積立金(準備金とすべきである)

尙ほ[拂込未済資本金]は資本金勘定の評價勘定と見ることが出来るが、この勘定は会社が株主に對して未拂込株金の拂込を請求し得る権利を表示する勘定とも見ることが出来るから、純粹な評價勘定とは云ひ難い。又[当期缺損金]は当期の損益勘定の借方残を指し、又[前期繰越金]は前期繰越損益勘定の貸方残を指して居り、これらは正味資本を増加又は減少せしむることを意味してゐるから、評價勘定を廣く解するとき、これらをも評價勘定であると云へないことはない。そうすれば法定積立金なり、別途積立金なりも亦評價勘定の内に入る事となるが、それでは評價勘定の内容が餘りに廣くなり、且つ漠然たるものとなつて、總ての勘定が財産の評價勘定か又は資本の評價勘定となつてしまふ懼れがある。故に当期缺損金及び前期繰越金は評價勘定に加へない。評價勘定は主たる勘定に伴ふ従たる勘定であつて、常に主たる勘定が存在しなければ従たる評價勘定は存在しないのである。所で当期缺損金又は前期繰越金は主たる勘定を持たない。資

本金勘定は唯だ公稱資本を示すに過ぎない勘定であつて、正味資本そのものを表はしてはゐない。故に主たる勘定とは云へない。この點から考へても缺損金なり、繰越益金は評價勘定ではなく、正味資本の一部を獨立に表示する勘定である。

(4)對照勘定としては、

貸方にある[身元保證預り金]に對する借方の[身元保證金代用證券]がある。

次に決算報告表の不備、不合理な點についてあるが、勘定科目の排列が當を得てゐないこと[負債之部]とあるのは[負債及資本之部]とするが正しいこと[財産目録は貸借対照表資産之部と同一に附省略す]とあるのは誤であること、貸借対照表に作成の年月日を明記すること、貸方の甲、乙、丙の人名勘定を仕入先勘定に統一することが考へられる。

## 8 固定資産と流動資産とは如何にして區別するか。

固定資産(Fixed Assets)と流動資産(Current Assets)とは一般に現金に代へることの難易によつて區別する。併し、正確に云へば、經營の方針、營業の事情から見て現金に代へんが爲めに持つて居り、且つそれが容易に現金に代へ得る場合が流動資産であつて、然らざるものが固定資産である。有價證券は通常流動資産に算へられるが、例へば或る会社の株式を所有して居り、これによつて營業上特殊な便益をその株式の發行会社から享受して居る場合、又は株式の所有によつてその發行会社を支配しやうと云ふやうな場合には、所謂永久投資となつて、有價證券は固定資産に屬すこととなる。株式を所有して他の会社を支配する状態にある会社を親会社と云ひ、支配される会社を子会社と云ふ。親会社の内で唯だ株式を所有するのみで他の事業を營ま

ないものを持株会社(保有会社) (Holding Company) と云ふ。親会社と子会社との貸借対照表を合併したのが総合貸借対照表であつて、これを作成するには種々な問題が含まれ居るが、その簡単な例は次の問題に示す通りである。

次に商品の手持高は流動資産と見られるが、手持品の内には営業上絶えず維持して居なければならぬ、最少限度の手持高が含まれて居り、この部分は固定資産として取扱ふべきである。

9 長期負債と短期負債との區別を問ふ。

長期負債 (Fixed Liabilities) と短期負債 (Current Liabilities) との區別は支拂期日が近き將來にあるか否かによつて容易に決せられる。

10 資本金 1,500,000 圓の甲会社は設立と同時に株金全額につき現金拂込を受けたるが、その拂込金の半額を以て乙会社株券額面 500,000 圓を買入れ、他の半額を以て丙会社株券額面 500,000 圓を買入れた。株券買入當日に於ける乙丙兩会社の貸借対照表要綱次の如し。

資 産	乙 會 社	丙 會 社
有形資産	900,000.—	800,000.—
Goodwill	150,000.—	
資本及負債		
負 債	150,000.—	100,000.—
資 本		
株 金	600,000.—	500,000.—
積 立 金	300,000.—	200,000.—

以上の材料に基き株券買入直後に於ける甲乙丙三会社の聯結貸借対照表を作成し、併せて此聯結貸借対照表上各項目の金額につき解説を施せ。(高岡, 昭和7年度より。)

総合貸借対照表を作るには次のやうに計算する。

資 産	甲 會 社	乙 會 社	丙 會 社	合 計	綜合ニヨル却消	金 額
有形資産		900,000 00	800,000 00	1,700,000 00		1,700,000 00
Goodwill		150,000 00		150,000 00	(1) + 50,000 00	200,000 00
甲會社持株						
乙會社株式	750,000 00			750,000 00	750,000 00	0—
丙會社株式	750,000 00			750,000 00	750,000 00	0—
	1,500,000 00	1,050,000 00	800,000 00	3,350,000 00	1,450,000 00	1,900,000 00
負債及資本						
負 債		150,000 00	100,000 00	250,000 00		250,000 00
甲會社資本金	1,500,000 00			1,500,000 00		1,500,000 00
乙會社資本金		600,000 00		600,000 00	500,000 00	(2) 100,000 00
同積立金		300,000 00		300,000 00	250,000 00	(2) 50,000 00
丙會社資本金			500,000 00	500,000 00	500,000 00	0—
同積立金			200,000 00	200,000 00	200,000 00	0—
	1,500,000 00	1,050,000 00	800,000 00	3,350,000 00	1,450,000 00	1,900,000 00

(1) 丙會社の正味資本(資本金+積立金)は700,000圓であるのに、その株式全部を買入れて750,000圓を支拂つたのであるから、差引50,000圓はGoodwillとして計上する。

(2) 乙會社の株式は全部の $\frac{5}{6}$ を買入れたのであるから、残り $\frac{1}{6}$ は少数株主の持分(Minor interest)である。

総合貸借対照表

有形資産	1,700,000 00	負 債	250,000 00
Goodwill	200,000 00	資 本 金	1,500,000 00
		少数株主持分	150,000 00
	1,900,000 00		1,900,000 00

## 第六章 精 算 表

### 要 約<sup>(27)</sup> <sup>(28)</sup>

決算に於ける記録計算過程の一覽表—その便益—修正記入欄—精算表例示

### 問 題

次の元帳金額と決算要項により精算表を作成せよ。

現金及預金	3,410.-	受取手形	3,650.-
賣掛金	5,500.-	貸倒準備金	25.-
貸附金	3,000.-	假拂金	150.-
繰越商品	2,300.-	什器造作	1,200.-
建物	5,000.-	減價消却準備金	600.-
支拂手形	5,600.-	買掛金	4,680.-
資本金	11,500.-	仕入(借方)	32,250.-
賣上(借方)	420.-	仕入(貸方)	350.-
賣上(貸方)	36,700.-	販賣費	850.-
營業費	1,600.-	利子割引料(借方)	350.-
雜收入	25.-	利子割引料(貸方)	200.-

### 決算要項

- 1 商品の期末棚卸高2,100圓
- 2 賣掛金の5%の貸倒準備金を設ける。
- 3 什器造作の10%,建物の4%の減價消却をなし減價消却準備金に繰入る。
- 4 營業費の内,保険料60圓,地代 180 圓を次期に繰延ぶ。
- 5 營業費未拂高 165 圓を計上す。
- 6 収入利子の内80圓を次期に繰延ぶ。

(27) 問題

(28) 決算に関する追加問題 1—10

### 精 算 表

勘定科目	試算表	修正記入	損益表	貸借対照表
現金及預金	3,410.00			3,410.00
受取手形	3,650.00			3,650.00
貸倒準備金 <sup>(1)</sup>	5,500.00	(b) 250.00		5,500.00
貸附金	3,000.00			3,000.00
繰越商品	150.00			150.00
什器造作	2,300.00		2,300.00	
建物	1,200.00			1,200.00
減價消却準備金	5,000.00	(c) 320.00		5,000.00
支拂手形				
買掛金	5,600.00			5,600.00
仕入	4,680.00			4,680.00
仕入	11,500.00			11,500.00
仕入	250.00			
仕入	36,700.00			
販賣費	32,250.00		32,250.00	
販賣費	420.00		420.00	
販賣費	850.00		850.00	
利子割引料	1,600.00	(d) 240.00	1,845.00	
利子割引料	350.00	(e) 320.00	350.00	
利子割引料	200.00	(f) 80.00		
利子割引料	25.00			
繰越商品		(b) 250.00		2,100.00
繰越商品		(d) 60.00		60.00
繰越商品		(d) 180.00		180.00
繰越商品		(e) 165.00		
繰越商品		(f) 80.00		
繰越商品			1,030.00	
繰越商品			39,295.00	
繰越商品	59,600.00	1,055.00	39,295.00	24,250.00

(1) 賣掛金の5%は275圓であるが、貸倒準備金残額25圓があるから、これを差引いて250圓の準備金を作ればよろしいのである。

(2) 修正記入欄の借方80圓は収入利子の繰延ぶであるから、利子割引料の貸方200圓から差引いて損益表欄の貸方を120圓とするのである。

追加問題

1 某商店第一期自一月至六月末報告次の如しとして精算表を作れ。

商品總仕入高	25,931.-	商品總賣上高	29,814.-
同戻し高	425.-	同戻り高	208.-
同賣残評價高	2,400.-		
掛買總額	15,110.-	内返濟高	10,697.-
但し當店振出約束手形	560.-		
掛賣總額	15,680.-	内取立高	10,086.-
但し手形にて受入れたもの	1,340.-		
受取手形	6,668.-	内取立高	4,455.-
支拂手形	4,416.-	内支拂高	2,180.-
什器買入高	1,830.-		
同期末評價額	1,700.-		
營業費支拂高	2,825.-		

但し小拂資金よりの支拂高を含まず。

同次期繰延高	330.-	同未拂高	120.-
--------	-------	------	-------

當座預金の最初預入高 10,000 圓にして總ての入金出金は當座預金に依れるものとす。

小拂資金として 500 圓を小切手にて引出し最初に用度係へ渡し置き次の報告に基きて月々補充して 500 圓の定額を保たしめたり。

1 月末	營業費	416.-
2 月末	同上	392.-
3 月末	同上	464.-
4 月末	同上	456.-
5 月末	同上	387.-
6 月末	同上	450.-

注意 6 月末にも既に小切手にて補充済なり。

精算表

勘定科目	試算表	修正記入	損益表	貸借対照表
當座預金(1)	26,617.00			5,182.00
小口現金	500.00			500.00
賣掛	15,680.00			5,591.00
受取手形	6,668.00			2,213.00
仕買掛	1,830.00	(b) 130.00		1,700.00
買掛	10,697.00			
支拂手形	2,180.00			
資本	10,000.00			4,413.00
仕入	425.00			2,236.00
買上	29,814.00			10,000.00
營業費	2,825.00	(d) 120.00	5,506.00	
繰越商品(期末)	2,605.00	(c) 330.00	5,220.00	2,400.00
減價		(1) 130.00	130.00	
消費却		(c) 330.00		330.00
繰延營業費		(d) 120.00		
未拂營業費			1,150.00	
當座利益			32,006.00	
合計	100,923.00	530.00	32,006.00	17,919.00

(1) 當座預金の金額は次頁の如く算出せり。



借方		貸方	
預入	10,000.-	小口現金	500.-
手形の入金	4,455.-	營業費支拂	2,825.-
買掛の入金		小口現金によるもの	2,605.-
總取立高	10,036.-	手形支拂	5,430.-
内手形	1,340.-	仕器買入	2,180.-
現金賣の入金		買掛金支拂	1,830.-
總賣上高	29,814.-	總支拂高	10,697.-
戻り差	208.-	内手形	560.-
内掛賣引	29,606.-	現金仕入の支拂	
内掛買引	15,680.-	總仕入高	25,831.-
内手形賣	13,926.-	戻し高	425.-
手形受入總高 6,668.-		差引	25,506.-
内賣掛金 1,340.-		内掛買	15,110.-
		差引	10,396.-
		内手形仕入	
		手形振出總高 4,416.-	
		内買掛金 500.-	
			6,540.-
			<u>26,617.-</u>

2 次の連続せる取引の仕譯をなし、且全取引の完了せるときに於ける純益金を算出せよ。

2月1日 野上商店より次の通り掛にて買入れ、三谷倉庫株式会社貨物預り證券を裏書讓受く。

播州米 250 俵(4斗入) 40圓替 4,000圓

2日 所有せる甲號五分利公債額面5,000圓(時價4,400圓)を擔保として神戸銀行より次の如く手形にて借入をなし、手取金を現金にて受取り、内3,000圓を以て野上商店へ掛借金の内拂をなす。

手形金額3,500圓手形日附  $\frac{2}{2}$  手形期日  $\frac{2}{21}$  割引料日歩2錢5厘

7日 井上商店へ次の通り賣渡し、三谷倉庫より出庫の上その引渡をなす。保管料4圓、車力賃10圓、現金にて支拂ふ。

播州米 200 俵 43圓替 3,440圓

代金次の通り受取る。

井上商店振出當店宛約束手形 2月20日拂 3,000圓  
現金 440圓

13日 三谷倉庫より播州米殘部50俵を引取り、保管料2圓、引取諸雜費5圓50錢を現金にて支拂ふ。

15日 浦上商店へ次の通り現金にて賣渡す。引渡諸掛5圓、現金にて支拂ふ。

播州米 50 俵 42圓替 840圓

18日 井上商店より、賣渡したる商品の品質不良なる故を以て、次の通り返送し來る。

播州米 10 俵 43圓替 172圓

追つて此の代金に就ては同商店振出約束手形代金受取の際差引計算を行ふものとす。

19日 野上商店へ交渉の結果不良品に対して10圓の値引を受く。仍つて直ちに同店よりの掛借金を計算し残額全部を現金にて支拂ふ。

20日 井上商店より受取りたる約束手形3,000圓本日満期につき、2月18日の戻り品代金を差引き神戸銀行宛小切手にてその支拂を受く。

21日 神戸銀行よりの手形借入金3,500圓本日期日につき、前日井上商店より受取りたる小切手及び現金にてその返済をなす。

25日 不良品次の通り現金にて賣却す。  
播州米 10俵 37圓替 148圓

(舊神戸、昭和2年度より)

仕譯は下記の通り。

2月1日	商	品	4,000.—	野上商店	4,000.—
2日	野上商店		3,000.—	借入金	3,500.—
	現	金	482.50		
	割	引	料	17.50	
7日	受	取	手	形	3,000.—
	現	金	440.—	商	品
				賣	買
				損	益
				240.—	
	倉	敷	料	4.—	現
	運	賃	10.—	金	14.—
13日	倉	敷	料	2.—	現
	運	賃	5.50	金	7.50
15日	現	金	840.—	商	品
				賣	買
				損	益
				40.—	
	運	賃	5.—	現	金
				5.—	
18日	商	品	160.—	假	受
	賣	買	損	益	172.—
			12.—		
19日	野上商店		1,000.—	商	品
				現	金
				90.—	

(追加問題)

20日	假	受	金	172.—	受	取	手	形	3,000.—
	現	金	2,828.—						
21日	借	入	金	3,500.—	現	金	3,500.—		
25日	現	金	148.—	商	品	150.—			
	賣	買	損	益 <sup>(29)</sup>	2.—				

商品賣買損益を明かにする爲めに上記の如く賣買損益勘定を設けたけれども、單に商品勘定を以て仕譯し、殘品なしの故を以て貸方殘を商品賣買利益とするも差支ない。<sup>(30)</sup>

次に純利益の計算を示せば

賣	買	利	益	266.—
諸	經	費		
割	引	料	17.50	
倉	敷	料	6.00	
運	賃	20.50	44.—	
純	利	益	222.—	

この純利益222圓は現金勘定の殘高222圓と一致するから計算の正確を検することが出来る。(野上商店その他の資産負債の勘定は殘高なしとなる。)

(29) 19日の取引による値引10圓を差引いて賣買損失2圓となる。即ち仕入値段160圓の所10圓の値引により150圓となり、これを148圓にて賣渡したが故である。

(30) 商品勘定のみを用ひるときは次の如き計算となる。(左下)

商品勘定				現金			
2/1	4,000.—	2/7	3,440.—	2/2	482.50	2/7	14.—
18	172.—	15	840.—	7	440.—	13	7.50
		19	10.—	15	840.—	15	5.—
		25	148.—	20	2,828.—	19	90.—
	4,172.—		4,438.—	25	148.—	21	3,500.—
賣	買	利	益	266.—	4,738.50		4,516.50
	4,438.—		4,438.—			殘	高
					4,738.50		222.—
							4,738.50

(31) 現金勘定は次の通り。(右上)

(追加問題)

3 某商店の期末に於ける元帳残高下の如し、今之を下記の要項に従ひて決算し

(甲) 大陸式決算に據る仕譯を記し

(乙) 商品賣買損益と一般(營業)損益とを區別したる損益計算書を作り

(丙) 之が貸借對照表を示すべし。

借 方		貸 方	
現 金	2,745.-	銀 行	1,100.-
受取手形	2,850.-	支拂手形	3,280.-
得意先	2,340.-	仕入先	3,500.-
商 品	4,500.-	借入金	2,000.-
有價證券	2,500.-	資本金	10,000.-
什 器	1,050.-	手 數 料	150.-
不 動 産	3,500.-	利 息	65.-
營 業 費	585.-	割 引 料	85.-
保 險 料	230.-	雜 損 益	120.-
	<u>20,300.-</u>		<u>20,300.-</u>

要 項

1 評價損	{ 不動産勘定	250.-
	{ 什器勘定	50.-
2 評價益	- 有價證券	200.-
3 取立不能	得意先	275.-
4 未拂計算	{ 借入金の利息	80.-
	{ 營業費(一般營業費)	55.-
5 未收入計算	{ 銀行勘定の預金利息	35.-
	{ 有價證券の利息	40.-
	{ 有價證券の配當金	100.-

6 未經過計算	{ 保 險 料	55.-
	{ 割引料(収入の分)	45.-
	{ 同(支拂の分)	20.-
7 期末商品棚卸高		6,180.-
8 商品勘定の内譯		
	前期繰越商品	2,550.-
	当期總仕入品	292,790.-
	同戻し品	2,850.-
	同總賣上品	293,450.-
	同戻り品	4,050.-
	運賃倉敷料等の諸掛	1,410.-
9 手数料勘定の内譯		
	商品賣買の支拂手数料	125.-
	同 収入手数料	245.-
	商品賣買以外の収入手数料	30.-
10 利息勘定の内譯		
	銀行勘定の収入預金利息	85.-
	有價證券の収入利息	70.-
	借入金の支拂利息	90.-
11 割引料の内譯		
	収入手形割引料	238.-
	支拂手形割引料	153.-
12 營業費の内譯		
	商品賣買費	375.-
	一般營業費	210.-
13 保險料は一般營業費とす。		
14 雜損益は有價證券賣買損益とす。		

大陸式決算方法による仕訳は次の通り。

1 減價消却費	300.-	不 動 産	250.-
		仕 器	50.-
2 有 價 證 券	200.-	有價證券評價益	200.-
3 貸 倒 金	275.-	得 意 先	275.-
4 利 息	80.-	未 拂 金	135.-
營業費	55.-		
5 未 收 金	175.-	利 息	75.-
		配 當 金	100.-
6 未經過保険料	55.-	保 險 料	55.-
割 引 料	45.-	未經過割引料	45.-
未經過割引料	20.-	割 引 料	20.-
8 商 品	1,680.-	損 益 勘 定	1,680.-

損益勘定に集合する仕訳

a 損 益 勘 定	1,390.-	營 業 費	640.-
		保 險 料	175.-
		減 價 消 却 費	300.-
		貸 倒 金	275.-
b 手 數 料	150.-	損 益 勘 定	690.-
利 息	60.-		
割 引 料	60.-		
雜 損 益	120.-		
有價證券評價益	200.-		
配 當 金	100.-		

純利益を資本金に移す仕訳

c 損 益 勘 定	980.-	資 本 金	980.-
-----------	-------	-------	-------

残高勘定に集合する仕訳

d 残 高 勘 定	2,020.-	現 金	2,745.-
		受 取 手 形	2,850.-
		得 意 先	2,005.-

(次頁へ続く)

商 品	6,180.-
有 價 證 券	2,700.-
仕 器	1,000.-
不 動 産	3,250.-
未 收 金	175.-
未經過保険料	55.-
銀 行	1,100.-
仕 入 先	3,500.-
支 拂 手 形	3,280.-
借 入 金	2,000.-
未 拂 金	135.-
未經過割引料	25.-
資 本 金	10,980.-
殘 高 勘 定	21,020.-

損 益 表

商品賣買損益

商品仕入高	292,700 00	商品賣上高	293,450 00
内戻し高	2,850 00	内戻り高	4,050 00
差 引	289,940 00	差 引	289,400 00
前期繰越高	2,550 00		
合 計	292,490 00		
運賃諸掛	1,410 00		
合 計	293,900 00		
内期末棚卸高	6,180 00		
差 引	287,720 00		
賣買諸掛	375 00		
賣買手數料	125 00		
合 計	288,220 00		
商品賣買利益	1,180 00		
	289,400 00		289,400 00

一般損益 (前頁に續く)

一般營業費	265 00	商品賣買利益	1,180 00
保險料	175 00	商品賣買收入手数料	245 00
減價消却費	300 00	其他の收入手数料	30 00
貸倒金	275 00	收入預金利息	120 00
支拂利子	170 00	收入有價證券利息	110 00
支拂割引料	133 00	收入配當金	100 00
當期純益金	980 00	收入割引料	193 00
		有價證券評價益	200 00
		有價證券賣買益	120 00
	2,298 00		2,298 00

貸借對照表

現金	2,745 00	銀行	1,100 00
受取手形	2,850 00	支拂手形	3,280 00
得意先	2,065 00	仕入先	3,500 00
商品	6,180 00	借入金	2,000 00
有價證券	2,700 00	未拂金	135 00
什器	1,000 00	未經過割引料 <sup>(29)</sup>	25 00
不動產	3,250 00	資本金	10,000 00
未收金	175 00	當期純益金	980 00
未經過保險料	55 00		
	21,020 00		21,020 00

(29) 割引料を收入割引料と支拂割引料とに分てば、未經過割引料も未經過收入割引料と未經過支拂割引料とに分れ、前者は45圓にて貸借對照表の貸方に、後者は20圓にて借方に掲記される。

4 大正15年8月1日より昭和2年1月31日に至る營業期の末日に於ける某株式會社の決算表下の如し。

貸借對照表

昭和2年1月31日

拂込未済資本金	250,000 00	資本金	500,000 00
營業用地所	87,625 00	法定積立金	5,000 00
營業用家屋	23,740 00	別途積立金	5,000 00
營業用什器	5,316 00	借入金	10,000 00
商用品	57,324 00	買掛金	12,010 00
賣掛金	42,427 00	受託先	4,600 00
受取手形	37,000 00	支拂手形	30,100 00
有價證券	25,625 00	未拂金	1,047 00
現金及預金	52,737 00	前期繰越金	1,302 00
未經過保險料	250 00	當期利益金	15,437 00
未收金	2,452 00		
	584,496 00		584,496 00

損益表

自大正15年8月1日  
至昭和2年1月31日

當期仕入高		當期賣上高	
總仕入高233,195.—		總賣上高236,037.—	
内戻し高 1,723.—	231,472 00	内戻り高 2,183.—	233,854 00
前期繰越高	34,619 00	期末棚卸高	57,324 00
仕入費	2,124 00		
販賣費	3,792 00		
賣買利益	19,171 00		
	291,178 00		291,178 00

(次頁に續く)

損益表 (前頁の続き)

営業費	8,428 00	賣買利益	19,171 00
保険料	150 00	収入手数料	6,580 00
減価消却金	1,719 00	収入利子	1,587 00
貸倒金	2,612 00	土地評價利益	3,300 00
支拂利子	450 00		
支拂割引料	542 00		
有價証券評價損失	1,300 00		
当期利益金	15,437 00		
	30,638 00		30,638 00

但し決算は次の諸項を参照して行はれたるものとす。

- (1) 商品期末棚卸高 57,324 圓
  - (2) 家屋に對する減価消却高 1,187 圓; 什器に對する減價消却高 532 圓
  - (3) 賣掛金に對する貸倒損失金 2,233 圓
  - (4) 保険料未経過期間に對する金高 250 圓; 營業費未拂高 571 圓; 利子未拂高 75 圓; 利子未收高 135 圓; 手数料未收高 1,235 圓
  - (5) 土地評價價格 87,625 圓; 有價証券評價價格 25,625 圓
- 問ふ、其の決算前に於ける試算表は如何。

(舊神戸, 昭和2年度より。)

5 大陸式決算に關する次記仕譯より見て、同仕譯記入前の元帳尻を試算表にて示すべし。

1 什器減價消却費	50.-	什器	50.-
2 不動産減價消却費	250.-	減價消却準備金	250.-
3 有價証券	220.-	有價証券評價益	220.-
4 貸倒金	275.-	受取手形	100.-
		得意先	175.-

(312頁~續く)

前頁問題4の解答を精算表の形にて示す。

勘定科目	貸借対照表・損益表金額		修正金額		試算表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
拂込未済資本金	250,000 00				250,000 00	
營業用地	87,625 00			(5) 3,300 00	84,325 00	
營業用家屋	23,740 00		(2) 1,187 00		24,927 00	
營業用什器	5,316 00		(2) 532 00		5,848 00	
商品(期末)	(1) 57,324 00	(2) 57,324 00			0	
賣掛金	42,427 00		(3) 2,233 00		44,660 00	
受取手形	37,000 00				37,000 00	
有價証券	25,625 00		(5) 1,300 00		26,925 00	
現金及預金	52,737 00				52,737 00	
未経過保險料	250 00			(4) 250 00	0	
未收金	2,452 00			(4) 135 00	1,082 00	
資本		500,000 00				500,000 00
法定積立金		5,000 00				5,000 00
別途積立金		5,000 00				5,000 00
借入金		10,000 00				10,000 00
買掛金		12,010 00				12,010 00
受託先		4,600 00				4,600 00
支拂手形		30,100 00		(4) 571 00		30,100 00
未拂金		1,047 00		(4) 75 00		401 00
前期繰越損益		1,302 00				1,302 00
当期純益	(3) 15,437 00	(4) 15,437 00			(1)	0-
仕入	231,472 00				231,472 00	
商品(期首)	(5) 34,619 00				34,619 00	
仕入費	2,124 00				2,124 00	
販賣費	3,792 00				3,792 00	
賣買利益	(6) 19,171 00	(7) 19,171 00				0-
營業費	8,428 00			(4) 571 00	7,857 00	
保險料	150 00		(4) 250 00		400 00	
減價消却金	1,719 00			(5) 1,719 00	0-	
貸倒金	2,612 00			(3) 2,233 00	379 00	
支拂利子	450 00			(4) 75 00	375 00	
支拂割引料	542 00				542 00	
有價証券評價損失	1,300 00			(5) 1,300 00	0-	(2)
賣上		233,854 00				233,854 00
収入手数料		6,580 00	(4) 1,235 00			5,345 00
収入利子		1,587 00	(4) 135 00			1,452 00
土地評價益		3,300 00	(5) 3,300 00			0-
	906,312 00	906,312 00	10,818 00	10,818 00	809,064 00	809,064 00

- (1) 貸借対照表より。
- (2) 損益表より。
- (3) 損益表より。
- (4) 貸借対照表より。
- (5) 損益表より。
- (6) 損益表より。
- (7) 損益表より。

上記修正金額欄の(1),(2)等の番號は問題の決算事項の番號に對應する。

- (1) 仕入の内戻し品を別勘定にも出来る。
- (2) 賣上の内戻り品を別勘定にも出来る。

5	利子	80.-	未拂金	135.-
	營業費	55.-		
6	未收金	175.-	利子	75.-
			雜損益	100.-
7	未経過保険料	55.-	保険料	55.-
8	割引料	25.-	未経過割引料	25.-
9	繰越商品	6,180.-	繰越商品	3,200.-
	賣上商品	14,320.-	仕入商品	15,620.-
			損益勘定	1,680.-
10	損益勘定	1,390.-	什器減價消却費	50.-
			不動産減價消却費	250.-
			貸倒金	275.-
			營業費	740.-
			保険料	75.-
11	有價証券評價益	220.-	損益勘定	710.-
	手数料	200.-		
	利子	60.-		
	割引料	60.-		
	雜損益	170.-		
12	損益勘定	1,000.-	資本金	1,000.-
13	残高勘定	22,090.-	現金	2,745.-
			受取手形	2,750.-
			得意先	2,165.-
			繰越商品	6,180.-
			有價証券	2,720.-
			什器	1,100.-
			不動産	4,000.-
			未経過保険料	55.-
			未收金	375.-

(314頁へ續く)

(追加問題)

(問題5の解答)

勘定科目	残高勘定及損益勘定		修正金額		試算表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	(13) 2,745.00				2,745.00	
受取手形	2,750.00		(4) 100.00		2,850.00	
得意先	2,165.00		(4) 175.00		2,340.00	
繰越商品(期末)	6,180.00	(9) 6,180.00			0.-	
有價証券	2,720.00			(5) 220.00	2,500.00	
什器	1,100.00		(1) 50.00		1,150.00	
不動産	4,000.00				4,000.00	
未経過保険料	55.00			(7) 55.00	0.-	
未收金	375.00			(6) 175.00	200.00	
銀行		(14) 1,200.00				1,200.00
支拂手形		3,280.00				3,280.00
仕入先		3,600.00				3,600.00
借入金		2,000.00				2,000.00
未拂金		225.00	(5) 135.00			100.00
未経過割引料		25.00	(8) 25.00			0.-
資本金	(12) 1,000.00	11,000.00				10,000.00
減價消却準備金		750.00	(2) 250.00			500.00
残高勘定	(14) 22,090.00	(13) 22,090.00				0.-
什器減價消却費	(10) 50.00			(1) 50.00	0.-	
不動産減價消却費	250.00			(2) 250.00	0.-	
貸倒金	275.00			(4) 275.00	0.-	
營業費	740.00			(5) 55.00	685.00	
保険料	75.00			(7) 55.00	130.00	
有價証券評價益		(11) 220.00	(3) 220.00			0.-
手数料		200.00				200.00
利子		60.00	(6) 75.00	(5) 80.00		65.00
割引料		60.00		(8) 25.00		85.00
雜損益		170.00	(6) 100.00			70.00
損益勘定	{(11) 710.00 (9) 1,680.00	{(12) 1,000.00 (10) 1,390.00				0.-
仕入商品	(7) 15,620.00				15,620.00	
賣上商品		(9) 14,320.00				14,320.00
繰越商品(期首)	(9) 3,200.00				3,200.00	
	67,780.00	67,780.00	1,185.00	1,185.00	35,420.00	35,420.00

備考 金額の肩につけた数字は問題に於ける仕訳の番號を示す。

(追加問題)

14 銀行	1,200.-	残高勘定	22,090.-
支拂手形	3,280.-		
仕入先	3,600.-		
借入金	2,000.-		
未拂金	235.-		
未経過割引料	25.-		
資本金	11,000.-		
減価消却準備金	750.-		

精算表の形式にて解答は前頁(313頁)にある。

6 次の二つの月計表(合計表)及び備考によりて2月中の1ヶ月分の損益計算を損益勘定口座の形式にて示し且つ其の純損益が如何なる資産負債の増減によりて生ぜしものなるかを明かにせよ。

勘定科目	一月末月計表		二月末月計表		備 考
	借方	貸方	借方	貸方	
資本金		20,000.00		20,000.00	一月末棚卸
什器	1,000.00		1,000.00		什器 900圓
商品	100,000.00	96,000.00	110,000.00	100,000.00	商品 3,600圓
積送品	7,000.00		7,000.00	8,000.00	積送品 7,000圓
現金	10,000.00	9,000.00	16,000.00	12,000.00	二月末棚卸
當座預金	40,000.00	34,000.00	51,000.00	48,000.00	什器 800圓
賣掛金	60,000.00	50,000.00	66,000.00	60,000.00	商品 11,200圓
買掛金	80,000.00	90,000.00	104,000.00	108,000.00	
受取手形	4,500.00	2,000.00	6,000.00	4,000.00	
支拂手形	4,000.00	6,000.00	6,000.00	8,000.00	
給料	300.00		600.00		
雜費	200.00		400.00		
	307,000.00	307,000.00	368,000.00	368,000.00	

(大阪高商部、昭和5年度より。)

二月中の損益及び資産負債の増減は次の通り。

損益勘定

什器	100.00	商品	1,600.00
給料	300.00	積送品	1,000.00
雜費	200.00		
二月の純益	2,000.00		
	2,600.00		2,600.00

勘定科目	一月末	二月末	資産増加又 ハ負債減少	資産減少又 ハ負債増加	備 考
	残高	残高			
什器	900.00	800.00		100.00	棚卸より。
商品	3,600.00	11,200.00	7,600.00		"
積送品	7,000.00	0-		7,000.00	"
現金	1,000.00	4,000.00	3,000.00		月計表より。
當座預金	6,000.00	3,000.00		3,000.00	"
賣掛金	10,000.00	6,000.00		4,000.00	"
買掛金	10,000.00	4,000.00	6,000.00		"
受取手形	2,500.00	2,000.00		500.00	"
支拂手形	2,000.00	2,000.00	0-		"
二月中の純益			16,600.00	14,600.00	
				2,000.00	損益勘定より。
			16,600.00	16,600.00	



精 算 表

番 號	勘 定 科 目	本 店 残 高 表		支 店 残 高 表		合 計	
1	現 金	405.00		630.00		1,035.00	
2	當 座 預 金	2,300.00		3,700.00		6,000.00	
3	賣 掛 金	7,500.00		6,800.00		14,300.00	
4	受 取 手 形	3,250.00				3,250.00	
5	繰越商品(期首)	2,470.00				2,470.00	
6	什 器	1,800.00		1,200.00		3,000.00	
7	建 物	8,500.00		6,500.00		15,000.00	
8	土 地	10,000.00				10,000.00	
9	買 掛 金		8,350.00		6,850.00		15,200.00
10	支 拂 手 形		6,650.00		4,500.00		11,150.00
11	資 本 金		35,000.00				35,000.00
12	仕 入	23,600.00		21,500.00		45,100.00	
13	賣 上		25,900.00		19,200.00		45,100.00
14	營 業 費	1,075.00		720.00		1,795.00	
15	支 店 勘 定	15,000.00				15,000.00	
16	本 店 勘 定				10,500.00		10,500.00
17	繰越商品(期末)						
18	減 價 消 却 費						
19	貸 倒 金						
20	貸 倒 準 備 金						
21	未 拂 營 業 費						
22	當 期 純 益 金						
		75,900.00	75,900.00	41,050.00	41,050.00	116,950.00	116,950.00

修正記入欄解説

- (a) 商品棚卸高、但し本店より支店へ積送せる 2,700 圓を加へる。
- (c) 本支店間の報告未達による取引を整理した記入であつて、本店にて記入未済のものはこれを記入し、支店に於けるそれは支店にて記入したものとて仕譯を示した。この報告未達による記入を完了すれば、本店に於ける支店勘定は借方残 13,200 圓、支店に於ける本店勘定貸方残は 13,200 圓となり、

(問題7の解答)

番 號	修 正 記 入	損 益 表		貸 借 對 照 表	
1	(c) 1,300.00			2,335.00	
2				6,000.00	
3				14,300.00	
4				3,250.00	
5			2,470.00		
6	(b) 300.00			2,700.00	
7	(b) 750.00			14,250.00	
8				10,000.00	
9					15,200.00
10	(c) 500.00				10,650.00
11					35,000.00
12	(c) 2,700.00		47,800.00		
13					45,100.00
14	(d) 230.00		2,025.00		
15	(c) { 1,300.00 500.00				
16	(c) 2,700.00				
17				(a) { 6,070.00 2,700.00	8,770.00
18	(b) { 750.00 300.00		1,050.00		
19	(c) 715.00		715.00		
20	(c) 715.00				715.00
21	(d) 230.00				230.00
22				190.00	190.00
	6,495.00	6,495.00	54,060.00	54,060.00	61,795.00
					61,795.00

兩者同額にて貸借相反するから、合併した貸借対照表にては消去される。若しこの兩勘定の不一致の原因を調査せずして貸借対照表を作成する場合にはその差額を「未達勘定」にて表示する。上記の例では未達勘定は借方残 4,500 圓として貸借対照表に示さる。従つて現金勘定は 1,035 圓、商品勘定は 6,070 圓、支拂手形勘定は 11,150 圓となる。

7 山口商店本支店の3月末日に於ける残高試算表次の如し。

附記の諸事項を参照して、本支店合併貸借対照表及び合併損益計算書を作成せよ。(316-317頁)

本店残高試算表			支店残高試算表		
現金	405 00		本店勘定		10,500 00
建物	8,500 00		什器	1,200 00	
買掛金		8,350 00	建物	6,500 00	
受取手形	3,250 00		支拂手形		4,500 00
仕入商品	23,600 00		仕入商品	21,500 00	
売上商品		25,900 00	売上商品		19,200 00
什器	1,800 00		現金	630 00	
支拂手形		6,650 00	買掛金		6,850 00
賣掛金	7,500 00		賣掛金	6,800 00	
繰越商品	2,470 00		営業費	720 00	
當座預金	2,300 00		當座預金	3,700 00	
支店勘定	15,000 00			41,050 00	41,050 00
営業費	1,075 00				
資本金		35,000 00			
土地	10,000 00				
	75,900 00	75,900 00			

附記事項

- (1) 商品棚卸高 本店 4,270 圓  
支店 1,800 圓
- (2) 本支店共建物 5%, 什器 10% の減價消却を行ふ。
- (3) 本支店共賣掛金 5% の貸倒損失を見積る。
- (4) 本店倉敷料未拂 230 圓を計上す。

(5) 本支店間取引の内通知未達のもの。

(イ) 本店より支店へ商品積送高 2,700 圓

(ロ) 支店より本店へ送金高 1,300 圓

(ハ) 支店に於て本店振出約束手形立替拂 500 圓

(山口, 昭和7年度より)

8 甲及び乙の兩商店次の元帳残高を示すとき兩商店共に現状の儘合同して合名会社を組織し損益は出資額に應じて分配する協議成立したり、仍て合同後に於ける会社の貸借対照表を示すべし。但し會社創立に關する諸経費の内 675 圓は現金拂、250 圓は未拂とす。

甲商店残高試算表

現金	4,225 00	買掛代金	10,705 00
商品	9,935 00	假受金	1,250 00
地所家屋	31,350 00	當座借越	7,570 00
什器	1,175 00	支拂手形	12,300 00
公債	10,350 00	公債賣買損益	420 00
賣掛代金	13,415 00	家屋減價消却準備金	1,050 00
受取手形	8,880 00	滞貸準備金	520 00
利子割引料	1,140 00	手數料	855 00
假拂金	1,550 00	未拂利子	255 00
營業費	2,980 00	資本金	50,000 00
		雜損益	75 00
	85,000 00		85,000 00

- 備考
1. 棚卸商品評價額 13,355 圓
  2. 公債評價額 12,050 圓
  3. 賣掛代金の内 7,160 圓は乙商店に對するもの。
  4. 受取手形の内 3,000 圓は乙商店支拂のもの。

5. 支拂手形の内2,000圓は乙商店宛約束手形とす。

乙商店残高試算表

現金	2,150 00	資本金	15,000 00
當座預金	5,350 00	仕入先	18,540 00
定期預金	10,000 00	支拂手形	12,550 00
商品	10,225 00	借入金	15,000 00
什器	1,315 00	損失準備積立金	2,325 00
得意先	10,520 00	未拂利子	555 00
受取手形	7,245 00	雑損益	250 00
營業費	1,675 00	假受金	1,780 00
株券	15,750 00		
未收利子	725 00		
利子割引料	1,045 00		
	66,000 00		66,000 00

- 備考 1. 棚卸商品 13,175圓  
 2. 株券評價額 15,500圓  
 3. 前拂家賃 220圓 (營業費にて處理せるもの)  
 4. 損失として控除すべきもの  
     什器減價消却 130圓  
     滞貸準備金 550圓  
 5. 受取手形の内2,000圓は甲商店支拂のもの。  
 6. 支拂手形の内3,000圓は甲商店受取のもの。  
 7. 仕入先の内7,160圓は甲商店に對するものとす。  
 先づ合併の前提として甲、乙兩商店に於て決算を行  
 ひ純損益を計算すれば次の如し。

甲商店損益計算書

利子割引料	1,140 00	商品賣買利益	3,420 00
營業費	2,980 00	公債賣買利益	420 00
純利益	2,350 00	手数料	855 00
		公債評價益	1,700 00
		雑損益	75 00
	6,470 00		6,470 00

従つて甲商店の正味資本、即ち新合名會社への出資額は

資本金	50,000.—
純利益	2,350.—
	52,350.—

乙商店損益計算書

營業費	1,455 00	商品賣買利益	2,950 00
減價消却費	130 00	雑損益	250 00
貸倒金	550 00	純損失	230 00
利子割引料	1,045 00		
株券評價損	250 00		
	3,430 00		3,430 00

従つて乙商店の正味資本、即ち新會社への出資額は

資本金	15,000.—
損失準備積立金	2,325.—
	17,325.—
純損失	230.—
	17,095.—

仍て合併の貸借對照表は次の如く計算される。

勘定科目	甲商店	乙商店	合 計	合併ニヨル消去	合併後ノ貸借対照表
地家屋減價消却準備金	31,350.00	1,750.00	31,350.00	1,050.00	31,350.00
什公商受得滞假當定現未甲乙借當支仕未假繰	1,175.00	1,185.00	2,360.00		2,360.00
債株手	12,050.00	15,500.00	27,550.00		27,550.00
取取	13,355.00	13,175.00	26,530.00		26,530.00
意意	8,880.00	7,245.00	16,125.00	5,000.00	11,125.00
貸貸	13,415.00	10,520.00	23,935.00	7,160.00	16,775.00
備備	1,550.00	550.00	1,070.00		1,070.00
預預		5,350.00	5,350.00		5,350.00
利利	4,225.00	10,000.00	10,000.00		10,000.00
本本		2,150.00	6,375.00	675.00	5,700.00
入入		725.00	725.00		725.00
座座	52,300.00		52,350.00		52,350.00
借借		17,050.00	17,095.00		17,095.00
入入		15,000.00	15,000.00		15,000.00
座座	7,570.00		7,570.00		7,570.00
借借	12,300.00		12,550.00		12,550.00
入入	10,705.00		20,245.00	5,000.00	19,850.00
利利	255.00		810.00	7,160.00	22,085.00
受受	1,250.00		3,030.00		810.00
業業		220.00	220.00		3,030.00
費費	86,000.00	66,070.00	152,070.00		220.00
創未				925.00	925.00
				250.00	250.00
					140,100.00
					140,100.00

9 甲の貸借し居たる店舗は昭和5年5月14日火災に罹り、運搬用自動車一臺、金庫一個、現金、手形及び帳簿を除き、商品、店用什器及び設備は焼失又は損傷せり。保険契約少額なりし爲め、甲は事實上破産に瀕したるを以て、翌15日債権者會を開催し、財産状態を報告して一切の處置を同會に一任せり。債権者會は清算を議決し、5月18日關係者一同の調印を了し、別に清算委員を選任して清算に關する一切の手續を之に一任せり。

火災直前に於ける甲の財政状態は下の如し。

資 産		
現 金		1,159.60
商 品		12,460.50
受 取 手 形		
No 1	400.—	
No 2	413.16	813.16
得 意 先		
A	572.40	
B	455.60	
C	1,379.70	
D	141.—	
E	403.—	2,951.70
運搬用自動車		780.—
店用什器及設備		1,026.—
		<u>19,190.96</u>

負債及資本		
支拂手形		
M(受取人)	1,800.—	
N(受取人)	900.—	2,700.—

仕入先		
P	1,500.—	
Q	2,100.—	
R	5,700.—	9,300.—
資本金		7,190.96
		<u>19,190.96</u>

清算委員は昭和5年5月19日より清算に着手し、同月31日之を終了す。其の間に於ける清算取引次の如し。

- (1) 保険会社より下の通り保険金を現金にて受入る。  
 商品 2,234圓  
 店用什器及設備 766圓
- (2) 損傷商品、店用什器及び設備入札賣渡廣告をなし廣告料 245 圓現金にて支拂ふ。
- (3) A, C 及び E より賣掛金を現金にて取立つ。  
 但し 10% の割引をなす。
- (4) 運搬用自動車を S に 700 圓にて、金庫を T に 80 圓にて賣渡し、代金を現金にて受入る。
- (5) B より 410 圓を現金にて受取り、残額は之を免除す。  
 D よりは回収不能となる。
- (6) 入札の結果、商品を 920 圓 50 銭にて、店用什器及び設備を 80 圓にて賣拂ひ、入札手数料 100 圓を差引き、残額を現金にて受入る。
- (7) 雇人給料 60 圓、入札諸雑費 93 圓 80 銭現金にて支拂ふ。
- (8) 受取手形全部を銀行にて割引し、手取金 720 圓を現金にて受入る。
- (9) 清算費用として 657 圓 54 銭を現金にて支拂ふ。
- (10) 手許残金を各債権者に債権額に按分して支拂をな

す。

但し支拂手形は何れも本日満期とす。

仍て

- (一) 上記清算取引に關する仕譯を示し、
- (二) 締切済の各勘定口座を示せ。(高松、昭和6年度より。)

清算取引の仕譯

1	現金	3,000.—	未決算	3,000.—
2	清算損益	245.—	現金	245.—
3	現金	2,119.59	賣掛金	2,555.10
	清算損益	235.51		
4	現金	780.—	運搬設備	780.—
	清算損益	80.—	什器設備	80.—
5	現金	410.00	賣掛金	596.60
	清算損益	186.60		
6	現金	900.50	商品	12,460.50
	未決算	3,000.00	什器設備	946.00
	清算損益	9,506.00		
7	清算損益	153.80	現金	153.80
8	現金	720.—	受取手形	813.16
	清算損益	93.16		
9	清算損益	657.54	現金	657.54
10	支拂手形	2,700.—	現金	8,033.35
	買掛金	9,300.—	清算損益	3,966.65

最後に清算損失と資本金とを相殺する。

11	資本金	7,190.96	清算損益	7,190.96
----	-----	----------	------	----------

次に元帳口座の内、現金勘定と清算損益勘定とを示し、他は省略する。

現 金

清算前残高	1,159 60	2 廣 告 料	245 00
1 未 決 算	3,000 00	7 給 料 雜 費	153 80
3 賣 掛 金	2,119 59	9 清 算 費 用	657 54
4 運搬設備、什器設備	780 00	10 支手及買掛金支拂	8,033 35
5 賣 掛 金	410 00		
6 商 品、什 器	900 50		
8 受 取 手 形	720 00		
	9,089 69		9,089 69

清 算 損 益

2 廣 告 料	245 00	10 支手及買掛金切捨	3,966 65
3 賣掛金割引	235 51	11 資 本 金	7,190 96
4 運搬設備及金庫處分	80 00		
5 賣掛金損失	186 60		
6 商品什器損失	9,506 00		
7 給料雜費	153 80		
8 受手割引料	93 16		
9 清算費用	657 54		
	11,157 61		11,157 61

10 下記の如き元帳口座尻を有する某組合に於て解散を決定せり。附記要項に基きて

- (a) 清算に關する一切の仕譯を示し、
- (b) 營業損益勘定・清算損益勘定の記入及び締切を爲し、
- (c) 甲資本金勘定・乙資本金勘定・丙資本金勘定の記入及び締切を示せ。

元 帳 口 座 尻

借 方		貸 方	
現 金	2,352.—	甲 資 本 金	50,000.—
當 座 預 金	3,286.—	乙 資 本 金	30,000.—
商 品	35,729.—	丙 資 本 金	20,000.—
受 取 手 形	75,000.—	借 入 金	50,000.—
營 業 用 土 地	25,000.—	支 拂 手 形	48,650.—
營 業 用 建 物	15,000.—	手 數 料	2,110.—
利 子 及 割 引 料	2,360.—	公 債 賣 買 損 益	850.—
營 業 費	5,208.—	建 物 減 價 消 却 準 備 金	5,800.—
什 器	2,500.—	仕 入 先	98,325.—
公 債 證 書	93,000.—	積 立 金	48,700.—
得 意 先	95,000.—		

附記要項

1. 諸分配は甲 5、乙 3、丙 2 の割合とす。
2. 未拂營業費 320 圓、未拂利子 1,350 圓あるを以て現金にて支拂ふ。
3. 未收利子(當座預金に對するもの)56 圓 50 錢あり。
4. 商品現在高 38,700 圓
5. 手許商品を 37,000 圓にて賣捌き現金を受入る。
6. 諸什器を賣却し現金 1,850 圓を得。
7. 受取手形は某銀行に讓渡し、割引料 1,825 圓を差引き現金を受入る。
8. 賣掛金は平均 2% 引にて取立て現金を受入る。
9. 支拂手形は全額現金にて支拂ひ、980 圓の割引を受く。
10. 買掛金は合計 500 圓の割引を受け全額現金にて支拂ふ。
11. 借入金は全額を現金にて返済す。
12. 營業用土地及び建物は帳簿價額の 5% の値引を以て賣

却し現金を受入る。

13. 當座預金を引出し、現金及び所有公債は現物のまゝ分配を爲す。

先づ決算を行ひ營業損益勘定を示す。

營業損益勘定

營業費	5,528.00	手数料	2,110.00
利子及割引料	3,710.00	公債證書賣買損益	850.00
		利子及割引料	56.50
		商 品	2,971.00
	<u>9,238.00</u>		5,987.50
		甲 資 本 金	1,625.25
		乙 資 本 金	975.15
		丙 資 本 金	650.10
	<u>9,238.00</u>		<u>9,238.00</u>

次に清算に要する仕課を擧げる。番號は附記要項の番號による。

(2)	未拂營業費	320.—	現 金	1,670.—
	未拂利子	1,350.—		
(5)	現 金	37,000.—	商 品	38,700.—
	清算損益	1,700.—		
(6)	現 金	1,850.—	什 器	2,500.—
	清算損益	650.—		
(7)	現 金	73,175.—	受取手形	75,000.—
	清算損益	1,825.—		
(8)	現 金	93,100.—	得意先	95,000.—
	清算損益	1,900.—		
(9)	支拂手形	48,650.—	現 金	47,670.—
			清算損益	980.—
(10)	仕 入 先	98,325.—	現 金	97,825.—
			清算損益	500.—

(11)	借 入 金	50,000.—	現 金	50,000.—
(12)	現 金	38,000.—	營業用土地	25,000.—
	減價消却準備金	5,800.—	營業用建物	15,000.—
			清算損益	3,800.—

次に清算損益勘定を締切り資本金勘定に振替ふ。

清算損益勘定

商 品	1,700.00	支拂手形	980.00
什 器	650.00	仕 入 先	500.00
受取手形	1,825.00	土 地 建 物	3,800.00
得 意 先	1,900.00		
	<u>6,075.00</u>		<u>5,280.00</u>
		甲 資 本 金	397.50
		乙 資 本 金	238.50
		丙 資 本 金	159.00
	<u>6,075.00</u>		<u>6,075.00</u>

甲 資 本 金	397.50	清算損益	795.00
乙 資 本 金	238.50		
丙 資 本 金	159.—		

茲に便宜上積立金を各組合員の資本金に振替ふ。

積立金	48,700.—	甲 資 本 金	24,350.—
		乙 資 本 金	14,610.—
		丙 資 本 金	9,740.—

次に當座預金引出の仕課は

(13)	現 金	3,342.50	當座預金(利子共)	3,342.50
------	-----	----------	-----------	----------

茲に到つて現金勘定公債證書勘定と甲乙丙三人の資本金勘定とが残高を持ち、現金、公債を組合員に分配すれば次の通り。

甲 資 本 金	72,327.25	現 金	51,654.50
乙 資 本 金	43,396.55	公 債 證 書	93,000.—
丙 資 本 金	28,930.90		

この仕譯の結果、現金、公債證書及び甲、乙、丙三人の資本金勘定の締切られること次の如くである。

現 金		公 債 證 書	
2,352.00	(2) 1,670.00	93,000.00	(13) 93,000.00
(5) 37,000.00	(9) 47,670.00		
(6) 1,850.00	(10) 97,825.00		
(7) 73,175.00	(11) 50,000.00		
(8) 93,100.00			
(12) 38,000.00			
(13) 3,342.50			
248,819.50	197,165.00		
	(13) 51,654.50		
248,819.50	248,819.50		

#### 甲 資 本 金

營業損益	1,625.25	積立金	50,000.00
清算損益	397.50		24,350.00
現金及公債	72,327.25		
	74,350.00		74,350.00

#### 乙 資 本 金

營業損益	975.15	積立金	30,000.00
清算損益	238.50		14,610.00
現金及公債	43,363.35		
	44,610.00		44,610.00

#### 丙 資 本 金

營業損益	650.10	積立金	20,000.00
清算損益	159.00		9,740.00
現金及公債	28,930.90		
	29,740.00		29,740.00

## 第七篇 記帳例題

### 第一例題 A

主要帳簿 { 仕譯帳一約12頁  
元帳一現金・當座預金・商品・當座借越  $\frac{1}{2}$  頁  
本田商店・木谷商店・受取手形・鈴谷商店  
支拂手形・營業費  $\frac{1}{3}$  頁, 其他  $\frac{1}{4}$  頁 (344頁)

補助帳簿一當座勘定帳 (351頁)

#### 4月の取引

1日 甲野一郎と乙山二郎の兩名は組合の契約を結び鐵鋼商を始む。損益は出資額に應じて分配する定めにて兩組合員の出資は次の通り。

甲野一郎出資 甲野一郎の個人營業に屬する一切の財産にしてその内譯は次の如し。

現金 手許有高	348 圓
當座預金 精華銀行預金	2,450 圓
井口商店賣掛代金	1,050 圓
本田商店賣掛代金	580 圓
木谷商店賣掛代金	1,200 圓
林商店振出甲野受取三島商店引受	
期日4月25日の爲替手形	500 圓
本田商店振出甲野受取後藤商店引受	
期日5月15日の爲替手形	1,000 圓



商品手持高

丸鋼 12m.m. 25匁 10圓20錢替	2,550 圓
同上 16m.m. 12匁 10圓10錢替	1,212 圓

(建値は百匁を單位とす)

電話・金庫・机・椅子・其他什器一式	1,300 圓
營業用家屋	3,500 圓

家屋の火災保險金	3,500 圓
に對する保險料の期間未經過高	10 圓

鈴谷商店買掛代金	1,700 圓
岩本商店買掛代金	1,000 圓

甲野振出岩本商店宛	
期日 4 月 10 日の約束手形	3,300 圓

鈴谷商店振出三島商店受取甲野支拂	
期日 4 月 20 日の爲替手形	1,200 圓

野口十郎よりの借入金	3,000 圓
------------	---------

乙山二郎出資	
現金	5,500 圓

(商品は商品勘定にて、賣掛金及び買掛金は人名勘定にて處理せよ。)

- 1 日 五分利公債額面 2,500 圓を 98 圓替にて買入れ、代金 2,450 圓は現金にて支拂ふ。
- 2 日 現金 3,000 圓を當座に預入る。尙ほ銀行と當座借越の契約を結び根抵當として五分利公債額面 2,500 圓を差入る。借越限度 2,000 圓、利子日歩 2 錢

仕 譯 帳

昭和 年 4 月 1 日

1

諸 口		諸 口	
5,848 00	1	現金	鈴谷商店 17 1,700 00
2,450 00	2	當座預金	岩本商店 18 1,000 00
1,050 00	3	井口商店	支拂手形 19 4,500 00
580 00	4	本田商店	借入金 20 3,000 00
1,200 00	5	木谷商店	甲野資本金 22 5,500 00
1,500 00	6	受取手形	乙山資本金 23 5,500 00
3,762 00	10	商 品	
1,300 00	11	什 器	
3,500 00	12	建 物	
10 00	14	未經過保險料	
		(當座勘定帳)	
		"	
10 00	24	營 業 費	未經過保險料 14 10 00
		"	
2,450 00	9	有 價 證 券	現 金 1 2,450 00
		2	
3,000 00	2	當 座 預 金	現 金 1 3,000 00
		(當座勘定帳)	
		次 葉 へ	
26,660 00			26,660 00

5厘の定。

(當座勘定は當座預金勘定と當座借越勘定とに  
分割記帳せよ。)

- 4日 木谷商店へ次の通り掛にて賣渡す。  
丸鋼 12m. m. 10 匁 11圓替 1,100圓
- 5日 岩本商店へ買掛金の支拂として木谷商店支拂岩  
本商店受取期日4月25日の爲替手形1,000圓を振  
出交附す。
- 7日 火災にて營業所類焼す。重要書類・什器類は無事。  
仍て保險會社へ保險金3,500圓の支拂請求をなす。
- 8日 營業所を借入れ敷金150圓を現金にて支拂ふ。  
但し家賃は月50圓の定めとす。
- 10日 鈴谷商店より次の通り掛にて買入る。  
丸鋼 12m. m. 50 匁 9圓90錢替 4,950圓  
上記商品引取諸掛75圓は現金にて支拂ふ。
- "日 岩本商店宛約束手形3,300圓期日につき小切手に  
て支拂ふ。
- "日 野口十郎よりの借入金3,000圓に利子30圓を添へ  
て小切手にて返済す。
- 12日 本田商店より賣掛金殘額580圓を現金にて受取  
り直ちに當座に預入る。
- 13日 本田商店へ次の通り掛にて賣渡す。  
丸鋼 12m. m. 20 匁 10圓90錢替 2,180圓  
同上 16m. m. 10 匁 11圓替 1,100圓

仕 譯 帳

昭和 年 4 月 2 日

2

26,660 00		前 業 ヲ リ		26,660 00
		4		
1,100 00	5	木 谷 商 店	商 品	10 1,100 00
		5		
1,000 00	18	岩 本 商 店	木 谷 商 店	5 1,000 00
		7		
3,500 00	15	未 決 算	建 物	12 3,500 00
		8		
150 00	8	假 拂 金	現 金	1 150 00
		10		
5,025 00	10	商 品	諸 口	
			鈴 谷 商 店	17 4,950 00
			現 金	1 75 00
		"		
3,300 00	19	支 拂 手 形	當 座 預 金	2 3,300 00
			(當 座 勘 定 帳)	
		"		
		諸 口	諸 口	
3,000 00	20	借 入 金	當 座 預 金	2 2,150 00
30 00	25	利 子 割 引 料	當 座 借 越	16 880 00
			(當 座 勘 定 帳)	
		12		
580 00	16	當 座 借 越	本 田 商 店	4 580 00
			(當 座 勘 定 帳)	
		13		
3,280 00	4	本 田 商 店	商 品	10 3,280 00
47,625 00		次 業 へ		47,625 00

- 15日 保険会社より保険金3,500圓を小切手にて受取り  
當座に預入る。
- 17日 鈴谷商店へ次の通り買掛金の支拂をなす。  
當店振出鈴谷商店宛期日5月24日約手1,000圓  
同上 期日6月9日約手2,000圓  
小切手 1,700圓
- 20日 三島商店受取當店支拂の爲替手形1,200圓期日につ  
つき次の通り支拂をなす。  
三島商店支拂の爲替手形裏書讓渡 500圓  
小切手 700圓
- 25日 次の通り賣掛金の内拂を受く。  
本田商店より同店振出當店受取石本商店支拂  
期日5月9日の爲替手形 2,500圓  
井口商店より小切手受入、直ちに當座に  
預入 1,000圓
- 28日 三田商店へ次の通り現金にて賣渡す。  
丸鋼 16m.m. 2 匁 11圓20錢替 224圓
- 29日 營業所建築の爲め建築費用として2,500圓を小切  
手にて支拂ふ。
- 30日 本田商店より賣掛金の内拂として現金780圓を  
受取る。
- "日 倉敷料・商品引渡諸掛・給料家賃其他諸雜費合計  
220圓を現金にて支拂ふ。(營業費勘定を用ふ)
- "日 現金800圓を當座に預入る。

仕 譯 帳

昭和 年 4 月 13 日

3

47,625 00		前 業 ヲ リ		47,625 00
		15		
		諸 口	未 決 算	15 3,500 00
3,200 00	2	當 座 預 金		
300 00	16	當 座 借 越		
		(當 座 勘 定 帳)		
		17		
4,700 00	17	鈴 谷 商 店	諸 口	
			支 拂 手 形	19 3,000 00
			當 座 預 金	2 1,700 00
		(當 座 勘 定 帳)		
		20		
1,200 00	19	支 拂 手 形	諸 口	
			受 取 手 形	6 500 00
			當 座 預 金	2 700 00
		(當 座 勘 定 帳)		
		25		
2,500 00	6	受 取 手 形	本 田 商 店	4 2,500 00
		"		
1,000 00	2	當 座 預 金	井 口 商 店	3 1,000 00
		(當 座 勘 定 帳)		
		28		
224 00	1	現 金	商 品	10 224 00
		29		
2,500 00	13	新 築 費	諸 口	
			當 座 預 金	2 1,800 00
			當 座 借 越	16 700 00
		(當 座 勘 定 帳)		
		30		
780 00	1	現 金	本 田 商 店	4 780 00
		"		
220 00	24	營 業 費	現 金	1 220 00
		"		
		諸 口	現 金	1 800 00
100 00	2	當 座 預 金		
700 00	16	當 座 借 越		
		(當 座 勘 定 帳)		
65,049 00		次 業 へ		65,049 00

5月の取引

- 1日 八幡製鋼所より次の通り買入の約定をなし、手附金 300 圓を小切手にて支拂ふ。  
角鋼 12m. m. 50 匁 9 圓 70 錢替
- 2日 石本商店支拂當店受取の爲替手形 2,500 圓を銀行にて割引し、割引料 5 圓(日歩 2 錢 10 日間)を差引き手取金は當座に預入る。
- 5日 山川商店へ次の通り賣渡し、代金は同店振出當店宛期日 6 月 5 日の約束手形にて受取る。  
丸鋼 12m. m. 10 匁 10 圓 90 錢替 1,090 圓
- 8日 木谷商店より賣掛金の内拂として小切手 1,300 圓を受取り當座に預入る。
- 10日 八幡製鋼所より約定品を引取り、代金は手附金 300 圓を差引き小切手にて支拂ふ。  
角鋼 12m. m. 50 匁 9 圓 70 錢替 4,850 圓  
上記商品引取諸掛 100 圓小切手にて支拂ふ。
- 12日 本田商店へ次の通り掛にて賣渡す。  
丸鋼 12m. m. 20 匁 10 圓 80 錢替 2,160 圓  
角鋼 12m. m. 15 匁 10 圓 80 錢替 1,620 圓
- 15日 後藤商店支拂の爲替手形 1,000 圓期日につき同店へ呈示して支拂を求めたるに、支拂を拒絶されたるにつき、拒絶證書を作成し振出人本田商店へ償還請求をなす。拒絶證書作成費 2 圓は現金にて支拂ふ。

仕 譯 帳  
昭和 年 4 月 30 日

4

65,049 00		前 業 ヲ リ		65,049 00
		5/1		
300 00	8	假 拂 金	諸 口 <sup>(1)</sup>	
			當 座 預 金	2 100 00
			當 座 借 越	16 200 00
		(當 座 勘 定 帳)		
		2		
		諸 口	受 取 手 形	6 2,500 00
2,295 00	2	當 座 預 金		
200 00	16	當 座 借 越		
5 00	25	利 子 割 引 料		
		(當 座 勘 定 帳)		
		5		
1,090 00	6	受 取 手 形	商 品	10 1,090 00
		8		
1,300 00	2	當 座 預 金	木 谷 商 店	5 1,300 00
		(當 座 勘 定 帳)		
		10		
4,950 00	10	商 品	諸 口 <sup>(2)</sup>	
			當 座 預 金	2 3,595 00
			當 座 借 越	16 1,055 00
			假 拂 金	8 300 00
		(當 座 勘 定 帳)		
		12		
3,780 00	4	本 田 商 店	商 品	10 3,780 00
		15		
1,002 00	7	不 渡 手 形	諸 口	
			受 取 手 形	6 1,000 00
			現 金	1 2 00
79,971 00		次 業 へ		79,971 00

(1) 賣買約定を示す爲めに、借方「買入約定品」、貸方「人名勘定」(八幡製鋼所)の仕譯をすることが出来る。この場合には手附金は假拂金勘定によらず、人名勘定から差引くのである。

(2) 1 日の取引に於て「買入約定品勘定」を用ひた場合には、これを商品勘定に振替へる仕譯と、代金決算の仕譯とを必要とする。

- 17日 本田商店へ償還請求をなしたる手形代金1,000圓に拒絶證書作成費2圓を加へて同店振出小切手にて支拂を受け、小切手は當座に預入る。但し延滞利子は免除す。
- 20日 山川商店振出約束手形1,090圓期日につき小切手を受取り、當座に預入る。
- 22日 木谷商店へ次の通り掛にて賣渡す。  
角鋼 12m.m. 25觔 10圓90錢替 2,725圓
- 24日 鈴谷商店宛約束手形1,000圓期日につき小切手にて支拂ふ。
- 25日 木谷商店より賣掛金の内拂として同店振出當店宛期日6月25日の約束手形1,225圓を受取る。
- 28日 本田商店より賣掛金の内拂として現金2,000圓を受取り直ちに當座に預入る。
- 30日 現金350圓を當座より引出す。
- 31日 倉敷料商品引渡諸掛給料家賃其他諸雜費合計205圓を現金にて支拂ふ。
- "日 本日決算を行ふ。その要項次の如し。
- (a) 商品棚卸高  
丸鋼 12m.m. 15觔 10圓05錢替 1,507圓50錢  
角鋼 12m.m. 10觔 9圓90錢替 990圓
- (b) 什器 減價 30圓
- (c) 井口商店賣掛金殘額回收不能 50圓
- (d) 營業費未拂高 29圓50錢

仕 譯 帳  
昭和 年 5 月 15 日

79,971 00		前 業 ヲ リ		79,971 00
		17		
1,002 00	16	當 座 借 越 (當 座 勘 定 帳)	不 渡 手 形	7 1,002 00
		20		
1,037 00	2	諸 口	受 取 手 形	6 1,090 00
53 00	16	當 座 預 金 當 座 借 越 (當 座 勘 定 帳)		
		22		
2,725 00	5	木 谷 商 店	商 品	10 2,725 00
		24		
1,000 00	19	支 拂 手 形 (當 座 勘 定 帳)	當 座 預 金	2 1,000 00
		25		
1,225 00	6	受 取 手 形	木 谷 商 店	5 1,225 00
		28		
2,000 00	2	當 座 預 金 (當 座 勘 定 帳)	本 田 商 店	4 2,000 00
		30		
350 00	1	現 金 (當 座 勘 定 帳)	當 座 預 金	2 350 00
		31		
205 00	24	營 業 費	現 金	1 205 00
89,568 00				89,568 00
		"		
959 50	10	商 品	損 益 勘 定	27 959 50
		"		
30 00	24	營 業 費	什 器	11 30 00
		"		
50 00	26	貸 倒 金	井 口 商 店	3 50 00
		"		
29 50	24	營 業 費	未 拂 營 業 費	21 29 50
90,637 00		次 業 へ		90,637 00

5月31日 損益勘定へ集合の記入

純利益處分の記入

6月の取引

3日 株式会社昭和商店へ組合の營業を譲渡することとなり組合を解散す。仍て5月31日の貸借對照表に基き、現金及び未拂營業費を控除して總ての資産・負債の引渡を終り、その對價として同株式會社の株式 950株、一株額面50圓その $\frac{1}{4}$ 拂込濟のもの 11,875圓を受取る。

5日 未拂營業費29圓50錢を現金にて支拂ふ。

〃日 昭和商店の株式及び現金を甲野及び乙山の兩組合員に等額に分配し、帳簿を締切つて組合解散の事務を終了す。

仕 譯 帳

昭和 年 5 月 31 日

6

90,637 00		前 業 ヲ リ		90,637 00
579 50	27	損 益 勘 定	諸 口	
			營 業 費	24 494 50
			利 子 割 引 料 金	25 35 00
			貸 倒 金	26 50 00
			"	
380 00	27	損 益 勘 定	諸 口	
			甲 野 資 本 金	22 190 00
			乙 山 資 本 金	23 190 00
91,596 50				91,596 50

昭和 年 6 月 3 日

7

1,950 00	17	諸 口	諸 口	2 1,687 00
2,000 00	19	鈴 谷 商 店	當 座 預 金	4 1,780 00
11,875 00	28	支 拂 手 形	本 田 商 店	5 1,500 00
		昭 和 商 店 株 式	木 谷 商 店	6 1,225 00
			受 取 手 形	8 150 00
			假 拂 金	9 2,450 00
			有 價 證 券	10 2,497 50
			商 什 器	11 1,270 00
			新 築 費	13 2,500 00
		(當 座 勘 定 帳)	損 益 勘 定 <sup>(3)</sup>	27 765 50
29 50	21	未 拂 營 業 費	現 金	1 29 50
765 50	27	損 益 勘 定	諸 口	
			甲 野 資 本 金	22 382 75
			乙 山 資 本 金	23 382 75
			"	
6,072 75	22	諸 口	諸 口	28 11,875 00
6,072 75	23	甲 野 資 本 金	昭 和 商 店 株 式	
		乙 山 資 本 金	現 金	1 270 50
28,765 50				28,765 50

(3) この「損益勘定」は暖簾賣却による利益を示す。この金額は譲渡した資産合計15,059圓50錢と負債合計 3,950圓との差額11,109圓50錢の正味財産に引換へて昭和商店の株式11,87圓拂込濟のものを得たから生じたのである。

(14) 總勘定元帳 現金 1

4	1	諸商本店	口品店金	1	5,848 00	4	1	有價証券	1	2,450 00
	28			3	224 00		2	預拂業	2	3,000 00
	30			5	780 00		8	業費	2	150 00
	5			5	350 00		10	諸口形費	3	75 00
							30	諸口形費	3	220 00
							5	諸口形費	4	800 00
							15	諸口形費	4	2 00
							31	諸口形費	5	205 00
					7,202 00			殘高	7	6,902 00
								未拂業費口	7	300 00
6	1	繰越	繰越	6	300 00	6	5	諸口	7	7,202 00
									7	29 50
									7	270 50
									7	300 00

(13) 當座預金 2

4	1	諸現未井現受木受本	口金算店金形店形店	1	2,450 00	4	10	支拂手形	2	3,300 00
	2			3	3,000 00		17	諸口形費	3	2,150 00
	15			3	3,200 00		20	諸口形費	3	1,700 00
	25			4	1,000 00		29	諸口形費	4	700 00
	30			4	100 00		5	諸口形費	4	1,800 00
	5			4	2,295 00		1	諸口形費	4	100 00
	2			5	1,300 00		10	諸口形費	5	3,595 00
	8			5	1,307 00		24	諸口形費	5	1,000 00
	20			5	2,000 00		30	諸口形費	5	350 00
	28				16,382 00			殘高	7	14,695 00
							31	諸口	7	1,687 00
6	1	繰越	繰越	6	1,687 00	6	3	諸口	7	16,382 00
									7	1,687 00

井口商店 3

4	1	諸口	1	1,050 00	4	25	當座預金	3	1,000 00	
					5	31	貸倒金	5	50 00	
									5	1,050 00

(4) 口座に必要な最小限度の行數を示す。

(8) 本田商店 4

4	1	諸商	口品	1	580 00	4	12	當座借越	2	580 00
	13			2	3,280 00		25	受取手形	3	2,500 00
	5			4	3,780 00		30	現預金	5	780 00
							5	當座預金	5	2,000 00
					7,640 00			殘高	7	5,860 00
							31	諸口	7	1,780 00
6	1	繰越	繰越	6	1,780 00	6	3	諸口	7	7,640 00
									7	1,780 00

(7) 木谷商店 5

4	1	諸商	口品	1	1,200 00	4	5	岩本商店	2	1,000 00
	4			2	1,100 00		5	當座預金	4	1,300 00
	5			5	2,725 00		25	受取手形	5	1,225 00
					5,025 00			殘高	7	3,525 00
							31	諸口	7	1,500 00
6	1	繰越	繰越	6	1,500 00	6	3	諸口	7	5,025 00
									7	1,500 00

(8) 受取手形 6

4	1	諸本田商店	口品	1	1,500 00	4	20	支拂手形	3	500 00
	25			3	2,500 00		5	諸不渡手形	4	2,500 00
	5			4	1,090 00		15	諸口	5	1,090 00
	25			5	1,225 00		20	諸口	5	1,090 00
					6,315 00			殘高	7	5,090 00
							31	諸口	7	1,225 00
6	1	繰越	繰越	6	1,225 00	6	3	諸口	7	6,315 00
									7	1,225 00

不渡手形 7

5	15	諸口	4	1,002 00	5	17	當座借越	5	1,002 00
---	----	----	---	----------	---	----	------	---	----------

(6) 假 拂 金 8

4 8	現 諸	金 口	2	150 00	5 10	商 品	4	300 00
5 1	諸	口	4	300 00				
				450 00				300 00
					31	殘	高	150 00
6 1	繰	越	✓	150 00	6 3	諸	口	7
								450 00
								150 00

有 價 證 券 9

4 1	現	金	1	2,450 00	5 31	殘	高	✓	2,450 00
6 1	繰	越	✓	2,450 00	6 3	諸	口	7	2,450 00

(11) 商 品 10

4 1	諸	口	1	3,762 00	4 4	木 谷 商 店	2	1,100 00	
10	"	"	2	5,025 00	13	本 田 商 店	"	3,280 00	
5 10	"	"	4	4,950 00	28	木 現 受 本 木	3	224 00	
					5	取 田 谷 手 商 店	4	1,090 00	
					12	商 店	"	3,780 00	
					22	店	5	2,725 00	
				13,737 00				12,199 00	
31	損 益 勘 定		5	959 50	31	殘	高	✓	2,497 50
				14,696 50				14,696 50	
6 1	繰	越	✓	2,497 50	6 3	諸	口	7	2,497 50

什 器 11

4 1	諸	口	1	1,300 00	5 31	營 業 費	5	30 00	
6 1	繰	越	✓	1,270 00	6 3	諸	高	✓	1,270 00
							口	7	1,270 00

建 物 12

4 1	諸	口	1	3,500 00	4 7	未 決 算	2	3,500 00
-----	---	---	---	----------	-----	-------	---	----------

新 築 費 13

4 29	諸	口	3	2,500 00	5 31	殘	高	✓	2,500 00
6 1	繰	越	✓	2,500 00	6 3	諸	口	7	2,500 00

未 經 過 保 險 料 14

4 1	諸	口	1	10 00	4 1	營 業 費	1	10 00
-----	---	---	---	-------	-----	-------	---	-------

未 決 算 15

4 7	建	物	2	3,500 00	4 15	諸	口	3	3,500 00
-----	---	---	---	----------	------	---	---	---	----------

(7) 當 座 借 越 16

4 12	本 田 商 店	2	580 00	4 10	諸	口	2	880 00
15	未 決 算	3	300 00	29	新 築 費	3	700 00	
30	現 金	"	700 00	5 1	假 拂 金	4	200 00	
5 2	受 取 手 形	4	200 00	10	商 品	"	1,055 00	
17	不 渡 手 形	5	1,002 00					
20	受 取 手 形	"	53 00					
			2,835 00				2,835 00	



(6) 鈴谷商店 17

4 17	諸	口	3	4,700 00	4 1	諸	口	1	1,700 00
					10	商	品	2	4,950 00
				4,700 00					6,650 00
5 31	殘	高	✓	1,950 00					
				6,650 00					
6 3	諸	口	7	1,950 00	6 1	繰	越	✓	1,950 00

岩本商店 18

4 5	木谷商店	2	1,000 00	4 1	諸	口	1	1,000 00
-----	------	---	----------	-----	---	---	---	----------

(7) 支拂手形 19

4 10	當座預金	2	3,300 00	4 1	諸	口	1	4,500 00	
20	諸	口	3	1,200 00	17	鈴谷商店	3	3,000 00	
5 24	當座預金	5	1,000 00						
			5,500 00					7,500 00	
31	殘	高	✓	2,000 00					
			7,500 00						
6 3	諸	口	7	2,000 00	6 1	繰	越	✓	2,000 00

借入金 20

4 10	諸	口	2	3,000 00	4 1	諸	口	1	3,000 00
------	---	---	---	----------	-----	---	---	---	----------

未拂營業費 21

5 31	殘	高	✓	29 50	5 31	營業費	5	29 50	
6 5	現	金	7	29 50	6 1	繰	越	✓	29 50

(6) 甲野資本金 22

5 31	殘	高	✓	5,690 00	4 1	諸	口	1	5,500 00
					5 31	損益勘定	6	190 00	
								5,690 00	
6 5	諸	口	7	6,072 75	6 1	繰	越	✓	5,690 00
					5	諸	口	7	382 75
								6,072 75	

(6) 乙山資本金 23

5 31	殘	高	✓	5,690 00	4 1	諸	口	1	5,500 00
					5 31	損益勘定	6	190 00	
								5,690 00	
6 5	諸	口	7	6,072 75	6 1	繰	越	✓	5,690 00
					5	諸	口	7	382 75
								6,072 75	

(6) 營業費 24

4 1	未經過保險料	1	10 00	5 31	損益勘定	6	494 50
30	現	金	3	220 00			
5 31	"	"	5	205 00			
"	什	器	"	30 00			
"	未拂營業費	"	"	29 50			
				494 50			

利子割引料

25

4 10	諸口	2	30 00	5 31	損益勘定	6	35 00
5 2	受取手形	4	5 00				
			35 00				

貸倒金

26

5 31	井口商店	5	50 00	5 31	損益勘定	6	50 00
------	------	---	-------	------	------	---	-------

(8)

損益勘定

27

5 31	營業費	6	494 50	5 31	商品	5	959 50
	利子割引料	"	35 00				
	貸倒金	"	50 00				
	甲野資本金	"	190 00				
	乙山資本金	"	190 00				
			959 50				
6 5	諸口	7	765 50	6 3	諸口	7	765 50

昭和商店株式

28

6 3	諸口	7	11,875 00	6 5	諸口	7	11,875 00
-----	----	---	-----------	-----	----	---	-----------

當座勘定帳

1

4 1	出資	2,450 00		借	2,450 00
2	現金預入	3,000 00		"	5,450 00
10	手形支拂		3,300 00	"	2,150 00
"	借入金元利支拂		3,030 00	貸	880 00
12	賣掛金受入	580 00		"	300 00
15	保険金受入	3,500 00		借	3,200 00
17	買掛金支拂		1,700 00	"	1,500 00
20	手形支拂		700 00	"	800 00
25	小切手預入	1,000 00		"	1,800 00
29	新築費支拂		2,500 00	貸	700 00
30	現金預入	800 00		借	100 00
5 1	手附金支拂		300 00	貸	200 00
2	手形割引	2,495 00		借	2,295 00
8	賣掛金受入	1,300 00		"	3,595 00
10	商品代支拂		4,650 00	貸	1,055 00
17	不渡手形入金	1,002 00		"	53 00
20	手形入金	1,090 00		借	1,037 00
24	手形支拂		1,000 00	"	37 00
28	賣掛金受入	2,000 00		"	2,037 00
30	現金引出		350 00	"	1,687 00
"	本日残高		1,687 00		0 —
		19,217 00	19,217 00		
6 1	前月繰越高	1,687 00		借	1,687 00
3	昭和商店へ引繼		1,687 00		0 —
		1,687 00	1,687 00		

Working Sheet  
昭和 年 5 月 31 日

番號	勘定科目	合計試算表		殘高試算表		番號
1	現金	7,202 00	6,902 00	300 00		1
2	當座預金	16,382 00	14,695 00	1,687 00		2
3	井口商店	1,050 00	1,000 00	50 00		3
4	木田商店	7,640 00	5,860 00	1,780 00		4
5	木谷商店	5,025 00	3,525 00	1,500 00		5
6	受取手形	6,315 00	5,090 00	1,225 00		6
7	不渡手形	1,002 00	1,002 00	0 —		7
8	假拂金	450 00	300 00	150 00		8
9	有價證券	2,450 00		2,450 00		9
10	商 品	13,737 00	12,199 00	1,538 00		10
11	什 器	1,300 00		1,300 00		11
12	建 物	3,500 00	3,500 00	0 —		12
13	新 築 費	2,500 00		2,500 00		13
14	未經過保險料	10 00	10 00	0 —		14
15	未 決 算	3,500 00	3,500 00	0 —		15
16	當座借越	2,835 00	2,835 00		0 —	16
17	鈴谷商店	4,700 00	6,650 00		1,950 00	17
18	岩本商店	1,000 00	1,000 00		0 —	18
19	支拂手形	5,500 00	7,500 00		2,000 00	19
20	借入金	3,000 00	3,000 00		0 —	20
21	未拂營業費					21
22	甲野資本金		5,500 00		5,500 00	22
23	乙山資本金		5,500 00		5,500 00	23
24	營業費	435 00		435 00		24
25	利子割引料	35 00		35 00		25
26	貸倒金					26
		89,568 00	89,568 00	14,950 00	14,950 00	

番號	修正記入	損 益 表	貸借對照表	番號
1			300 00	1
2			1,687 00	2
3	(c) 50 00			3
4			1,780 00	4
5			1,500 00	5
6			1,225 00	6
7				7
8			150 00	8
9			2,450 00	9
10		(a) 959 50	2,497 50	10
11	(b) 30 00		1,270 00	11
12				12
13			2,500 00	13
14				14
15				15
16				16
17			1,950 00	17
18				18
19			2,000 00	19
20				20
21	(d) 29 50		29 50	21
22			5,500 00	22
23			5,500 00	23
24	(b) 30 00 (d) 29 50	494 50		24
25		35 00		25
26	(c) 50 00	50 00		26
	109 50	109 50		
		當期純益金	380 00	380 00
			959 50	959 50
			15,359 50	15,359 50

### 第一例題 B

主要帳簿 { 仕譯帳一約 8 頁  
元帳一當座預金商品  $\frac{1}{2}$  頁, 本田商店・木谷商店・  
受取手形・鈴谷商店・營業費  $\frac{1}{3}$  頁,  
其他  $\frac{1}{4}$  頁 (362 頁より)

#### 6 月の取引

- 1 日 甲野一郎乙山二郎外八名の發起により株式會社昭和商店を設立す。資本金は 100,000 圓, 株數 2,000 株にして一株の金額は 50 圓とす。株式は全部發起人に於て引受を完了す。
- 3 日 株式に對して第一回拂込額面の  $\frac{1}{4}$  を徴收す。  
甲野乙山兩名の引受たる株式 950 株に對する拂込金 11,875 圓は兩人の組合の 5 月 31 日に於ける資産負債(但し現金及び未拂營業費を除く)を總括的に繼承することを以てこれに充て, 他の發起人が引受けたる 1,050 株の拂込金 13,125 圓は現金にて受取り, 直ちに精華銀行の當座に預入る。
- " 日 甲野一郎立替への設立諸經費 250 圓は小切手を振出し支拂ふ。
- 4 日 用度係へ小拂資金として 200 圓を小切手にて前渡しす。(小口現金勘定による。)
- 5 日 本田商店へ次の通り掛にて賣渡す。  
丸鋼 12m.m. 15 廻 11 圓替 1,650 圓

### 仕 譯 帳

昭和 年 6 月 1 日

1

100,000 00	20	未拂込資本金	資 本 金	19	100,000 00
		3			
		諸 口 (5)	諸 口		
14,812 00	1	當 座 預 金	鈴 谷 商 店	14	1,950 00
1,780 00	3	本 田 商 店	支 拂 手 形	16	2,000 00
1,500 00	4	木 谷 商 店	未 拂 込 資 本 金	20	25,000 00
1,225 00	5	受 取 手 形			
150 00	6	假 拂 金			
2,450 00	7	有 價 證 券			
2,497 50	8	商 品			
1,270 00	10	什 器			
2,500 00	11	新 築 費			
765 50	12	暖 簾 (6)			
		"			
250 00	13	創 業 費	當 座 預 金	1	250 00
		4			
200 00	2	小 口 現 金	當 座 預 金	1	200 00
		5			
1,650 00	3	本 田 商 店	商 品	8	1,650 00
131,050 00		次 業 へ			131,050 00

(5) 當座預金の金額は 1,050 株の拂込金 13,125 圓と, 甲野乙山組合からの出資の内に含まれてゐる 1,687 圓との合計である。

(6) 暖簾金額は次のやうに計算される。

交附したる株式拂込金額	¥ 11,875.00
甲野乙山組合の正味資本	¥ 11,330.00
内 控 除	
現 金	¥ 300.00
未拂營業費	" 29.50
	" 270.50
	¥ 11,109.50
	¥ 765.50

- 5日 木谷商店より賣掛金残額1,500圓を小切手にて受取り、當座に預入る。
- 6日 鈴谷商店へ買掛金残額1,950圓を小切手にて支拂ふ。
- "日 岩井商店より本月20日到着の豫定なる次の商品を買入れ、代金は小切手にて支拂ふ。  
 英國製 一級品(1函100 lbs入) 100函 15圓替 1,500圓  
 鋳力板
- 9日 鈴谷商店宛約束手形2,000圓期日につき小切手にて支拂ふ。
- 10日 岩井商店より本月22日到着の豫定なる次の商品を買入れて買入る。  
 英國製 一級品(1函170 lbs入) 250函 28圓替 7,000圓  
 鋳力板
- "日 本田商店より賣掛金の内拂として1,780圓を小切手にて受取り當座に預入る。
- 12日 鈴谷商店より次の通り掛にて買入る。  
 丸鋼 12m.m. 100越 9圓90錢替 9,900圓  
 角鋼 12m.m. 50越 9圓90錢替 4,950圓  
 上記商品引取諸掛 450圓は小切手にて支拂ふ。
- 15日 木谷商店へ次の通り賣渡し、代金の内3,000圓は同店振出當店宛期日7月5日の約束手形にて受取り残額は掛とす。  
 角鋼 12m.m. 40越 11圓20錢替 4,480圓  
 英國製 一級品(100 lbs入) 100函 16圓替 1,600圓  
 鋳力板 (未着品)
- 17日 遠山商店へ次の通り本月25日引渡の約定をなし、

仕 譯 帳  
 昭和 年 6 月 5 日

131,050	00		前 業 ヲ リ		131,050	00
1,500	00	1	當 座 預 金	木 谷 商 店	4	1,500
					6	
1,950	00	14	鈴 谷 商 店	當 座 預 金	1	1,950
					"	
1,500	00	9	未 着 商 品	當 座 預 金	1	1,500
					9	
2,000	00	16	支 拂 手 形	當 座 預 金	1	2,000
					10	
7,000	00	9	未 着 商 品	岩 井 商 店	15	7,000
					"	
1,780	00	1	當 座 預 金	本 田 商 店	3	1,780
					12	
15,900	00	8	商 品	諸 口		
				鈴 谷 商 店	14	14,850
				當 座 預 金	1	450
					15	
			諸 口	諸 口		
3,000	00	5	受 取 手 形	商 品 <sup>(7)</sup>	8	4,480
3,080	00	4	木 谷 商 店	未 着 商 品 <sup>(7)</sup>	9	1,600
					17	
250	00	1	當 座 預 金	假 受 金 <sup>(8)</sup>	17	250
168,410	00		次 業 へ			168,410

(7) 未着商品勘定は混合勘定として處理したが「未着品賣買損益勘定」を特設するが宜ろしい。この場合には未着商賣買損益勘定は元帳の「引出金勘定」と「營業費勘定」との間に受けることとする。

(8) 第一例題 Bに於て買入約定品勘定を擧げたが、この場合には「賣渡約定品勘定」を用ひて、借方「人名勘定」貸方「賣渡約定品」と仕譯することが出来る。この仕譯に於ては手附金は特に假受金勘定を設けず、人名勘定(遠山商店)から差引くのである。

手附金 250 圓を小切手にて受取り當座に預入る。

英國製 一級品(170 lbs入) 100函 32圓替  
 鋳力板

20日 營業所建築費用として1,000圓を小切手にて支拂ふ。

"日 本田商店へ次の通り掛にて賣渡す。

丸鋼 12m. m. 50廻 11圓替 5,500圓

21日 當店振出岩井商店受取本田商店支拂期日7月10日の爲替手形5,000圓を岩井商店へ買掛金の内拂として交附す。

22日 次の通り未着品到着し引取る。

英國製 一級品(170 lbs入) 250函 28圓替 7,000圓  
 鋳力板

關稅陸上費其他諸掛580圓は小切手にて支拂ふ。

25日 遠山商店との約定により次の通り引渡し代金は手附金 250 圓を差引き小切手にて受取り當座に預入る。

英國製 一級品(170 lbs入) 100函 32圓替 3,200圓  
 鋳力板

"日 木谷商店振出約束手形1,225圓期日につき代金は小切手にて受取り、當座に預入る。

"日 鈴谷商店へ次の通り買掛金の内拂をなす。

木谷商店振出約手裏書讓渡 3,000圓

鈴谷商店宛期日7月5日の約手振出交附 5,000圓

小切手振出交附 2,000圓

27日 山川商店へ次の通り賣渡し、代金は同店振出期日7月27日の約束手形にて受取る。

仕 譯 帳

昭和 年 6 月 17 日

3

168,410 00		前 業 ヲ リ		168,410 00
		20		
1,000 00	11	新 築 費	當 座 預 金	1 1,000 00
		"		
5,500 00	3	本 田 商 店	商 品	8 5,500 00
		21		
5,000 00	15	岩 井 商 店	本 田 商 店	3 5,000 00
		22		
7,580 00	8	商 品	諸 口	
			未 着 商 品	9 7,000 00
			當 座 預 金	1 580 00
		25		
		諸 口	商 品 <sup>(9)</sup>	8 3,200 00
2,950 00	1	當 座 預 金		
250 00	17	假 受 金		
		"		
1,225 00	1	當 座 預 金	受 取 手 形	5 1,225 00
		"		
10,000 00	14	鈴 谷 商 店	諸 口	
			受 取 手 形	5 3,000 00
			支 拂 手 形	16 5,000 00
			當 座 預 金	1 2,000 00
201,915 00		次 業 へ		201,915 00

(9) 17日の取引に於て、「賣渡約定品勘定」と「人名勘定」とを用ひたときは、「賣渡約定品勘定」と「商品勘定」との振替へ、及び「人名勘定」と代金決算の勘定との振替の仕譯を必要とする。

丸鋼 12m. m. 20 廻 11 圓 30 錢替 2,260 圓

28 日 家賃 50 圓 及び 給料 80 圓 を 小切手 にて 支拂ふ。

30 日 用度係より小拂資金に關する報告あり。消耗品・倉敷料引渡諸掛電燈料其他雜費合計 180 圓の支拂ありたるにつき小切手を以て同額の補充をなす。

" 日 本日決算を行ふ。その要項次の通り。

(a) 商品棚卸高

丸鋼 12m. m. 30 廻 10 圓 20 錢替 3,060 圓

角鋼 12m. m. 20 廻 10 圓 20 錢替 2,040 圓

英國製 一級品(170 lbs入)150 函 30 圓 32 錢替 4,548 圓  
鋳力板

(b) 未着品棚卸高 皆無

(c) 什器減價 20 圓

(d) 暖簾消却 445 圓 50 錢

(e) 創業費消却 125 圓

(f) 營業費未拂高 20 圓

營業費を損益勘定へ振替へる記入

純益を前期繰越損益勘定へ振替へる記入

仕 譯 帳

昭和 年 6 月 25 日

4

201,915 00		前 業 ヲ リ		201,915 00
		27		
2,260 00	5	受取手形	商 品	8 2,260 00
		28		
130 00	21	營 業 費	當 座 預 金	1 130 00
		30		
180 00	21	營 業 費	當 座 預 金	1 180 00
204,485 00				204,485 00
		"		
1,360 50	8	商 品	損 益 勘 定	22 1,360 50
		"		
100 00	9	未 着 商 品	損 益 勘 定	22 100 00
		"		
20 00	21	營 業 費	什 器	10 20 00
		"		
445 50	22	損 益 勘 定	暖 簾	12 445 50
		"		
125 00	22	損 益 勘 定	創 業 費	13 125 00
		"		
20 00	21	營 業 費	未 拂 營 業 費	18 20 00
		"		
350 00	22	損 益 勘 定	營 業 費	21 350 00
		"		
540 00	22	損 益 勘 定	前 期 繰 越 損 益	23 540 00
207,446 00				207,446 00

總勘定元帳

(15)

當座預金 1

6 3	諸口	1	14,812 00	6 3	創業費	1	250 00
5	木谷商店	2	1,500 00	4	小口現金	"	200 00
10	本田商店	"	1,780 00	6	鈴谷商店	2	1,950 00
17	假受金	"	250 00	"	未着拂手形	"	1,500 00
25	商受取手形	3	2,950 00	9	支拂手形	"	2,000 00
"	"	"	1,225 00	12	商新築費	"	450 00
				20	商新築費	3	1,000 00
				22	商新築費	"	580 00
				25	商新築費	"	2,000 00
				28	商新築費	4	130 00
				30	商新築費	"	180 00
			22,517 00				10,240 00
							12,277 00
7 1	總越	✓	12,277 00				22,517 00

小口現金 2

6 4	當座預金	1	200 00	6 30	殘高	✓	200 00
7 1	總越	✓	200 00				

(7)

本田商店 3

6 3	諸口	1	1,780 00	6 10	當座預金	2	1,780 00
5	商	"	1,650 00	21	岩井商店	3	5,000 00
20	"	3	5,500 00				
			8,930 00				6,780 00
				30	殘高	✓	2,150 00
							8,930 00
7 1	總越	✓	2,150 00				

(5)

木谷商店 4

6 3	諸口	1	1,500 00	6 5	當座預金	2	1,500 00
15	"	2	3,080 00	30	殘高	✓	3,080 00
			4,580 00				4,580 00
7 1	總越	✓	3,080 00				

(7)

受取手形 5

6 3	諸口	1	1,225 00	6 25	當座預金	3	1,225 00
15	"	2	3,000 00	"	鈴谷商店	"	3,000 00
27	商品	4	2,260 00				
			6,485 00				4,225 00
				30	殘高	✓	2,260 00
							6,485 00
7 1	總越	✓	2,260 00				

假拂金 6

6 3	諸口	1	150 00	6 30	殘高	✓	150 00
7 1	總越	✓	150 00				

有價證券 7

6 3	諸口	1	2,450 00	6 30	殘高	✓	2,450 00
7 1	總越	✓	2,450 00				



(10)		商 品		8			
6 3	諸 口	1	2,497 50	6 5	本 田 商 店	1	1,650 00
12	"	2	15,300 00	15	諸 口	2	4,480 00
22	"	3	7,580 00	20	本 田 商 店	3	5,500 00
				25	諸 口	"	3,200 00
				27	受 取 手 形	4	2,260 00
			25,377 50				17,090 00
30	損 益 勘 定	4	1,360 50	30	殘 高	✓	9,648 00
			26,738 00				26,738 00
7 1	繰 越	✓	9,648 00				

(5)		未 着 商 品		9			
6 6	當 座 預 金	2	1,500 00	6 15	諸 口	2	1,600 00
10	岩 井 商 店	"	7,000 00	22	商 品	3	7,000 00
			8,500 00				8,600 00
30	損 益 勘 定	4	100 00				
			8,600 00				

		什 器		10			
6 3	諸 口	1	1,270 00	6 30	損 益 勘 定	4	20 00
				"	殘 高	✓	1,250 00
							1,270 00
7 1	繰 越	✓	1,250 00				

		新 築 費		11			
6 3	諸 口	1	2,500 00	6 30	殘 高	✓	3,500 00
20	當 座 預 金	3	1,000 00				
			3,500 00				
7 1	繰 越	✓	3,500 00				

		暖 簾		12			
6 3	諸 口	1	765 50	6 30	損 益 勘 定	4	445 50
				"	殘 高	✓	320 00
							765 50
7 1	繰 越	✓	320 00				

		創 業 費		13			
6 3	當 座 預 金	1	250 00	6 30	損 益 勘 定	4	125 00
				"	殘 高	✓	125 00
							250 00
7 1	繰 越	✓	125 00				

(6)		鈴 谷 商 店		14			
6 6	當 座 預 金	2	1,950 00	6 3	諸 口	1	1,950 00
25	諸 口	3	10,000 00	12	商 品	2	14,850 00
			11,950 00				16,800 00
30	殘 高	✓	4,850 00				
			16,800 00				
				7 1	繰 越	✓	4,850 00

**岩井商店**

15

6 21	本田商店	3	5,000 00	6 10	未着商品	2	7,000 00
30	残	高	2,000 00				
				7 1	繰越		2,000 00

**支拂手形**

16

6 9	当座預金	2	2,000 00	6 3	諸口	1	2,000 00
30	残	高	5,000 00	25	鈴谷商店	3	5,000 00
				7 1	繰越		5,000 00

**假受金**

17

6 25	商品	3	250 00	6 17	当座預金	2	250 00
------	----	---	--------	------	------	---	--------

**未拂營業費**

18

6 30	残	高	20 00	6 30	營業費	4	20 00
				7 1	繰越		20 00

**資本金**

19

6 30	残	高	100,000 00	6 1	未拂込資本金	1	100,000 00
				7 1	繰越		100,000 00

**未拂込資本金**

20

6 1	資本金	1	100,000 00	6 3	諸口	1	25,000 00
				30	残	高	75,000 00
7 1	繰越		75,000 00				

(6)

**營業費**

21

6 28	当座預金	4	130 00	6 30	損益勘定	4	350 00
30	"	"	180 00				
			310 00				
"	什器	"	20 00				
"	未拂營業費	"	20 00				
			350 00				

(5)

**損益勘定**

22

6 30	暖簾	4	445 00	6 30	商品	4	1,360 50
	創業費	"	115 50		未着商品	"	100 00
	營業費	"	350 00				
	前期繰越損益	"	540 00				
			1,460 50				1,460 50

**前期繰越損益勘定**

23

6 30	残	高	540 00	6 30	損益勘定	4	540 00
				7 1	繰越		540 00

Working Sheet  
昭和 年 6 月 30 日

勘定科目	合計	試算表	残高試算表	修正記入	損益表	貸借対照表	番號
現金	22,517.00	10,240.00	12,277.00			12,277.00	1
預現	200.00		200.00			200.00	2
座口	8,930.00	6,780.00	2,150.00			2,150.00	3
田谷	4,580.00	1,500.00	3,080.00			3,080.00	4
取	6,485.00	4,225.00	2,260.00			2,260.00	5
價	150.00		150.00			150.00	6
着	2,450.00		2,450.00			2,450.00	7
新	25,377.50	17,030.00	8,287.50			9,648.00	8
暖	1,270.00	8,600.00	1,270.00	(c) 20.00		1,250.00	9
創	3,500.00		3,500.00			3,500.00	10
岩	765.50		765.50			320.00	11
支	250.00		250.00	(d) 445.50		125.00	12
假	11,950.00	16,800.00	4,850.00	(e) 125.00			13
未	5,000.00	7,000.00	2,000.00			4,850.00	14
資	2,000.00	7,000.00	5,000.00			2,000.00	15
本	250.00	250.00	0			5,000.00	16
業				(f) 20.00		20.00	17
費	100,000.00	100,000.00	100,000.00			100,000.00	18
金	25,000.00	25,000.00	75,000.00			75,000.00	19
費	310.00		310.00	(c) 20.00			20
金	204,485.00	204,485.00	111,950.00	(f) 20.00	350.00		21
費				40.00	540.00		
當				40.00	1,400.50		
期					1,460.50		
純					112,410.00		
益					112,410.00		
金					540.00		

第二例題

主要簿帳 { 現金出納帳—9月の取引に用ふ。(375頁)  
現金當座預金出納帳—10月の取引に用ふ。(376頁)  
仕譯帳—約6頁(377—378頁)  
元帳—商品  $\frac{2}{3}$  頁,受取手形・田邊商店・増田商會・  
支拂手形・淺野セメント會社・營業費  $\frac{1}{3}$   
頁,其他  $\frac{1}{4}$  頁(379頁より)

9月の取引

- 1日 現金5,000圓を元入してセメント商を始む。(出納帳,仕譯帳)
- "日 營業所を借入れ,家賃4ヶ月分240圓を現金にて前拂す。(出納帳)
- 3日 電話・金庫・机・椅子其他什器及び造作の代金700圓を現金にて支拂ふ。(出納帳)
- "日 帳簿・文房具其他消耗品を買入れ,代金40圓を現金にて支拂ふ。(營業費勘定を用ふ。)(出納帳)
- 4日 淺野セメント會社より次の通り買入れ,代金は現金にて支拂ふ。(商品勘定を用ふ。)(出納帳)  
淺野セメント 1,000袋(一袋50kg入)1圓10錢替1,100圓
- 7日 増田商會へ次の通り賣渡し,代金は現金にて受取る。(出納帳)  
淺野セメント 200袋 1圓30錢替 260圓
- 9日 田邊商店へ次の通り掛にて賣渡す。(仕譯帳)  
淺野セメント 500袋 1圓30錢替 650圓

(人名勘定を用ふ)

- 10日 宇部セメント会社より次の通り掛にて買入る。(仕譯帳)  
宇部セメント 1,500袋 1圓12錢替 1,680圓
- 12日 岡田商店へ次の通り賣渡し、代金の内 580圓は現金にて受取り、残額は掛とす。(仕譯帳、出納帳)  
浅野セメント 300袋 1圓35錢替 405圓  
宇部セメント 500袋 1圓35錢替 675圓
- 15日 營業諸雜費25圓現金にて支拂ふ。(出納帳)
- 17日 松井商店へ次の通り賣渡し、代金は同店振出當店宛期日10月17日の約束手形にて受取る。(仕譯帳)  
宇部セメント 200袋 1圓35錢替 270圓
- 21日 浅野セメント会社より次の通り掛にて買入る。(仕譯帳)  
浅野高級セメント 1,200袋 1圓30錢替 1,560圓
- 24日 田邊商店より賣掛金 650圓を現金にて受取る。(出納帳)
- 25日 宇部セメント会社へ次の通り買掛金の支拂をなす。(出納帳、仕譯帳)  
當店振出宇部セメント会社宛  
期日10月5日の約束手形 680圓  
現金 1,000圓
- 27日 増田商會へ次の通り掛にて賣渡す。(仕譯帳)  
宇部セメント 400袋 1圓35錢替 540圓
- 30日 三上商店へ次の通り賣渡し、代金の内 250圓は現金にて受取り、残額 500圓は石田商店引受濟期日10月30日の爲替手形を裏書讓受く。(出納帳、仕譯帳)

浅野高級セメント 500袋 1圓50錢替 750圓

"日 倉敷料運賃車力賃・給料電燈料其他諸雜費合計  
335圓を現金にて支拂ふ。

"日 特殊仕譯帳を締切り轉記を行ふ。(出納帳)

●次の要項によつて精算表を作成せよ。(394頁)

- (a) 商品棚卸高  
宇部セメント 400袋 1圓12錢替 448圓  
浅野高級セメント 700" 1圓30錢替 910圓
- (b) 什器造作 減價 10圓
- (c) 前拂家賃 期間經過高 60圓

#### 10月の取引

- 1日 繁榮銀行と當座取引を開始し、現金3,000圓を預入る。(出納帳)
- "日 石田商店支拂當店受取の爲替手形 500圓を銀行にて割引し、割引料3圓(日歩2錢,30日間)を差引き手取金は當座預金とす。(出納帳)
- 2日 浅野セメント会社より次の通り掛にて買入る。(仕譯帳)  
浅野セメント 3,000袋 1圓14錢替 3,420圓
- 4日 増田商會へ次の通り賣渡し、代金の内 350圓は同店振出當店宛期日11月4日の約束手形にて受取り、残額は掛とす。(仕譯帳)  
浅野高級セメント 300袋 1圓50錢替 450圓
- 5日 宇部セメント会社宛約束手形 680圓期日につき

小切手にて支拂ふ。(出納帳)

8日 田邊商店へ次の通り掛にて賣渡す。(仕簿帳)

浅野セメント	600袋	1圓34錢替	804圓
宇部セメント	400袋	1圓34錢替	536圓

9日 浅野セメント會社へ次の通り買掛金の内拂をなす。(出納帳, 仕簿帳)

當店振出増田商會支拂浅野セメント	
會社受取期日10月30日の爲替手形	560圓
當店振出浅野セメント會社宛期日	
10月29日の約束手形	500圓
小切手	500圓

"日 營業諸経費30圓現金にて支拂ふ。(出納帳)

10日 宇部セメント會社より次の通り掛にて買入る。(仕簿帳)

宇部セメント	1,000袋	1圓15錢替	1,150圓
--------	--------	--------	--------

13日 増田商會へ次の通り賣渡し,代金の内300圓は小切手にて受取り銀行に預入れ,残額は掛とす。(出納帳, 仕簿帳)

浅野セメント	1,000袋	1圓30錢替	1,300圓
--------	--------	--------	--------

17日 岡田商店より賣掛金500圓を同店振出岩見商店支拂當店受取期日10月25日の爲替手形にて支拂を受く。同爲替手形は直ちに岩見商店に呈示して引受をなさしむ。(仕簿帳)

"日 松井商店振出當店宛約束手形270圓期日につき代金を小切手にて受取り,當座に預入る。(出納帳)

18日 園部商店へ次の通り現金にて賣渡す。(出納帳)

宇部セメント	500袋	1圓30錢替	650圓
浅野セメント	500袋	1圓30錢替	650圓

20日 次の通り買掛金の内拂をなす。(出納帳)

宇部セメント會社	現金	650圓
浅野セメント會社	小切手	2,000圓

"日 現金800圓を當座に預入る。(出納帳)

21日 浅野セメント會社より次の通り買入れ,代金は期日11月30日の約束手形を振出交附す。(仕簿帳)

浅野高級セメント	1,000袋	1圓35錢替	1,350圓
----------	--------	--------	--------

23日 増田商會より賣掛金の内拂として同店振出當店宛期日11月10日の約束手形800圓を受入る。(仕簿帳)

25日 田邊商店へ次の通り掛にて賣渡す。(仕簿帳)

宇部セメント	300袋	1圓35錢替	405圓
浅野高級セメント	400袋	1圓55錢替	620圓

"日 岩見商店引受當店受取の爲替手形500圓期日につき代金は小切手にて受取り銀行に預入る。(出納帳)

27日 田邊商店より賣掛金の内拂として次の通り受取る。(出納帳, 仕簿帳)

同店振出當店宛期日11月21日の約束手形	1,000圓
現金	365圓

28日 田邊商店振出約束手形1,000圓を銀行にて割引し割引料5圓(日歩2錢25日間)を差引き手取金は當座預金とす。(出納帳)

- 28日 店主私用の爲め現金 150 圓を相渡す。(引出金勘定を用ふ。)(出納帳)
- 29日 浅野セメント會社宛當店振出の約束手形 500 圓期日につき小切手にて支拂ふ。(出納帳)
- 30日 岡田商店へ次の通り賣渡し、代金の内 1,000 圓は小切手にて受取り銀行に預入れ残額は掛とす。

(出納帳, 仕譯帳)

浅野セメント 600袋 1圓35錢替 810圓

浅野高級セメント 800袋 1圓54錢替 1,232圓

- 31日 現金 700 圓を當座預金より引出す。(出納帳)
- "日 倉敷料引渡運賃諸掛給料其他諸雜費 711 圓を現金にて支拂ふ。(出納帳)
- "日 本日決算を行ふ。その要項次の如し。(仕譯帳)

(a) 商品棚卸高

宇部セメント 200袋 1圓15錢替 230圓

浅野セメント 300袋 1圓14錢替 342圓

浅野高級セメント 200袋 1圓35錢替 270圓

(b) 什器造作 減價 2ヶ月分 20圓

(c) 前拂家賃 期間經過高 2ヶ月分 120圓

損益を損益勘定に集める記入

純益及び引出金を資本金へ振替へる記入

備考

營業費の内譯次の通り。

運賃車力賃 725圓 倉敷料 165圓

給料 100圓 家賃 120圓

雜費 151圓 減價消却費 20圓

1

現金出納帳

240 00	700 00	40 00	1,100 00	25 00	1,000 00	335 00	3,440 00	3,370 00	6,740 00
7	9	15	8	15	11	15	1		
金	作	費	品	費	社	費	金	現	金
拂	造	業	業	業	會	業	金	手	許
假	什	器	商	業	社	業	(貸方)	有	高
1	3	"	4	15	25	30	"		
9									
5,000 00	260 00	580 00	650 00	250 00			6,740 00	6,740 00	
√	8	"	3	8			1		
金	品	品	店	品			金		
本			商				(借方)		
資	商	商	日	商					
1	7	12	24	30			"		
9									

決算迄の總取引高	1月末の取引高	12月末の取引高
出納帳		
借方	6,740.-----	{ 6,740.--- 2,365.---
貸方	3,440.-----	{ 3,440.--- 7,370.---
仕譯帳	11,780.-----	25,517.---
合計	21,560.---	55,161.---
差引元入	5,000.---	5,000.---
	元入 5,000.---	9,500.---
	預入, 引出 4,500.---	9,500.---
合計試算表の合計と一致	16,560.---	45,661.---

現金出納帳

2

日付	摘要	元頁	現金	當座預金	日付	摘要	元頁	現金	當座預金
10	受取手形	✓		3,000 00	1	預引手形	✓	3,000 00	
13	受取手形	6		500 00	"	割支	16		3 00
17	受取手形	8		300 00	5	淺野セメント會社	12		680 00
18	受取手形	6		270 00	9	營業	10		500 00
20	受取手形	8	1,300 00	800 00	"	宇部セメント會社	15	30 00	
25	受取手形	✓		500 00	20	淺野セメント會社	11	650 00	
27	受取手形	6		1,000 00	"	割引	10		2,000 00
28	受取手形	3	365 00	1,000 00	28	營業	✓	800 00	
30	受取手形	6		1,000 00	"	割引	16		5 00
31	受取手形	8	700 00		29	營業	14	150 00	500 00
"	(借方)現金及當座預金 前月繰越	1/2	2,365 00	7,370 00	31	營業	✓	711 00	700 00
			3,300 00	0	"		15		
			5,665 00	7,370 00			1/2	5,341 00	4,388 00
								324 00	2,982 00
								5,665 00	7,370 00

仕 譯 帳  
昭和 年 9 月 1 日

1

金額	摘要	金額	摘要	金額
5,000 00	現 金	13	資 本 金	5,000 00
		9		
650 00	田 邊 商 店	8	商 品	650 00
		10		
1,680 00	商 品	11	宇部セメント會社	1,680 00
		12		
500 00	岡 田 商 店	8	商 品	500 00
		17		
270 00	受 取 手 形	8	商 品	270 00
		21		
1,560 00	商 品	10	淺野セメント會社	1,560 00
		25		
680 00	宇部セメント會社	12	支 拂 手 形	680 00
		27		
540 00	増 田 商 會	8	商 品	540 00
		30		
500 00	受 取 手 形	8	商 品	500 00
11,380 00				11,380 00
		10/2		
3,420 00	商 品	10	淺野セメント會社	3,420 00
		4		
	諸 口	8	商 品	450 00
350 00	受 取 手 形	8		
100 00	増 田 商 會	5		
1,340 00	田 邊 商 店	8	商 品	1,340 00
		9		
1,060 00	淺野セメント會社	5	諸 口	560 00
		12	増 田 商 會	500 00
			支 拂 手 形	
17,650 00	次 業			17,650 00

仕 譯 帳

昭和 年10月9日

2

17,650 00		前 業 ヲ リ		17,650 00
		10		
1,150 00	8	商 品	宇部セメント會社	11 1,150 00
		13		
1,000 00	5	増田商會	商 品	8 1,000 00
		17		
500 00	6	受取手形	岡田商店	4 500 00
		21		
1,350 00	8	商 品	支拂手形	12 1,350 00
		23		
800 00	6	受取手形	増田商會	5 800 00
		25		
1,025 00	3	田邊商店	商 品	8 1,025 00
		27		
1,000 00	6	受取手形	田邊商店	3 1,000 00
		30		
1,042 00	4	岡田商店	商 品	8 1,042 00
25,517 00				25,517 00
		31		
1,589 00	8	商 品	損益勘定	17 1,589 00
		"		
20 00	15	營業費	什器造作	9 20 00
		"		
120 00	15	營業費	假拂金	7 120 00
		"		
1,289 00	17	損益勘定	諸 口	
			營業費	15 1,281 00
			割引料	16 8 00
		"		
300 00	17	損益勘定	諸 口	
			資本金	13 150 00
			引出金	14 150 00
28,835 00				28,835 00

總勘定元帳

(6)

現 金

1

9 30	出 納 帳	1	6,740 00	9 30	出 納 帳	1	3,440 00
10 31	"	2	2,365 00	10 31	"	2	5,341 00
			9,105 00		" 殘 高	✓	8,781 00
							324 00
11 1	繰 越	✓	324 00				9,105 00

當座預金

2

10 31	出 納 帳	2	7,370 00	10 31	出 納 帳	2	4,388 00
					" 殘 高	✓	2,982 00
							7,370 00
11 1	繰 越	✓	2,982 00				

(7)

田邊商店

3

9 9	仕 譯 帳	1	650 00	9 24	出 納 帳	1	650 00
10 8	"	"	1,340 00	10 27	"	2	365 00
25	"	2	1,025 00		" 仕 譯 帳	"	1,000 00
			3,015 00				2,015 00
					31 殘 高	✓	1,000 00
							3,015 00
11 1	繰 越	✓	1,000 00				

岡田商店

4

9 12	仕 譯 帳	1	500 00				
10 30	"	2	1,042 00	10 17	仕 譯 帳	2	500 00
			1,542 00				
					31 殘 高	✓	1,042 00
							1,542 00
11 1	繰 越	✓	1,042 00				



(6)		增田商會				5	
9	27	仕 課 帳	1	540 00			
10	4	" "	"	100 00	10	9	仕 課 帳 1 560 00
	13	" "	2	1,000 00	23	" "	2 800 00
				1,640 00			1,360 00
					31	殘 高	✓ 280 00
							1,640 00
11	1	繰 越	✓	280 00			

(10)		受取手形				6	
9	17	仕 課 帳	1	270 00			
	30	" "	"	500 00			
				770 00			
10	4	" "	"	350 00	10	1	出 納 帳 2 500 00
	17	" "	2	500 00	17	" "	" 270 00
	23	" "	"	800 00	25	" "	" 500 00
	27	" "	"	1,000 00	28	" "	" 1,000 00
				3,420 00			2,270 00
					31	殘 高	✓ 1,150 00
							3,420 00
11	1	繰 越	✓	1,150 00			

		假 拂 金				7	
9	1	出 納 帳	1	240 00			
					10	31	仕 課 帳 2 120 00
					"	殘 高	✓ 120 00
11	1	繰 越	✓	120 00			

(20)		商 品				8	
9	4	出 納 帳	1	1,100 00	9	7	出 納 帳 1 260 00
10	4	仕 課 帳	"	1,680 00	9	仕 課 帳	" 650 00
	21	" "	"	1,560 00	12	" "	" 500 00
					"	出 納 帳	" 580 00
					17	仕 課 帳	" 270 00
					27	" "	" 540 00
					30	" "	" 500 00
					"	出 納 帳	" 250 00
				4,340 00			3,550 00
10	2	仕 課 帳	"	3,420 00	10	4	仕 課 帳 " 450 00
	10	" "	2	1,150 00	8	" "	" 1,340 00
	21	" "	"	1,350 00	13	" "	2 1,000 00
					"	出 納 帳	" 300 00
					18	" "	" 1,300 00
					25	仕 課 帳	" 1,025 00
					30	" "	" 1,042 00
				10,260 00	"	出 納 帳	" 1,000 00
					31	殘 高	✓ 842 00
				1,589 00			11,007 00
				11,849 00			11,849 00
11	1	繰 越	✓	842 00			

		什 器 造 作				9	
9	3	出 納 帳	1	700 00			
					10	31	仕 課 帳 2 20 00
					"	殘 高	✓ 680 00
							700 00
11	1	繰 越	✓	680 00			

(7)

## 淺野セメント會社

10

10	9	出納帳	2	500 00	9 21	仕譯帳	1	1,560 00
	"	仕譯帳	1	1,060 00	10 2	"	"	3,420 00
	20	出納帳	2	2,000 00				
				3,560 00				4,980 00
	31	殘高	✓	1,420 00				
				4,980 00				
					11 1	繰越	✓	1,420 00

(7)

## 宇部セメント會社

11

9 25	仕譯帳	1	680 00	9 10	仕譯帳	1	1,680 00
"	出納帳	"	1,000 00				
10 20	"	2	650 00	10 10	"	2	1,150 00
			2,330 00				2,830 00
	31	殘高	✓	500 00			
			2,830 00				
				11 1	繰越	✓	500 00

(5)

## 支拂手形

12

10 5	出納帳	2	680 00	9 25	仕譯帳	1	680 00
29	"	"	500 00	10 9	"	"	500 00
			1,180 00	21	"	2	1,350 00
			1,350 00				2,530 00
	31	殘高	✓	1,350 00			
			2,530 00				
				11 1	繰越	✓	1,350 00

— 392 —

(下巻 第二例題)

## 資本金

13

10 31	殘高	✓	5,150 00	9 1	仕譯帳	1	5,000 00
			5,150 00	10 31	"	"	150 00
				11 1	繰越	✓	5,150 00

## 引出金

14

10 28	出納帳	2	150 00	10 31	仕譯帳	2	150 00
-------	-----	---	--------	-------	-----	---	--------

(9)

## 營業費

15

9 3	出納帳	1	40 00				
15	"	"	25 00				
30	"	"	35 00				
			400 00				
10 9	"	2	30 00				
31	"	"	711 00				
			1,141 00				
"	仕譯帳	"	20 00	10 31	仕譯帳	2	1,281 00
"	"	"	120 00				
			1,281 00				

## 割引料

16

10 1	出納帳	2	3 00				
28	"	"	5 00	10 31	仕譯帳	2	8 00

## 損益勘定

17

10 31	營業費	2	1,281 00	10 31	商品	2	1,589 00
	割引料	"	8 00				
	費料金	"	300 00				
			1,589 00				

(下巻 第二例題)

— 383 —



損益計算書

自昭和 年 9 月 1 日至昭和 年 10 月 31 日

商品賣買損益

商品仕入高	10,260 00	商品賣上高	11,007 00
同期末棚卸高	842 00		
	9,418 00		
同賣買利益	1,589 00		
	11,007 00		11,007 00

營業損益

運賃車力賃	725 00	商品賣買利益	1,589 00
倉敷料	165 00		
給料	100 00		
家賃	120 00		
雑費	151 00		
減價消却費	20 00		
	1,281 00		
營業利益	308 00		
	1,589 00		1,589 00

純損益

割引料	8 00	營業利益	308 00
当期純益金	300 00		
	308 00		308 00

第三例題

主要帳簿 { 現金出納帳—2頁(395—399頁)  
仕入帳賣上帳—2頁宛掛及び現金欄を設く。(397—398頁)  
仕譯帳—8頁(399—401頁)  
元帳—賣掛金買掛金營業費 $\frac{1}{2}$ 頁,其他 $\frac{1}{4}$ 頁(401頁より)

補助帳簿—仕入先元帳及び得意先元帳各口座 $\frac{1}{3}$ 頁(412頁より)

11月の取引

- 1日 次の通り元入して石油商を始む。(出納帳,仕譯帳)  
定期預金 朝日銀行預入期限來年1月  
末日利率年4.5% 3,000圓  
現金 7,000圓
- "日 營業所を借入れ,家賃1ヶ月分40圓を現金にて支拂ふ。(營業費勘定を用ふ。)(出納帳)
- "日 營業所に造作を施し,代金500圓を現金にて支拂ふ。(造作勘定を用ふ。)(出納帳)
- 2日 什器一式を買入れ,代金1,200圓を現金にて支拂ふ。(出納帳)
- "日 營業諸經費27圓40錢を現金にて支拂ふ。(出納帳)
- 3日 東山商店より次の通り現金にて買入る。(出納帳,仕入帳)  
揮發油 赤貝印 300函 4圓90錢替 1,470圓
- "日 西川商店より次の通り現金にて買入る。(出納帳,仕入帳)  
燈油 虎印 200函 4圓替 800圓
- 5日 日吉商店へ次の通り現金にて賣渡す。(出納帳,賣上帳)  
揮發油 赤貝印 100函 5圓20錢替 520圓